

教科名	国語科	科目名	現代文B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年 普通科 特別進学コースα		履修形態	必修	授業形態	講義・演習
学習目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、自ら表現し読書することによって人生を豊かにする姿勢を育てる。					
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を行って、理解を深めさせるよう考慮する。					
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。					
使用教材	三省堂『精選 現代文B 改訂版』、『精選 国語総合 改訂版』 その他自主教材					
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	学 習 項 目		時間数	学 習 到達 目 標		
4	小説三	「なめとこ山の熊」	10	賢治作品の同話的な語り愚痴のおもしろさに興味を持ち、「なめとこ山」という特殊な部隊空間の中で展開される人間と動物の共生について考えをめぐらし、人間観を深める。		
5	小説三	「空缶」 《中間考査》	10	人物の心情や行動を理解し、場面の推移を捉えながら、登場人物の原爆との向き合い方について理解しようとする。とくに、「私」を含めた六人が過ごしてきた戦後と心情の変化理を理解し、自分の考えをもとうとしている。		
6	評論三	「なぜ私たちは労働するのか」	6	筆者が述べる「働くことの意味」について理解を深めようとし、「労働」は「私ひとり」が受益者ではないことを理解させる。		
		「命は誰のものなのか」	7	筆者が述べる、分配されたものとしての「命」という考え方を理解し、引用事例や筆者の論理展開に着目する。		
7	評論三	「想像力の行方」 《期末考査》	7	筆者が述べる「創造」の本質を理解しようとし、筆者の論理展開に注目して、筆者が述べようとする内容を理解し、論理展開を読み解く力を養う。		
8	小説一	「山月記」	4	虎の姿に託して描かれた人間性とは何かを考え、親友との出会いと対話によって、自尊心で固く閉ざされていた心を開いていく主人公李徴の心のありようを捉える。		
9	小説一	「山月記」	4	漢語的な表現や語句の意味についての理解を深めると共に、人物の心情を理解しながら文章を読めるようにする。		
		「月火水木金土日」	9	「月火水木金土日」という物語の構成の面白さを理解すると共に、「わたし」の変化や注目し、擬態語の表現効果を理解する。		
10	評論一	「ミロのヴィーナス」 《中間考査》	10	ミロのヴィーナスが両腕の欠落によって普遍的な美を獲得したのであり、失われた手が逆に可能な手への夢を奏で人間味を感じさせるという、作者の論理展開を理解する。		
11	評論一	「未来世代への責任」 《期末考査》	10	現代世代が未来世代の利益を考慮して自己利益の追求を抑える倫理的存在にならなければ、環境問題は解決しないという筆者の主張を理解し、未来の世代に何ができるのかについて個々に考えられるようにする。		
12	評論一	「恐怖とは何か」	7	「自我」をキーワードとして、人間の「恐怖」を具体例として理解できるようにする。特に人間の精神構造という形而上的な問題にも目を向け、自分の内面を見つめることで理解を深めるようにする。		
1	評論二	「メディアと歴史」	7	「メディア」の現代に至る変遷と、「機械文明」「技術文明」としての現代社会の特徴を読み取れるようにする。		
	入試対策	自主教材	3	実際の大学入試問題に触れることにより特に評論文の読み方について学び、論理的思考を養う。		
2	評論二	「木の葉と光」	6	筆者の提唱する「環世界」の具体的概念・抽象的概念を理解し、環境問題についてどのように考えたら良いかまとめる。		
	入試対策	自主教材	7	実際の大学入試問題に触れることにより小説や随想などをキーワードや頻出後に注意して読めるようにする。		
3	評論二	「コンクリートの時代」	6	二十一世紀のテーマであるグローバリゼーションを建築の領域で可能にしたのはコンクリートであることを理解する。		
	入試対策	自主教材	4	大学入試センター試験などを扱い、評論文や小説の出題パターンに慣れるようにして、論理的に解く力を養っていく。		

教科名	国語科	科目名	現代文B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年 普通科 特別進学コースβ		履修形態	必修	授業形態	講義・演習
学習目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、自ら表現し読書することによって人生を豊かにする姿勢を育てる。					
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を行って、理解を深めさせるよう考慮する。					
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。					
使用教材	三省堂『精選 現代文B 改訂版』、『精選 国語総合 改訂版』 その他自主教材					
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	学 習 項 目		時間数	学 習 到 達 目 標		
4	小説三	「なめとこ山の熊」	10	賢治作品の同話的な語り愚痴のおもしろさに興味を持ち、「なめとこ山」という特殊な部隊空間の中で展開される人間と動物の共生について考えをめぐらし、人間観を深める。		
5	小説三	「空缶」 《中間考査》	10	人物の心情や行動を理解し、場面の推移を捉えながら、登場人物の原爆との向き合い方について理解しようとする。とくに、「私」を含めた六人が過ごしてきた戦後と心情の変化を理解し、自分の考えをもとうとしている。		
6	評論三	「なぜ私たちは労働するのか」	6	筆者が述べる「働くことの意味」について理解を深めようとし、「労働」は「私ひとり」が受益者ではないことを理解させる。		
		「命は誰のものなのか」	7	筆者が述べる、分配されたものとしての「命」という考え方を理解し、引用事例や筆者の論理展開に着目する。		
7	評論三	「想像力の行方」 《期末考査》	7	筆者が述べる「創造」の本質を理解しようとし、筆者の論理展開に着目して、筆者が述べようとする内容を理解し、論理展開を読み解く力を養う。		
8	小説一	「山月記」	4	虎の姿に託して描かれた人間性とは何かを考え、親友との出会いと対話によって、自尊心で固く閉ざされていた心を開いていく主人公李孝徴の心のありようを捉える。		
9	小説一	「山月記」	4	漢語的な表現や語句の意味についての理解を深めると共に、人物の心情を理解しながら文章を読めるようにする。		
		「月火水木金土日」	9	「月火水木金土日」という物語の構成の面白さを理解すると共に、「わたし」の変化や注目し、擬態語の表現効果を理解する。		
10	評論一	「ミロのヴィーナス」 《中間考査》	10	ミロのヴィーナスが両腕の欠落によって普遍的な美を獲得したのであり、失われた手が逆に可能な手への夢を奏で人間味を感じさせるという、作者の論理展開を理解する。		
11	評論一	「未来世代への責任」 《期末考査》	10	現代世代が未来世代の利益を考慮して自己利益の追求を抑える倫理的存在にならなければ、環境問題は解決しないという筆者の主張を理解し、未来の世代に何ができるのかについて個々に考えられるようにする。		
12	評論一	「恐怖とは何か」	7	「自我」をキーワードとして、人間の「恐怖」を具体例として理解できるようにする。特に人間の精神構造という形而上的な問題にも目を向け、自分の内面を見つめることで理解を深めるようにする。		
1	評論二	「メディアと歴史」	7	「メディア」の現代に至る変遷と、「機械文明」「技術文明」としての現代社会の特徴を読み取れるようにする。		
	入試対策	自主教材	3	実際の大学入試問題に触れることにより特に評論文の読み方について学び、論理的思考を養う。		
2	評論二	「木の葉と光」	6	筆者の提唱する「環世界」の具体的概念・抽象的概念を理解し、環境問題についてどのように考えたら良いかまとめる。		
	入試対策	自主教材	7	実際の大学入試問題に触れることにより小説や随想などをキーワードや頻出後に注意して読めるようにする。		
3	評論二	「コンクリートの時代」	6	二十一世紀のテーマであるグローバリゼーションを建築の領域で可能にしたのはコンクリートであることを理解する。		
	入試対策	自主教材	4	大学入試センター試験などを扱い、評論文や小説の出題パターンに慣れるようにして、論理的に解く力を養っていく。		

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位
対象学年	第2学年 普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、自ら表現し読書することによって人生を豊かにする姿勢を育てる。				
学習内容の概要	三省堂「明解国語総合 改訂版」「明解現代文B 改訂版」を、授業の基本とし、漢字学習として尚文出版「常用漢字クリア」を使い、文学史を尚文出版「国語必携 パーフェクト演習」で理解の定着をさせる。				
学習方法	読解力を養うために、授業で板書をしながら、生徒に理解させるようにする。また、国語の表現力をつけるために、夏休みには、読書感想文を書くようにしている。また、就職・進学に対応するために漢字学習として、尚文出版「常用漢字クリア」を使い、文学史を尚文出版「国語必携 パーフェクト演習」で理解の定着をさせる。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。				
使用教材	三省堂「明解 国語総合 改訂版」「明解現代文B 改訂版」 尚文出版「常用漢字クリア」 尚文出版「国語必携 パーフェクト演習」				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	小説二	バスに乗って 常用漢字クリア3級(①・②)	5 4	比較的平易な小説を読み、善意の人間、市井の人たちの温かな心にふれ、日々生きていく上のさやかな幸せに気づかせるようにする。	始業式
5	小説二	バスに乗って 常用漢字クリア3級(③・④) 四字熟語・三字熟語	6 4	「バスに乗って」の話から、少年のどこが成長したかを捉えるようにする。また、漢字検定3級程度の漢字や、四字熟語・三字熟語についても練習する。	中間考査
6	評論二	水の東西 常用漢字クリア3級(⑤・⑥) 正しい文字・正しい表記で書こう	5 4 3	比較的平易な評論を読み、水を通して西洋文化と東洋文化のあり方について考えさせる。書き言葉の基本について指示し、漢字練習を行う。	
7		常用漢字クリア3級(⑦・⑧) 文章は「書き言葉」で書こう 文の乱れをなくそう	4 2 2	漢字検定3級程度の漢字の総演習を行うと共に、書き言葉について繰り返し演習を行い、文章を書くことについて意識させるようにする。	期末考査 終業式 夏期補習
8	随想三	豊かな仕事言葉	3	「豊かな仕事言葉」のような言葉でしか表現できない手仕事について深く考察し、人と物の関係を気づかせる。	始業式
9	随想三	豊かな仕事言葉 常用漢字クリア準2級(①・②)	5 3 3	随想を通じ、文章の構成を整理し、豊かな日本語と仕事言葉に対する筆者の考えを読み取らせる。また、漢字検定準2級程度の漢字演習を行う。	
10	小説三	羅生門 常用漢字クリア準2級(③・④) 難読語	7 3 3	近現代の短編小説を読む楽しさを理解させ、人間のエゴイズムと、モラルの葛藤を共感させることを目標とする。また、特に難読語について練習する。	中間考査
11	小説三	羅生門 常用漢字クリア準2級(⑤・⑥) 故事名言	6 3 2	追い詰められた状況の中での、人間の考え方や心の動きについて理解を深めていく。また、漢字検定準2級程度の演習を繰り返し行う。	
12	文学史	パーフェクト演習(P4～P15)	6	「国語常識」として、文学史の定着を計る。また、単なる名前の暗記にならないように、具体的な内容を提示していく。	期末考査 終業式
1	小説一	芋ようかん 常用漢字クリア(⑦・⑧)	6 5	揺れ動く人間模様を通して、「物作り」や「商売」が直面する問題について考えを深める。また、漢字検定準2旧程度の演習を更に行う。	始業式
2	文学史	パーフェクト演習(P16～29) 常用漢字クリア(⑨・⑩・まとめ)	6 7	明治時以降の文学史をしっかりと押さえて、文学史の定着を計る。特に、文学史の流れに注目をして、様々な文学作品を紹介する。	期末考査
3	評論一	コンコルドの誤り 常用漢字クリア(3級・準2級まとめ)	7 3	人間がその行動や思考において「進化」から外れた「誤り」を犯すことについて考えさせる。また、漢字演習の総まとめを行う。	終業式

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位
対象学年	第2学年 普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、自ら表現し読書することによって人生を豊かにする姿勢を育てる。				
学習内容の概要	三省堂「明解国語総合 改訂版」「明解現代文B 改訂版」を、授業の基本とし、漢字学習として尚文出版「常用漢字クリア」を使い、文学史を尚文出版「国語必携 パーフェクト演習」で理解の定着をさせる。				
学習方法	読解力を養うために、授業で板書をしながら、生徒に理解させるようにする。また、国語の表現力をつけるために、夏休みには、読書感想文を書くようにしている。また、就職・進学に対応するために漢字学習として、尚文出版「常用漢字クリア」を使い、文学史を尚文出版「国語必携 パーフェクト演習」で理解の定着をさせる。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。				
使用教材	三省堂「明解 国語総合 改訂版」「明解現代文B 改訂版」 尚文出版「常用漢字クリア」 尚文出版「国語必携 パーフェクト演習」				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	小説二	バスに乗って 常用漢字クリア3級(①・②)	5 4	比較的平易な小説を読み、善意の人間、市井の人たちの温かな心にふれ、日々生きていく上のさやかな幸せに気づかせるようにする。	始業式
5	小説二	バスに乗って 常用漢字クリア3級(③・④) 四字熟語・三字熟語	6 4	「バスに乗って」の話から、少年のどこが成長したかを捉えるようにする。また、漢字検定3級程度の漢字や、四字熟語・三字熟語についても練習する。	中間考査
6	評論二	水の東西 常用漢字クリア3級(⑤・⑥) 正しい文字・正しい表記で書こう	5 4 3	比較的平易な評論を読み、水を通して西洋文化と東洋文化のあり方について考えさせる。書き言葉の基本について指示し、漢字練習を行う。	
7		常用漢字クリア3級(⑦・⑧) 文章は「書き言葉」で書こう 文の乱れをなくそう	4 2 2	漢字検定3級程度の漢字の総演習を行うと共に、書き言葉について繰り返し演習を行い、文章を書くことについて意識させるようにする。	期末考査 終業式 夏期補習
8	随想三	豊かな仕事言葉	3	「豊かな仕事言葉」のような言葉でしか表現できない手仕事について深く考察し、人と物の関係を気づかせる。	始業式
9	随想三	豊かな仕事言葉 常用漢字クリア準2級(①・②) 今までの漢字のまとめ	5 3 3	随想を通じ、文章の構成を整理し、豊かな日本語と仕事言葉に対する筆者の考えを読み取らせる。また、漢字検定準2級程度の漢字演習を行う。	
10	小説三	羅生門 常用漢字クリア準2級(③・④) 難読語	7 3 3	近現代の短編小説を読む楽しさを理解させ、人間のエゴイズムと、モラルの葛藤を共感させることを目標とする。また、特に難読語について練習する。	中間考査
11	小説三	羅生門 常用漢字クリア準2級(⑤・⑥) 故事名言	6 3 2	追い詰められた状況の中での、人間の考え方や心の動きについて理解を深めていく。また、漢字検定準2級程度の演習を繰り返し行う。	
12	文学史	パーフェクト演習(P4～P15)	6	「国語常識」として、文学史の定着を計る。また、単なる名前の暗記にならないように、具体的な内容を提示していく。	期末考査 終業式
1	小説一	芋ようかん 常用漢字クリア(⑦・⑧)	6 5	揺れ動く人間模様を通して、「物作り」や「商売」が直面する問題について考えを深める。また、漢字検定準2旧程度の演習を更に行う。	始業式
2	文学史	パーフェクト演習(P16～29) 常用漢字クリア(⑨・⑩・まとめ)	6 7	明治時以降の文学史をしっかりと押さえて、文学史の定着を計る。特に、文学史の流れに注目をして、様々な文学作品を紹介する。	期末考査
3	評論一	コンコルドの誤り 常用漢字クリア(3級・準2級まとめ)	7 3	人間がその行動や思考において「進化」から外れた「誤り」を犯すことについて考えさせる。また、漢字演習の総まとめを行う。	終業式

教科名	国語	科目名	古典A	単位数	2 単位
対象学年	第2学年 普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	古文の読解に必要な基本古語及び文法に関する基本知識を身につけ、作品に描かれた人物、心情、社会背景などを読み味わい、歴史の中に人間を探る姿勢を身につける。漢文では、読解に必要な基本句法や基礎事項を理解し文章の読解を深めるとともに、併せて優れた文章、詩に触れることによって中国の文化への理解を深める。				
学習内容の概要	三省堂「明解国語総合 改訂版」を、授業の基本とし、漢字学習として尚文出版「常用漢字クリア」を使い、文学史を尚文出版「国語必携パーフェクト演習」で理解の定着をさせる。				
学習方法	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。				
使用教材	三省堂「明解 国語総合 改訂版」「古典A」 尚文出版「三訂版 やさしくわしい古典文法」				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	随筆	枕草子「五月ばかりなどに」 「にくきもの」	3 3	清少納言の機知に富んだ文章を読み味わうことにより、王朝文学に対する興味・関心を喚起する。また、古文常識についても触れていく。	始業式
5	随筆	方丈記「ゆく河の流れ」 助動詞の基本	4 3	鎌倉時代に描かれた随筆を読むことにより、当時の人々が抱えていた「無常観」について理解すると共に、助動詞の基本について理解していく。	中間考査
6	漢詩	漢詩の世界 「勸酒」 「江南春」	3 3 3	漢詩は、古来から日本人が親しみを持っていた物であり、有名な詩を取り上げることで、学習者の心情も豊かにする。	
7	漢詩	漢詩「月夜」 「静夜思」	2 2	更に漢詩を読み解くことで、当時の人々の思いや感情を読み取ると共に、書き下し文や基本句形など、漢文を読むための基礎を理解する。	期末考査 終業式 夏期補習
8	物語	伊勢物語「芥川」	2	みやびの文学と言われる伊勢物語を読むことによって、古文に対する親しみを持たせる。	始業式
9	物語	「芥川」 「筒井筒」	2 5	伊勢物語を読むことにより、和歌が人々の心を打ち続けていることを理解させる。また、人物や状況を想像できるようにする。	
10	語録	論語の言葉 ・学問 ・生き方 ・人との関わり	3 3 3	古来から人々のと生き方の指針となっている「論語」を読み、特に「学」や「仁」においてはどのような点を説こうとしているかを理解する。	中間考査
11	うたう心	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	2 2 3	和歌について詳しく知ると共に、技巧や修辭法について理解をする。また、万葉・古今・新古今の表現技法や歌の精神について理解を深める。	
12	物語	宇治拾遺物語 「百鬼夜行」	4	説話に描かれた世界の面白さに関心を持つと共に、異形、異界という、生徒にとって興味を持つ話を読むことにより、人物の心情を理解する。	期末考査 終業式
1	物語	「絵仏師の執心」 「地獄変」	4 3	古典作品と近・現代の作品とのつながりについて関心を持ち、その違いを明らかにすると共に、内容や表現の特徴や違いを捉えさせる。	始業式
2	思想	老子 「大道廃れて、仁義有り」 「天下水より柔弱なるは莫し」	4 5	儒教の思想と正反対である、道家の思想について理解を深めると共に、老子が説く「道」「水」がどのようなものであるか、理解を深めさせる。	期末考査
3	物語	宇治拾遺物語 「夢を買う」 「後の千金」	5 2	説話に描かれた古代人の夢に対する見方について考えると共に、日本文学に与えた中国古典の影響を理解させる。	終業式

教科名	国語科	科目名	古典B	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年 普通科 特別進学コースα		履修形態	必修	授業形態	講義・演習
学習目標	古文の読解に必要な基本古語及び文法に関する基本知識を身につけ、作品に描かれた人物、心情、社会背景などを読み味わい、時代と人間の関わり方を考えるとともに、歴史の中に人間を探る姿勢を身につける。漢文では、読解に必要な基本句法や基礎事項を理解し文章の読解を深めるとともに、併せて優れた文章、詩に触れることによって中国の文化への理解を深める。					
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。					
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。					
使用教材	大修館書店『精選古典B 改訂版』、三省堂「精選国語総合 改訂版」 その他自主教材					
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	学 習 項 目			時間数	学 習 到 達 目 標	
4	1、古文 軍記	平家物語 「祇園精舎」		3	1、平家物語を読み解くことにより、無常観を理解できるようにしていく。また、音読を通して語り物としての平家物語の面白さを知る。2、合従連衡を繰り返した戦国時代の歴史に目を向け、そのありさまを描く文章表現を理解できるようにする。	
	2、漢文 史話	「鶏口牛後」		3		
5	1、古文 和歌	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集		4	1、和歌の詠まれた状況や場を読み取り、それぞれの和歌の心情を理解できるようにする。また和歌特有の修辞技巧を学ぶ。 2、孔子が「学」において何を重視しているか、また「仁」においてはどのような点を説こうとしているかを理解する。	
	2、漢文 思想	「論語・孟子」		3		
6	1、古文 紀行	奥の細道 「旅立ち」		5	1、「旅立ち」を読むことにより芭蕉の旅への思いを理解できるようにする。また「行く春や・・・」に込められた作者の思いを考えさせる。2、漢文を読む上で重要な句法や助字が多いので、理解できるようにすると共に論理展開が分かるようにしていく。	
	2、漢文 文章	「雑説」		4		
7	1、古文 紀行	奥の細道 「立石寺」		2	1、立石寺に描かれている歴史的な背景について理解すると共に「夏草や・・・」「閑かさや・・・」の俳句の比較して作者の思いを考えさせる。2、志怪小説を読むことにより、男女の愛情の深さ故に怪奇現象がおこるという面白さについて理解できるようにする。	
	2、漢文 小説	「復活」		2		
8	1、漢文 小説	「復活」		2	1、今まで学んだ知識の復習をする。とくに助字が、小説の展開や登場人物の心情を効果的に表現している点を理解できるようにしていく。	
9	1、古文 随筆	竹取物語 「かぐや姫の昇天」		4	1、「竹取物語」の概要を確認し、興味・関心を高める。また、昇天するまでのかぐや姫の心情や現世に対する思いを理解できるようにする。 2、登場人物が真に相手を理解したものと同士であることを理解する。また、重要な句法を理解できるようにする。	
	2、漢文 故事成語	「知音」		3		
10	1、古文 物語	伊勢物語 「月やあらぬ」		5	1、主人公である在原業平の心情が理解できるようにすると共に、和歌について把握できるようにする。また「みやび」について理解する。 2、絵の名人の逸話を学ぶと共に、日本でも雪舟のエピソードがある点について理解する。また語法について繰り返し説明する。	
	2、漢文 故事成語	「画竜点睛」		4		
11	1、古文 随筆	枕草子 「中納言参りたまひて」		3	1、枕草子を学ぶことにより、清少納言の機知に富んだ行為について理解させると共に、敬語法について理解させる。 2、項羽と劉邦の話を読み、中国の歴史の奥深さにを味わうと共に、二人の英雄の人物の違いについて理解させる。	
	2、漢文 史伝	「鴻門の会」		4		
12	1、漢文 史伝	「項王の最後」		4	1、項羽の最後の場面を読み、項羽という人物について考えを深めると共に、「四面楚歌」という状況について理解を深める。また、長い文章を読むことにより漢文についてより詳しく学んでいく。	
1	1、古文 日記	更級日記 「源氏の五十余巻」		4	1、更級日記を学び、現在と過去が微妙に交錯する点に注意しながら、作者が少女時代の感動をどのように見つめ表現しているかを読み味わい、内省的な日記世界への理解を深める。 2、性善説を学ぶことによって、自己の内面を見つめる契機とする。また、論理的な文章を理解できるようにする。	
	1、漢文 思想	「不忍人之心」		3		
2	1、古文 物語	源氏物語 「桐壺」		5	1、源氏物語「桐壺」を学ぶことにより、登場人物の心情を理解すると共に、大まかな概要についても理解できるようにする。2、性悪説を学ぶことにより、性善説・性悪説のどちらの立場に立つか考え、その理由も説明できるようにする。	
	2、漢文 思想	「人之性悪」		4		
3	1、古文 物語	源氏物語 「若紫」		4	1、源氏物語「若紫」を読むことにより、登場人物の心理を理解できるようにする。また、桐壺～若紫までのストーリーについても理解を深める。2、比較的長い漢文の小説を読むことにより、話の面白さについて理解できるようにする。また、重要な句法について繰り返し演習を行い、理解を深める。	
	2、漢文 小説	「定伯売鬼」		3		

教科名	国語科	科目名	古典B	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年 普通科 特別進学コースβ		履修形態	必修	授業形態	講義・演習
学習目標	古文の読解に必要な基本古語及び文法に関する基本知識を身につけ、作品に描かれた人物、心情、社会背景などを読み味わい、時代と人間の関わり方を考えるとともに、歴史の中に人間を探る姿勢を身につける。漢文では、読解に必要な基本句法や基礎事項を理解し文章の読解を深めるとともに、併せて優れた文章、詩に触れることによって中国の文化への理解を深める。					
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。					
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。					
使用教材	大修館書店『精選古典B 改訂版』、三省堂「精選国語総合 改訂版」 その他自主教材					
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	学 習 項 目			時間数	学 習 到 達 目 標	
4	1、古文 軍記	平家物語 「祇園精舎」		3	1、平家物語を読み解くことにより、無常観を理解できるようにしていく。また、音読を通して語り物としての平家物語の面白さを知る。2、合従連衡を繰り返した戦国時代の歴史に目を向け、そのありさまを描く文章表現を理解できるようにする。	
	2、漢文 史話	「鶏口牛後」		3		
5	1、古文 和歌	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集		4	1、和歌の詠まれた状況や場を読み取り、それぞれの和歌の心情を理解できるようにする。また和歌特有の修辞技巧を学ぶ。 2、孔子が「学」において何を重視しているか、また「仁」においてはどのような点を説こうとしているかを理解する。	
	2、漢文 思想	「論語・孟子」		3		
6	1、古文 紀行	奥の細道 「旅立ち」		5	1、「旅立ち」を読むことにより芭蕉の旅への思いを理解できるようにする。また「行く春や・・・」に込められた作者の思いを考えさせる。2、漢文を読む上で重要な句法や助字が多いので、理解できるようにすると共に論理展開が分かるようにしていく。	
	2、漢文 文章	「雑説」		4		
7	1、古文 紀行	奥の細道 「立石寺」		2	1、立石寺に描かれている歴史的な背景について理解すると共に「夏草や・・・」「閑かさや・・・」の俳句の比較して作者の思いを考えさせる。2、志怪小説を読むことにより、男女の愛情の深さ故に怪奇現象がおこるという面白さについて理解できるようにする。	
	2、漢文 小説	「復活」		2		
8	1、漢文 小説	「復活」		2	1、今まで学んだ知識の復習をする。とくに助字が、小説の展開や登場人物の心情を効果的に表現している点を理解できるようにしていく。	
9	1、古文 随筆	竹取物語 「かぐや姫の昇天」		4	1、「竹取物語」の概要を確認し、興味・関心を高める。また、昇天するまでのかぐや姫の心情や現世に対する思いを理解できるようにする。 2、登場人物が真に相手を理解したものと士であることを理解する。また、重要な句法を理解できるようにする。	
	2、漢文 故事成語	「知音」		3		
10	1、古文 物語	伊勢物語 「月やあらぬ」		5	1、主人公である在原業平の心情が理解できるようにすると共に、和歌について把握できるようにする。また「みやび」について理解する。 2、絵の名人の逸話を学ぶと共に、日本でも雪舟のエピソードがある点について理解する。また語法について繰り返し説明する。	
	2、漢文 故事成語	「画竜点睛」		4		
11	1、古文 随筆	枕草子 「中納言参りたまひて」		3	1、枕草子を学ぶことにより、清少納言の機知に富んだ行為について理解させると共に、敬語法について理解させる。 2、項羽と劉邦の話を読み、中国の歴史の奥深さにを味わうと共に、二人の英雄の人物の違いについて理解させる。	
	2、漢文 史伝	「鴻門の会」		4		
12	1、漢文 史伝	「項王の最後」		4	1、項羽の最後の場面を読み、項羽という人物について考えを深めると共に、「四面楚歌」という状況について理解を深める。また、長い文章を読むことにより漢文についてより詳しく学んでいく。	
1	1、古文 日記	更級日記 「源氏の五十余巻」		4	1、更級日記を学び、現在と過去が微妙に交錯する点に注意しながら、作者が少女時代の感動をどのように見つめ表現しているかを読み味わい、内省的な日記世界への理解を深める。 2、性善説を学ぶことによって、自己の内面を見つめる契機とする。また、論理的な文章を理解できるようにする。	
	1、漢文 思想	「不忍人之心」		3		
2	1、古文 物語	源氏物語 「桐壺」		5	1、源氏物語「桐壺」を学ぶことにより、登場人物の心情を理解すると共に、大まかな概要についても理解できるようにする。2、性悪説を学ぶことにより、性善説・性悪説のどちらの立場に立つか考え、その理由も説明できるようにする。	
	2、漢文 思想	「人之性悪」		4		
3	1、古文 物語	源氏物語 「若紫」		4	1、源氏物語「若紫」を読むことにより、登場人物の心理を理解できるようにする。また、桐壺～若紫までのストーリーについても理解を深める。2、比較的長い漢文の小説を読むことにより、話の面白さについて理解できるようにする。また、重要な句法について繰り返し演習を行い、理解を深める。	
	2、漢文 小説	「定伯売鬼」		3		

教科名	国語	科目名	古典B	単位数	2 単位
対象学年	第2学年 普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	古文の読解に必要な基本古語及び文法に関する基本知識を身につけ、作品に描かれた人物、心情、社会背景などを読み味わい、歴史の中に人間を探る姿勢を身につける。漢文では、読解に必要な基本句法や基礎事項を理解し文章の読解を深めるとともに、併せて優れた文章、詩に触れることによって中国の文化への理解を深める。				
学習内容の概要	三省堂「明解国語総合 改訂版」と大修館書店「精選古典B 改訂版」を読解の基本とし、文法については「三訂版 やさしくくわしい古典文法」で適時使用していく。				
学習方法	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。				
使用教材	三省堂「明解 国語総合 改訂版」 大修館書店「精選古典B 改訂版」 尚文出版「三訂版 やさしくくわしい古典文法」				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	随筆	枕草子「五月ばかりなどに」 「にくきもの」	3 3	清少納言の機知に富んだ文章を読み味わうことにより、王朝文学に対する興味・関心を喚起する。また、古文常識についても触れていく。	始業式
5	随筆	方丈記「ゆく河の流れ」 助動詞の基本	4 3	鎌倉時代に描かれた随筆を読むことにより、当時の人々が抱えていた「無常観」について理解すると共に、助動詞の基本について理解していく。	中間考査
6	漢詩	漢詩の世界 「勸酒」 「江南春」	3 3 3	漢詩は、古来から日本人が親しみを持っていた物であり、有名な詩を取り上げることで、学習者の心情も豊かにする。	
7	漢詩	漢詩「月夜」 「静夜思」	2 2	更に漢詩を読み解くことで、当時の人々の思いや感情を読み取ると共に、書き下し文や基本句形など、漢文を読むための基礎を理解する。	期末考査 終業式 夏期補習
8	物語	伊勢物語「芥川」	2	みやびの文学と言われる伊勢物語を読むことによって、古文に対する親しみを持たせる。	始業式
9	物語	「芥川」 「筒井筒」	2 5	伊勢物語を読むことにより、和歌が人々の心を打ち続けていることを理解させる。また、人物や状況を想像できるようにする。	
10	語録	論語の言葉 ・学問 ・生き方 ・人との関わり	3 3 3	古来から人々のと生き方の指針となっている「論語」を読み、特に「学」や「仁」においてはどのような点を説こうとしているかを理解する。	中間考査
11	うたう心	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	2 2 3	和歌について詳しく知ると共に、技巧や修辭法について理解をする。また、万葉・古今・新古今の表現技法や歌の精神について理解を深める。	
12	物語(一)	竹取物語「かぐや姫の昇天」	4	「竹取物語」の概要を確認し、興味・関心を高める。また、昇天するまでのかぐや姫の心情や現世に対する思いを理解できるようにする。	期末考査 終業式
1	故事成語	故事成語「知音」 「画竜点睛」	4 3	現代でも故事成語として残っている語を読むことで、その言葉の由来を知るとともに、表現技法や面白さを理解できるようにする。	始業式
2	史伝	史伝「鴻門の会」 「項王の最後」	4 5	項羽と劉邦を読み、歴史の奥深さに味わい、二人の英雄の人物の違いを理解させる。また、「四面楚歌」の状況と、人物の心情を掴むようにする。	期末考査
3	日記	更級日記「源氏の五十余巻」 助動詞の確認	5 2	物語にあこがれる少女の心情を理解すると共に、源氏物語に付いての基礎・基本について理解させる。また、助動詞について、理解を深めていく。	終業式

教科名	地歴科	科目名	世界史A	単位数	2単位	
対象学年	第2学年 普通科特別進学コース α β		履修形態	必修	授業形態	【講義】
科目の目標	世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					
学習内容の概要	○文明のおこり ○諸地域世界の形成と交流 ○一体化に向かう世界					
学習方法	教科書・ノート・地図・資料集の活用をベースに基礎的知識を学び、世界の歴史の流れや各文化の特色、現代世界の形成の歴史的過程を把握させる。					
評価の観点・ 評価方法	基礎的知識を身につけるとともに、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする姿勢に着目したい。 定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。					
使用教材	山川出版社「改訂版世界の歴史A」					
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	第1部 世界の一体化と日本 第1章 世界の諸文明 1 東アジア世界Ⅰ	東アジアの風土と人々、中国文明の誕生、秦・漢代、北方民族の侵入と隋・唐の統一	2 2 2	文明化を進める日本にとっての最初のモデルとして、隋・唐帝国の構造・文化に関心を持つことが出来る。	入学式	
5	2. 東アジア世界Ⅱ	東アジア世界の形成、東アジア世界の姿容、北方民族と中国の一体化	2 2 2	「朝貢の使者」の図版から、様々な地域から使者が来訪する中華帝国の広がりについて関心を持つことが出来る。	中間考査	
6	5. 西アジア世界Ⅰ 6. 西アジア世界Ⅱ	西アジアの風土と人々、古代の大帝国、文字の誕生、一神教のふるさと	3 3 3	人類最古の農耕文明が形成された西アジア世界の歴史的意義に気付くことが出来る。 アフリカから東南アジアに及ぶ地理的広がりから、「イスラーム世界」の歴史的由来に関しての主体的な関心を持つことが出来る。		期末考査
		イスラーム教の誕生、カリフの時代、トルコ系・モンゴル系の人々の登場。	3			
7	7. 古代地中海世界 8. ヨーロッパ世界Ⅰ	ヨーロッパの風土と人々、古代ギリシャ世界、ヘレニズムの誕生、古代ローマ帝国	2	近代世界にとっての「古典古代」としてのギリシャ諸都市国家やローマ帝国の歴史的意義について考察できる。	終業式	
		ゲルマン人の国々、フランク王国、封建社会の形成、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）	2	西欧の中世社会を、封建的主従関係と領主制の2層構造として、立体的に考察できる。		
8	9. ヨーロッパ世界Ⅱ	都市と商業の復活、ローマ教会の発展、十字軍、王権と集権国家の成長	2 2	叙任権闘争を始めとする聖俗の権力間の争いを整理し、その背景について多面的に考察できる。	始業式	
9	第2章 世界の一体化の始まり 10. 16世紀の世界と一体化の始まり 11. 明代の東アジア 12. 清代の東アジア	ユーラシアの繁栄、香辛料と銀	2	16世紀の世界にあっては、物質的な豊かさや高度な精神文化の中心は、繁栄するアジア諸国にあったという点に注目できる。 世界の一体化に向かう動きが始まったヨーロッパと、国際秩序に向かうヨーロッパを対比的にみる事が出来る。		
		明の建国と発展、近接諸国との動向、北虜南倭と明の衰退	2			
		清の統合東アジア世界の拡大、清代の社会	2	アジアでは清という強大な帝国が成立し、繁栄していたことに注目することが出来る。		
		東アジアとヨーロッパの文化交流	2			
10	15. 大航海とアメリカ征服 16. 新しい時代の始まりとルネサンス 17. 宗教改革	スペイン・ポルトガルの海外進出 アメリカの征服・植民地化	2	アメリカ先住民の国家・文明が、ヨーロッパ人により滅ばされた原因を考察できる。 近代世界の開幕を世界観・人間観を含む文化・思想の上で告げるものとしてのルネサンスの歴史的意義に気付くことが出来る。	中間考査	
		新しいヨーロッパ、イタリアとネーデルラント、科学技術、戦争の時代	2			
		信仰の刷新、ルターと諸侯、カルヴァンとユグノー、イギリス国教会、カトリックの改革	2 2			
11	18. スペインの時代からオランダの時代へ	スペインの黄金時代、オランダの繁栄 17世紀の戦乱、主権国家体制	2 2 2 2	新大陸のもたらした富が、スペイン世界帝国の繁栄の基礎をなしたことを理解し、また、スペインが没落してオランダが派遣を握った要因を多面的に考察できる。		
12	19. 絶対王政と議会王政	フランス議会王政、イギリス議会王政	2 2 2	17世紀イギリスの2つの革命について、その命名の理由を明らかにし、理解できる。	期末考査 終業式	
1	20. 東ヨーロッパの専制 21. 大西洋経済	東ヨーロッパの社会と政治、プロイセンとオーストリア、ロシア帝国	4	オーストリアやプロイセンなどの宮廷とモーツァルトらの音楽家の関係に興味を抱くことが出来る。三角貿易と呼ばれる循環貿易の一環についての理解を深める。	始業式	
		ヨーロッパ経済の成長、大西洋の三角貿易、西欧を中心とする経済	4			
2	第三章 近代の世界 22. 啓蒙とアメリカの独立	啓蒙の世紀、アメリカ独立革命	4	啓蒙思想誕生の背景を多面的にとらえ、その後のヨーロッパにあたえた影響を客観的に整理できる。	学年末考査	
3	1年間のまとめ		4	1年間の学習のまとめをおこなう。	終業式	

教科名	地歴科	科目名	世界史 A	単位数	3単位	
対象学年	第2学年 普通科進学コース		履修形態	必修	授業形態	【講義】
科目の目標	世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					
学習内容の概要	○文明のおこり ○諸地域世界の形成と交流 ○一体化に向かう世界					
学習方法	教科書・ノート・地図・資料集の活用をベースに基礎的知識を学び、世界の歴史の流れや各文化の特色、現代世界の形成の歴史的過程を把握させる。					
評価の観点・ 評価方法	基礎的知識を身につけるとともに、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする姿勢に着目したい。 定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。					
使用教材	山川出版社「改訂版世界の歴史A」					
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	第1部 世界の一体化と日本 第1章 世界の諸文明 1 東アジア世界Ⅰ	東アジアの風土と人々 中国文明の誕生 秦・漢代、北方民族の侵入と隋・唐の統一	4	文明化を進める日本にとっての最初のモデルとして、隋・唐帝国の構造・文化に関心を持つことが出来る。	入学式	
			4			
			4			
5	2. 東アジア世界Ⅱ	東アジア世界の形成 東アジア世界の変容 北方民族と中国の一体化	4	「朝貢の使者」の図版から、様々な地域から使者が来訪する中華帝国の広がりについて関心を持つことが出来る。	中間考査	
			4			
			4			
6	5. 西アジア世界Ⅰ 6. 西アジア世界Ⅱ	西アジアの風土と人々、古代の大帝国 文字の誕生、一神教のふるさと イスラーム教の誕生、カリフの時代、トルコ系・モンゴル系の人々の登場。	4	人類最古の農耕文明が形成された西アジア世界の歴史的意義に気付くことが出来る。 アフリカから東南アジアに及ぶ地理的広がりの認識から、「イスラーム世界」の歴史的由来に關しての主体的な関心を持つことが出来る。		
			4			
			3			
			3			
7	7. 古代地中海世界 8. ヨーロッパ世界Ⅰ	ヨーロッパの風土と人々、古代ギリシャ世界、ヘレニズムの誕生、古代ローマ帝国 ゲルマン人の国々、フランク王国、封建社会の形成、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）	8	近代世界にとっての「古典古代」としてのギリシャ諸都市国家やローマ帝国の歴史的意義について考察できる。 西欧の中世社会を、封建的主従関係と領主制の2層構造として、立体的に考察できる。	期末考査	
			8		終業式	
8	9. ヨーロッパ世界Ⅱ	都市と商業の復活、ローマ教会の発展、十字軍、王権と集権国家の成長	3	叙任権闘争を始めとする聖俗の権力間の争いを整理し、その背景について多面的に考察できる。	始業式	
9	第2章 世界の一体化の始まり 10. 16世紀の世界と一体化の始まり 11. 明代の東アジア 12. 清代の東アジア	ユーラシアの繁栄、香辛料と銀 明の建国と発展、近接諸国との動向、北虜南倭と明の衰退 清の統合東アジア世界の拡大、清代の社会 東アジアとヨーロッパの文化交流	4	16世紀の世界にあっては、物質的な豊かさや高度な精神文化の中心は、繁栄するアジア諸国にあったという点に注目できる。 世界の一体化に向かう動きが始まったヨーロッパと、国際秩序に向かうヨーロッパを対比的にみることが出来る。 アジアでは清という強大な帝国が成立し、繁栄していたことに注目することが出来る。		
			4			
			4			
			4			
10	15. 大航海とアメリカ征服 16. 新しい時代の始まりとルネサンス 17. 宗教改革	スペイン・ポルトガルの海外進出 アメリカの征服・植民地化 新しいヨーロッパ、イタリアとネーデルラント、科学技術、戦争の時代 信仰の刷新、ルターと諸侯、カルヴァンとユグノー、イギリス国教会、カトリックの改革	4	アメリカ先住民の国家・文明が、ヨーロッパ人により滅ばされた原因を考察できる。 近代世界の開幕を世界観・人間観を含む文化・思想の上で告げるものとしてのルネサンスの歴史的意義に気付くことが出来る。	中間考査	
			4			
			4			
			4			
11	18. スペインの時代からオランダの時代へ	スペインの黄金時代、オランダの繁栄 17世紀の戦乱、主権国家体制。	6	新大陸のもたらした富が、スペイン世界帝国の繁栄の基礎をなしたことを理解し、また、スペインが没落してオランダが派遣を握った要因を多面的に考察できる。		
			6			
12	19. 絶対王政と議会王政	フランス議会王政、イギリス議会王政	4	17世紀イギリスの2つの革命について、その命名の理由を明らかにし、理解できる。	期末考査	
			4		終業式	
1	20. 東ヨーロッパの専制 21. 大西洋経済	東ヨーロッパの社会と政治、プロイセンとオーストリア、ロシア帝国 ヨーロッパ経済の成長、大西洋の三角貿易、西欧を中心とする経済	4	オーストリアやプロイセンなどの宮廷とモーツァルトらの音楽家の関係に興味を抱くことが出来る。三角貿易と呼ばれる循環貿易の一環についての理解を深める。	始業式	
			4			
2	第三章 近代の世界 22. 啓蒙とアメリカの独立	啓蒙の世紀、アメリカ独立革命。	4	啓蒙思想誕生の背景を多面的にとらえ、その後のヨーロッパにあたえた影響を客観的に整理できる。	学年末考査	
3	1年間のまとめ			1年間の学習のまとめをおこなう。	終業式	

教科名	地歴公民科	科目名	世界史A	単位数	2単位	
対象学年	第2学年 普通科 総合選択コース		履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。					
学習内容の概要	○文明のおこり　○諸地域世界の形成と交流　○一体化に向かう世界					
学習方法	教科書・ノート・地図・資料集の活用をベースに基礎的知識を学び、世界の歴史の流れや各文化の特色、現代世界の形成の歴史的過程を把握させる。					
評価の観点・ 評価方法	基礎的知識を身につけるとともに、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする姿勢に着目したい。 定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。					
使用教材	山川出版社「改訂版世界の歴史」					
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	第1部 世界の一体化と日本 第1章 世界の諸文明 1 東アジア世界Ⅰ	東アジアの風土と人々、中国文明の誕生、秦・漢代、北方民族の侵入と隋・唐の統一	2	文明化を進める日本にとつての最初のモデルとして、隋・唐帝国の構造・文化に関心を持つことが出来る。	入学式	
			2			
			2			
5	2 東アジア世界Ⅱ	東アジア世界の形成、東アジア世界の変容、北方民族と中国の一体化	2	「朝貢の使者」の図版から、様々な地域から使者が来訪する中華帝国の広がりについて関心を持つことが出来る。	中間考査	
			2			
			2			
			2			
6	5 西アジア世界Ⅰ 6 西アジア世界Ⅱ	西アジアの風土と人々、古代の大帝国、文字の誕生、一神教のふるさと	2	人類最古の農耕文明が形成された西アジア世界の巨大な歴史的意義に気付くことが出来る。 アフリカから東南アジアに及ぶ地理的広がりの認識から、ムスリムの支配領域としての「イスラーム世界」の歴史的由来に関しての主体的な関心を持つことが出来る。		
			2			
		イスラーム教の誕生、カリフの時代、トルコ系・モンゴル系の人々の登場。	2			
			2			
7	7 古代地中海世界 8 ヨーロッパ世界Ⅰ	ヨーロッパの風土と人々、古代ギリシャ世界、ヘレニズムの誕生、古代ローマ帝国	2	近代世界にとつての「古典古代」としてのギリシャ諸都市国家やローマ帝国の歴史的意義について考察できる。	期末考査	
			2			
	ゲルマン人の国々、フランク王国、封建社会の形成、ビザンツ帝国(東ローマ帝国)	2	西欧の中世社会を、封建的主従関係と領主制の2層構造として、立体的に考察できる。	終業式		
		2				
8	9 ヨーロッパ世界Ⅱ	都市と商業の復活、ローマ教会の発展、十字軍、王権と集権国家の成長	2	教科書の年表などを用いて、叙任権闘争を始めとする聖俗の権力間の争いを整理し、その背景について多面的に考察できる。	始業式	
9	第2章 世界の一体化の始まり 10 16世紀の世界と一体化の始まり 11 明代の東アジア 12 清代の東アジア	ユーラシアの繁栄、アジアの通商、香辛料と銀明の建國と発展、近接諸国との動向、北虜南侵と明の衰退 清の統合東アジア世界の拡大、清代の社会、東アジアとヨーロッパの文化交流	2	16世紀の世界にあっては、物質的な豊かさや高度な精神文化の中心は、繁栄するアジア諸国にあったという点に注目できる。世界の一体化に向かう動きが始まったヨーロッパと、明を中心とした国際秩序に向かうヨーロッパを対比的にみる事が出来る。ヨーロッパがアジアに進出を始めたころ、アジアでは清という強大な帝国が成立し、繁栄していたことに注目することが出来る。		
			2			
			2			
			2			
10	15 大航海とアメリカ征服 16 新しい時代の始まりとルネサンス 17 宗教改革	スペイン・ポルトガルの海外進出、アメリカの征服・植民地化 新しいヨーロッパ、イタリアとネーデルラント、科学技術、戦争の時代 信仰の刷新、ルターと諸侯、カルヴァンとユグノー、イギリス国教会、カトリックの改革	2	アメリカ先住民の国家・文明が、少数のヨーロッパ人の手でもろくも滅ぼされてしまったなぜか、その原因を考察できる。近代世界の開幕を世界観・人間観を含む文化・思想の上で告げるものとしてのルネサンスの歴史的意義に気付くことが出来る。	中間考査	
			2			
			2			
			2			
11	18 スペインの時代からオランダの時代へ	スペインの黄金時代、オランダの繁栄、17世紀の戦乱、主権国家体制。	2	新大陸のもたらした富が、スペイン世界帝国の繁栄の基礎をなしたことを理解し、また、スペインが没落してオランダが派遣を握った要因を多面的に考察できる。		
			2			
			2			
			2			
12	19 絶対王政と議会王政	フランス議会王政、イギリス議会王政	2	17世紀イギリスの2つの革命について、その命名の理由を明らかにすることを通じて、両者の性格の違いの相違についても理解できる。	期末考査 終業式	
			2			
			2			
1	20 東ヨーロッパの専制 21 大西洋経済	東ヨーロッパの社会と政治、プロイセンとオーストリア、ロシア帝国	2	オーストリアやプロイセンなどの宮廷とモーツァルトらの音楽家の関係に興味を抱くことが出来る。 三角貿易と呼ばれる循環貿易の一環についての理解を深める。	始業式	
			2			
		2				
2	第三章 近代の世界 22 啓蒙とアメリカの独立	啓蒙の世紀、革命の時代、アメリカ独立革命。	2	啓蒙思想誕生の背景を多面的にとらえ、その後のヨーロッパに与えた影響を客観的に整理できる。	学年末考査	
			2			
			2			
			2			
3	1年間のまとめ		2	1年間の学習のまとめをおこなう。	終業式	

教名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	4単位
対象学年	第2学年 前期非初進学コースα文系	履修態	必修	授業態	講義
科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開、諸勢力に基づき地事的条件や日本の歴史、関連しながら理解せ、文の多様性、適合性、現世界の特殊な、視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資識を培う。				
学習内容の概要	○序章：先史の世界 ○第Ⅰ部：第1章オリエントと地中海世界～第3章：内陸アジア世界・東アジア世界の形成 ○第Ⅱ部：第4章イスラム世界の形成と発展～第6章内陸アジア世界・東アジア世界の展開 ※近世～現代までは概観する ○第Ⅲ部：第7章アジア諸世の繁栄～第12章アジア諸世の動揺 ○第Ⅳ部：第13章帝国主義とアジアの民族運動～第16章現代の世界				
学習方法	○歴史はつながっている。集めて授業の紐玉とながため。○定期考査は模試入試に直結する上、しかも学習の積み、80点以上をめざす。			使用教材	詳説世界史B改訂版（山川出版社）
評価の観点・評価方法	基礎知識を身につけるとともに、世界の歴史の大きな枠組みと前項に対する関心と観察意識の高め、意図的に追求しようとする姿勢に着目したい。定期考査問題解答、主体的な学習への取り組み、出題的なび総合的に評価する。				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学業事
4	序章先史の世界 第Ⅰ部 第1章オリエントと地中海世界	人類の進化文化の文明へ人類、言語の文化 1 古代オリエント世界 2 中近東世界	4 4 4	・人類自然環境適応しながら進化し、農耕牧畜を基礎とする諸文明の築き上げに気づけると同時に、人類言語の分化を理解する。 ・西アジア世界の地事的特徴を把握し、オリエント文明の隆盛、イラン人の遷徙を理解する。 ・地中海一帯の地事的特徴を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。	始業式
5	第2章アジア・アメリカの古代文明	3ローマ世界 1 インドの古典文明 2 東南アジアの諸文明 3 中国の古典文明 4 南北アメリカ文明	4 4 4 4	・都市国家から大帝国内で発展したローマ文明の発展を理解する。 ・南アジアの地事的特徴を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成を理解する。 ・東南アジアの地事的特徴を把握し、東南アジア世界における国際関係の遷移を理解する。 ・東アジアの地事的特徴を把握し、中国文明の起源、殷周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	中間考査
6	第3章内陸アジア世界・東アジア世界の形成	1 草原の遊牧民の種とオアシスの定住民 2 北方民族の活動と中国の分裂 3 東アジア文化圏の形成	4 4 4 4	・内陸アジアの地事的特徴を把握し、台風の遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。 ・東アジアにおける北方遊牧民の動向と、三国時代から魏晉南北朝という中国の分裂と統一の時代を理解する。 ・隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備とその動向を理解する。	期末考査
7	第Ⅱ部 第4章イスラム世界の形成と発展	1 イスラム世界の形成 2 イスラム世界の発展 3 インド・東南アジア・アフリカのイスラム化 4 イスラム文明の発展	4 4 4 4	・イスラム世界成立の経緯とその特徴、アラブ人による発展とイスラム帝国の形成を理解する。トルコ系民族が内陸アジアから進出し、ムスリムとの連綿としながらイスラム世界を拡大させていた遷徙を理解する。インド・東南アジア・アフリカのイスラム化など、イスラム世界の拡大の遷徙を理解する。イスラム文明の特徴とその発展、学問と文化活動の内容、イスラム都市を中心としたネットワークの発展を理解する。	期末考査 終業式
8	第5章ヨーロッパ世界の形成と発展	1 西ヨーロッパ世界の成立	4	・地中海世界形成後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人種族後の西ヨーロッパでは、外部勢力との攻防の中で封建社会が形成されていったことを理解する。	始業式
9	第6章内陸アジア世界・東アジア世界の展開	2 東ヨーロッパ世界の成立 3 西ヨーロッパ中世世界の発展 4 西ヨーロッパの中世文化 1 トルコ化とイスラム化の進展 2 東アジア諸世の自立化 3 モンゴルの大帝国	4 4 4 4	・セリヤ帝国の繁栄とその社会文化、スラブ人と周辺諸民族の自立の遷徙を理解する。十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の発展と諸国間の動向を理解する。教会・修道院、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。 ・内陸アジア世界におけるトルコ人の遷徙とイスラム化の進展を理解する。契丹や女真といった遊牧勢力の台頭と日本を含めた東アジア諸世の勢力交代、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。モンゴル帝国の興亡と、その遷徙が日本を含む諸世に与えた影響の大きさを理解する。	期末考査
10	第Ⅲ部 第7章アジア諸世の繁栄 第8章近世ヨーロッパの形成	1 東アジア世界の動向 2 清の中国の封建制度 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の興隆と東南アジアの交易の発展 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス	4 4 4 4	・中華帝国の再興と明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。・清朝の形成した広大な領土と政治・社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。トルコ・イラン世界に誕生したイスラム帝国の動向と、その社会や文化の発展を理解する。南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。 ・ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の開拓、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動向を理解する。ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する。	中間考査
11	第9章近世ヨーロッパ世界の展開	3 宗教改革 4 ヨーロッパ諸国の対立と主権国家体制の形成 1 重商主義と啓蒙主義の台頭 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパ文化と社会	4 4 4 4	・ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対立を理解する。 ・近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成にむかうヨーロッパ諸国の対立と戦争の動向を理解する。 ・17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向と、重商主義・啓蒙主義の台頭と社会を理解する。 ・ヨーロッパ諸国の植民地競争と大西洋世界の三角貿易の拡大と国際関係の形成を理解する。・17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色と、それを生み出した社会体制を理解する。	期末考査
12	第10章近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章欧米における近代国民国家の発展	1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン 1 ユーロペの体制の成立 2 ヨーロッパの再統一と統一国家の誕生 3 南北アメリカの発展 4 19世紀欧米文化	4 4 4 4	・イギリス産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の成立とその発展について理解する。アメリカ独立革命の経緯と、独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。ユートピア体制の成立と、その体制下で広がったヨーロッパ諸国の自由主義・ナショナリズムの運動を理解する。 ・ナポレオン戦争後の国際秩序の動向と、イタリア半島における国民国家の形成と展開、ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化を理解する。・アメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡大と南北戦争後の発展を理解する。・19世紀の欧米文化の特色と、その成立の背景を理解する。	期末考査 終業式
1	第12章アジア諸世の動揺 第Ⅳ部 第13章帝国主義とアジアの民族運動	1 オスマン帝国の動向と西アジア世界の発展 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの動向 1 帝国主義の発展と展開 2 世界列強の対立の激化 3 アジア諸国の改革と民族運動	4 4 4 4	・西アジアにおけるオスマン帝国の動向と西アジア世界の発展、アフガニスタンの動向を理解する。インドの植民地化とその社会の発展、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動向と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。 ・帝国主義の発展と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。帝国主義時代における欧米列強による世界各地の植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。欧米列強の支那と東アジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	始業式
2	第14章二つの世界大戦 第15章戦後と第三世界の独立	1 第一次世界大戦ロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ世界の民族運動 4 世界列強とファシズム諸国の関係 5 第二次世界大戦 1 戦後世界の形成とアジア諸世の独立 2 米ソ冷戦の激化 3 西欧・日本と経済復興	4 4 4 4	・第一次世界大戦ロシア革命/国際秩序に大きな変化をもたらした。20世紀の激動の基盤となったことを理解する。国際連盟の成立したヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。中国や東南アジア諸国・インド・トルコや西アジア諸国の民族運動の展開を理解する。世界列強間の欧米諸国の動向と東アジアの状況から、国際的な緊張が高まる時代を理解する。第二次世界大戦に至る過程、戦争の規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。第二次世界大戦後、米ソを中心とした冷戦体制の形成と、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。中華人民共和國の成立がアジア諸世の独立の象徴を理解する。朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化、日本・西ヨーロッパの経済復興や冷戦の終結により、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。	期末考査
3	第16章現代の世界	3 第三世界の台頭と米ソの歩みより 4 石油危機と世界経済の再編 1 社会主義世界の発展とグローバル化の進展 2 途上国の民主化と独裁体制の動揺 3 地域紛争の激化と深刻化する貧困 4 現代文明の諸相	4 4 4 4	・戦後20年間で世界に独立を遂げたアジア・アフリカ諸国が第三勢力として台頭し、発言力が高まったことを理解する。 ・ドル・ショック、オイル・ショック以降の国際経済の再編、冷戦終結の前後を理解する。東欧社会主義圏の消滅と冷戦の終結、1990年代の冷戦終結とグローバル経済の発展を理解する。途上国の民主化の進展、アジア社会主義圏の発展を理解する。世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争終結や平和の回復を目指す。科学技術の発達、現代文明の発展の危機、現代思想や文化の発展について理解する。	研習旅行 終業式

教科名	地理歴史科	科目名	日本史A	単位数	3単位	
対象学年	進学コース 第2学年	履修形態	必修	授業形態	講義	
a. 科目の目標	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、特色などを世界的視野を踏まえて、現在とのつながりに着目して多面的・多角的に考察する力や、歴史に見られる課題を把握しその解決に向けて課題を追究する力、またそれらを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を養う。					
b. 学習内容の概要	近代以降の我が国の歴史を概観し、現代の我が国への影響を把握するとともに、現代社会に存する課題の解決について考える。					
c. 学習方法	講義形式を基本に展開しつつ、対話・発問を多く行い、論理的思考力を身につける。					
d. 評価方法	定期考査、実力テスト、各種課題の提出など、定期考査を中心とする判断材料の中で総合的に評価する。					
e. 使用教材	①『新日本史A 新訂版』(実教出版)					
f. その他						
年 間 授 業 計 画						
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	留意事項	
4	近代国家と 社会の形成	東アジア世界の転換	3	国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家機構の芽生えから幕府の滅亡を理解する。	始業式	
		開国	3		遠足	
		幕末の政治と社会	3			
5		「御一新」への期待と明治維新	3	明治新政府による制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。	中間考査	
		明治政府の諸改革	3			
		自由民権運動のはじまり	3			
6	二つの戦争と 大日本帝国	自由民権期の社会	3	一連の近代化政策に対する反動としての士族反乱・農民一揆の失敗と言論による要求、その結果としての立憲国家の性r津過程を考察する。	県総体	
		大日本帝国憲法	3			
		文明開化	3			
		日清戦争	3		期末考査	
7		東アジアの変革	3	日清日露戦争に至る経緯について理解し、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について国際情勢を踏まえて考察する。	スポーツ祭	
		日露戦争から韓国併合へ	3		懇談	
		産業化の進展と「日本国民」	3		終業式	
8		都市と農村から社会問題へ	3	近代産業の発展に伴う市民生活の変化と社会問題の発生、それに対する政府の対応と社会運動の興隆について考察する。	始業式	
9	帝国とデモクラシー	大正デモクラシーの広がり	3	第一次世界大戦前後の国内政治の動向及び市民文化の特色と、ワシントン体制に至る国際協調体制の進展と日本の地位を考察する。		
		第一次世界大戦	3			
		ヴェルサイユ条約とロシア革命	3			
		都市化と市民文化	3			
10	アジアの戦争と 第二次世界大戦	東アジアの情勢と恐慌	3	国内経済の動揺、対外政策の推移、軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立を理解し、第二次世界大戦開戦までの過程を考察する。	学校祭	
		日中戦争の勃発	3		中間考査	
		日中戦争下の社会	3			
		アジア太平洋戦争	3			
11	現代日本の源流	戦時下の社会と抵抗	3	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策及びそれに伴う諸改革についてその経過と内容を考察する。	創立記念日	
		大東亜共栄圏	3			
		戦後の世界と日本占領	3			
		国民主権と日本国憲法	3			
		民主主義とアメリカ化	4		期末考査	
12		朝鮮戦争	3	東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が集結し、日本が独立した意義を考察する。	懇談	
		サンフランシスコ体制	3		終業式	
1		沖縄と平和運動の展開	3	独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権の確立までの経過を、国際社会の動向などを踏まえて考察する。	始業式	
		戦後の社会と文化	3			
		55年体制と安保	3		入学試験	
2	冷戦のなかの 経済成長	日韓条約とベトナム戦争	3	国際化の進展を踏まえて日本の経済・政治・生活の変化を考察する。またそれに伴う社会の変貌と経済成長がもたらした社会問題について理解する。	入学試験	
		沖縄返還と日中関係	4			
		首都圏と太平洋ベルト地帯	3		期末考査	
3	現代の日本	冷戦体制の終焉	4	戦後日本の政治・外交・経済・生活文化面を世界的視野から多面的・多角的にとらえとともに、現代の日本の課題について考察する。	卒業式	
		グローバリゼーションの時代	3		研修旅行	
		21世紀の世界と日本	3			

教科名	地理歴史科	科目名	日本史B	単位数	4単位	
対象学年	特別進学コースαβ 第2学年文系	履修形態	必修	授業形態	講義	
a. 科目の目標	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移から比較し、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察する力や、歴史に見られる課題を把握しその解決に向けて課題を追究する力、またそれらを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を養う。					
b. 学習内容の概要	①原始から近世までの流れを理解する。③近世以降の歴史の流れの概要を理解する。					
c. 学習方法	講義形式を基本に展開しつつ、対話・発問を多く行い、論理的思考力を身につける。					
d. 評価方法	定期考査、実力テスト、各種課題の提出など、定期考査を中心とする判断材料の中で総合的に評価する。					
e. 使用教材	①『詳説日本史B』(山川出版社) ②『日本史B10分間テスト』(山川出版社) ③授業者作成資料					
f. その他						
年 間 授 業 計 画						
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	留意事項	
4	導入 歴史とは	時代区分の考え方	2	時代の表記、区分の方法を理解する。	始業式	
	第1部 原始・古代	旧石器時代とその文化	2	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器から弥生文化の時代の社会を理解するとともに、考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。	遠足	
	第1章 日本文化のあけぼの	縄文時代とその文化	4			
		弥生時代の概観	4			
5		邪馬台国論争	4	集落・墓の変容から富の蓄積と小国の形成過程を理解し、東アジア世界との交流を踏まえてヤマト政権による国家の形成過程について考察する。	中間考査 模擬試験	
		古墳の時代区分	4			
		古墳とヤマト政権	4			
6		飛鳥の朝廷	4	政権内の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。律令国家が成立するまでの政治動向を東アジア世界との関係を踏まえて考察する。	県総体 模擬試験 期末考査	
	第2章 律令国家の形成	飛鳥文化	3			
		律令国家への道	6			
7		白鳳文化	3			
		律令体制の完成	3	律令体制の状況を土地政策も含めて多角的・多面的に考察する。天平文化における政治性と国際性などに着目して国家仏教の展開を理解する。	スポーツ祭 懇談 終業式	
		奈良時代の政治	4			
		初期荘園の成立	3			
8		天平文化	3			
	第3章 貴族政治と国風文化	平安初期の政治	4	東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。	模擬試験 始業式	
9		弘仁・貞観文化	3	藤原北家による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察し、地方統治体制の崩れが公領支配の変質、荘園の拡大をもたらし、それによって武士が成長していったことを理解する。	模擬試験	
		藤原北家と摂関政治	5			
		国風文化	3			
		地方政治の展開と武士	5			
10	第2部 中世	院政の開始	4	土地支配形態を踏まえて、院政期を理解し、平氏政権の成立とその特性について考察する。鎌倉幕府が地方政権から全行的な武家政権へと成長する過程を理解する。	学校祭 中間考査 模擬試験	
	第4章 中世社会の成立	平氏の台頭と院政期の文化	4			
		鎌倉幕府の成立	4			
		武士の社会	4			
11		蒙古襲来と幕府の衰退	4	承久の乱に伴う公武関係の変化、執権政治の確立に至る過程を考察し、蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。	創立記念日 模擬試験	
	第5章 武家社会の成長	鎌倉文化	4			
		鎌倉幕府の滅亡と建武の新政	4			
		室町幕府の成立	4			
12		室町幕府の安定	6	室町幕府の成立と安定について、東アジアの動向とともに考察する。庶民が社会変革の原動力となったことから、幕府の動揺や下剋上の風潮を理解する。	期末考査 懇談 終業式	
		幕府の推定と庶民の台頭	6			
1	第5章 武家社会の成長	室町文化	6	世界の動向を踏まえて織豊政権の統一事業と政権の特色を理解する。国際関係に着目して江戸時代の鎖国政策などについて理解を深め、近代・近現代への影響について考察する。	始業式 模擬試験 入学試験	
		戦国大名の登場	4			
		分国支配と都市の発展	4			
2	第3部 近世	織豊政権	3	2年次に修得した近代・近現代の知識と、ここまで学習した古代から近世にかけての日本史を複合し、日本通史の理解を完成し、歴史観を養う。	入学試験	
	第6章 幕藩体制の確立	桃山文化	3			
		幕藩体制の成立	6			
3		幕藩社会の構造	6	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立について、政治・経済・社会など多角的・多面的に考察する。近世までの歴史の流れを確認し、その影響と歴史的意義について考察する。	期末考査 卒業式 研修旅行 模擬試験 模擬試験	
		近現代への展望	7			

教科名	地理歴史科	科目名	地理B	単位数	3単位
対象学年	第2学年 特進αβ理系	履修形態	必修	授業形態	【講義】
科目の目標	「現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」という指導要領に示されている目標が本科目の目標である。				
学習内容の概要	「自然と生活」「世界の諸地域」を2年時で、「グローバル化する現代世界」「地球的な課題」を3年時に…と2年間に渡って学習する。				
学習方法	科目の目標が達成できるように、また単なる知識の暗記に陥らないように生徒自らが「何故だろう」と絶えず発想し、興味を持って学習できるように工夫する。				
評価の観点 評価方法	知識の暗記だけではなく、発想の広がりを持った生徒を育てることに留意したい。 具体的な評価として、定期考査・各課題の提出状況・出席状況・授業中の態度等をもとに総合的に評価する。				
使用教材	帝国書院「新詳地理B最新版」				

教科名	公民	科目名	政治経済	単位数	3 単位
対象学年	第 2 学年 普通科特別進学コースαβ文系	履修形態	必修	授業形態	【講義】
科目の目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸問題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	○現代の経済 ○現代社会の諸課題				
学習方法	教科書・整理ノートの活用をベースに、土台となる基礎的知識を学び、人間の社会生活を取り巻く様々な事象についての理解力を養う。新聞・ニュースなどを通して、時事的問題への関心を高め、自ら問題意識を持って進んで取り組むことのできる学習活動を展開する。				
評価の観点・ 評価方法	人間の社会生活そのものに関わってくる政治経済の分野への関心と、現代社会の諸問題を見つめ、よりよい社会の構築を目指そうとする姿勢に着目したい。 定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。				
使用教材	数研出版「高等学校政治・経済」				
その他					

年間授業計画					
月	項目	学習内容	単	学習のポイント	主要行事
4	経済社会の変容	①人間と経済活動	5	・経済活動とは何かを考えさせる。	始業式
		②資本主義経済の発展と変容	5	・資本主義経済の基本的特徴と発展過程を押さえ、現代資本主義の特質を理解させる。	
		③社会主義経済とその変容	5	・社会主義経済の基本的特徴を押さえ、1980年代後半以後の社会主義の変化と現状のあらましを理解させる。	
5	現代経済のしくみ	④家計・企業の働きと政府の役割	5 5	・三つの経済主体の果たす役割と市場経済のしくみを理解させる。	中間考査
6		③財政のしくみと租税 ④経済成長と景気変動 ⑤戦後日本経済のあゆみ	5 5 5	・現代の福祉国家の観点から、財政の役割を考えさせ、現実の財政の歳入・歳出がどうなっているのか押さえる。	進路合宿 期末考査
7	国民経済と国際経済	①貿易と国際収支 ②国際経済の展開	5 5	・国民経済と国際経済の違いを理解した上で、自由貿易が果たした役割を考えさせ、また、国際収支表の構成がどうなっているのかを理解させる。	終業式
8		③国際経済における日本	5	・日本経済の発展と国際化の進展について、両者を関連させながら理解させる。 ・今後、世界経済の中で日本の果たすべき役割について考えさせる。	始業式
9	現代日本の諸課題	①情報化の進展と市民社会	5 5 5	・情報技術の発達、IT革命の進展の内容を理解させるとともに、市民生活や政治・経済に与える影響について考察させる。	
10		⑤資源・エネルギー問題 ⑥公害防止と環境保全 ⑦地域開発と都市問題 ⑧労使関係と労働市場	5 5 5 5	・政府が進める原子力発電に対する推進・批判二つの立場やその運動の例などを紹介し、今後のエネルギー問題のあり方を考えさせる。	中間考査
11	国際社会の諸問題	⑨少子高齢社会と社会保障 ⑩住民生活と地方自治 ⑪大きな政府と小さな政	5 5 5	・社会保障制度の歴史、主な国と日本の現状を学び、今後の課題を考察させる。 ・地方自治の抱えている問題を考えさせる。	期末考査
12		②核兵器と軍縮 ③人種・民族問題	5 5	・冷戦の激化と核開発の進展を歴史的にたどる一方、広島・長崎の原爆被害の凄まじさが反核運動を呼び起こしたことを理解させる。	終業式
3 学期		総まとめ	5 5	・1年間の学習を振り返り、問題意識を持って社会の動きを見つめ、考えていくことの大切さを押さえる。	始業式

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4単位
対象学年	第2学年 特別進学コースα(文系) 特別進学コースβ(文系)	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	大学入試共通テストで7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	多項式の除法、恒等式・不等式の証明(式と証明)。複素数について学び、簡単な3次、4次方程式を解く(複素数と方程式)。座標を用いて図形の性質を調べる(図形と方程式)。指数関数と対数関数の性質とグラフについて学ぶ。曲線の接線を求め、関数のグラフをかく。また、曲線で囲まれた図形の面積を計算する(微分法と積分法)。				
学習方法	教科書の内容を中心に学習し、問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点は、主体的に学習に取り組む姿勢がみられるかにより評価点が決定される。出席点は減点法による。				
使用教材	教科書 数学Ⅱ 改訂版(啓林館) 問題集 アドバンス 改訂版 数学Ⅱ+B(啓林館)				
その他	特進αは平日の課外学習(80分)で、授業より発展した内容の演習、土曜講習(90分)で同様の演習を行う。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	式と証明	式と証明	4 4 4	整式の除法 恒等式 等式・不等式の証明	始業式 入学式
5	複素数と方程式	複素数と方程式	4 4 4	複素数 2次方程式の解と判別式 解と係数の関係	
6	図形と方程式	点と直線	4 4 4 4	剰余の定理と因数定理 高次方程式 直線の方程式 2直線の関係	期末考査
7		円	4 4 4	円の方程式 円と直線	終業式 夏期講習
8		軌跡と領域	4 4 4	軌跡と方程式 不等式の表す領域	始業式
9	指数関数と対数関数	指数関数	4 4 4	指数の拡張 指数関数	
10		対数関数	4 4 4	対数とその性質 対数関数	中間考査
	微分法と積分法	微分係数と導関数	4 4 4	導関数	
11		導関数の応用	4 4 4	接線・関数の値の変化 最大値・最小値	期末考査
12		積分法	4 4 4	不定積分 定積分 面積	終業式
1	復習と演習		4 4 4	復習と問題演習 復習と問題演習 復習と問題演習	始業式
2			4 4 4 4	復習と問題演習 復習と問題演習 復習と問題演習 復習と問題演習	期末考査
3			4 4 4	復習と問題演習 復習と問題演習 復習と問題演習	終業式

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4単位
対象学年	第2学年 特別進学コースα(理系) 特別進学コースβ(理系)	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	大学入試共通テストで7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	多項式の除法、恒等式・不等式の証明(式と証明)。複素数について学び、簡単な3次、4次方程式を解く(複素数と方程式)。座標を用いて図形の性質を調べる(図形と方程式)。指数関数と対数関数の性質とグラフについて学ぶ。曲線の接線を求め、関数のグラフをかく。また、曲線で囲まれた図形の面積を計算する(微分法と積分法)。				
学習方法	教科書の内容を中心に学習し、問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点は、主体的に学習に取り組む姿勢がみられるかにより評価点が決定される。出席点は減点法による。				
使用教材	教科書 詳説数学Ⅱ改訂版(啓林館) 問題集 マスグレード改訂版数学Ⅱ+B(啓林館)				
その他	特進αは平日の課外学習(80分)で、授業より発展した内容の演習、土曜講習(90分)で同様の演習を行う。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	式と証明	式と証明	4 4 4	整式の除法 恒等式 等式・不等式の証明	始業式 入学式
5	複素数と方程式	複素数と方程式	4 4 4	複素数 2次方程式の解と判別式 解と係数の関係	
6	図形と方程式	点と直線	4 4 4 4	剰余の定理と因数定理 高次方程式 直線の方程式 2直線の関係	期末考査
7		円	4 4 4	円の方程式 円と直線	終業式 夏期講習
8		軌跡と領域	4 4 4	軌跡と方程式 不等式の表す領域	始業式
9	指数関数と対数関数	指数関数	4 4 4	指数の拡張 指数関数	
10		対数関数	4 4 4	対数とその性質 対数関数	中間考査
	微分法と積分法	微分係数と導関数	4 4 4	導関数	
11		導関数の応用	4 4 4 4	接線・関数の値の変化 最大値・最小値	期末考査
12		積分法	4 4 4	不定積分 定積分 面積	終業式
1	復習と演習		4 4 4	復習と問題演習 復習と問題演習 復習と問題演習	始業式
2			4 4 4 4	復習と問題演習 復習と問題演習 復習と問題演習 復習と問題演習	期末考査
3			4 4 4	復習と問題演習 復習と問題演習 復習と問題演習	終業式

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4単位
対象学年	第2学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	大学入試共通テストで7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	多項式の除法、恒等式・不等式の証明(式と証明)。複素数について学び、簡単な3次、4次方程式を解く(複素数と方程式)。座標を用いて図形の性質を調べる(図形と方程式)。三角関数および指数関数と対数関数の性質とグラフについて学ぶ。曲線の接線を求め、関数のグラフをかく。また、曲線で囲まれた図形の面積を計算する(微分法と積分法)。				
学習方法	教科書の内容を中心に問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点は、主体的に学習に取り組む姿勢がみられるかにより評価点が決定される。出席点は減点法による。				
使用教材	教科書 改訂版新編数学Ⅱ(啓林館) 問題集 エスコート改訂版数学Ⅱ+B(啓林館)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	式と証明	式と証明	4 4 4	3次式の展開と因数定理 整式の割り算 恒等式	始業式 入学式
5	複素数と方程式	複素数と方程式	4 4 4	等式・不等式の証明 高次方程式 複素数	
6			4 4 4 4	2次方程式の解と判別式 解と係数の関係 剰余の定理と因数定理	期末考査
7			4 4 4	高次方程式	終業式 夏期講習
8	図形と方程式	点と直線	4	直線の方程式	始業式
9		円 軌跡と領域	4 4 4 4	2直線の関係 円の方程式 円と直線 軌跡と方程式	
10	指数関数と対数関数	指数関数	4 4 4 4	不等式の表す領域 指数の拡張 指数関数	中間考査
11	三角関数	三角関数	4 4 4 4	対数とその性質 対数関数 三角関数の性質 三角関数のグラフ	期末考査
12			4 4 4	三角関数の応用 加法定理	終業式
1	微分法と積分法	微分係数と導関数	4 4 4	加法定理の応用 三角関数の合成 微分係数	始業式
2		導関数の応用	4 4 4 4	導関数 接線・関数の値の変化 最大値・最小値	期末考査
3		積分法	4 4 4	不定積分 定積分 面積	終業式

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	3単位
対象学年	第2学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	進学や就職など多岐にわたる進路希望に対応し、社会生活を送る上で必要となる数学的思考方と基礎的な知識の習得および技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。				
学習内容の概要	多項式の除法、恒等式・不等式の証明(式と証明)。複素数について学び、簡単な3次、4次方程式を解く(複素数と方程式)。座標を用いて図形の性質を調べる(図形と方程式)。三角関数および指数関数と対数関数の性質とグラフについて学ぶ。曲線の接線を求め、関数のグラフをかく。また、曲線で囲まれた図形の面積を計算する(微分法と積分法)。				
学習方法	教科書の内容を中心に問題集で反復演習を行う。また、適宜小テストを実施し、内容の定着度を確認する。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点は、主体的に学習に取り組む姿勢がみられるかにより評価点が決定される。出席点は減点法による。				
使用教材	教科書 改訂版最新数学Ⅱ(数研出版) 問題集 プラクティスノート数学Ⅱ(数研出版)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	式と証明	式と証明	3 3 3	3次式の展開と因数定理 整式の割り算 恒等式	始業式 入学式
5	複素数と方程式	複素数と方程式	3 3 3	等式・不等式の証明 高次方程式 複素数	
6			3 3 3 3	2次方程式の解と判別式 解と係数の関係 剰余の定理と因数定理	期末考査
7			3 3 3	高次方程式	終業式 夏期講習
8	図形と方程式	点と直線	3	直線の方程式	始業式
9		円 軌跡と領域	3 3 3 3	2直線の関係 円の方程式 円と直線 軌跡と方程式	
10	指数関数と対数関数	指数関数	3 3 3 3	不等式の表す領域 指数の拡張 指数関数	中間考査
11	三角関数	三角関数	3 3 3 3	対数とその性質 対数関数 三角関数の性質 三角関数のグラフ	期末考査
12			3 3 3	三角関数の応用 加法定理	終業式
1	微分法と積分法	微分係数と導関数	3 3 3	加法定理の応用 三角関数の合成 微分係数	始業式
2		導関数の応用	3 3 3 3	導関数 接線・関数の値の変化 最大値・最小値	期末考査
3		積分法	3 3 3	不定積分 定積分 面積	終業式

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2単位
対象学年	第2学年 特別進学コースα(文系) 特別進学コースβ(文系)	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	大学入試共通テストで7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	ある規則にしたがって並ぶ数やその和、および数学的帰納法について学ぶ(数列)。向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ(平面上のベクトル・空間のベクトル)。				
学習方法	教科書の内容を中心に学習し、問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点は、主体的に学習に取り組む姿勢がみられるかにより評価点が決定される。 出席点は減点法による。				
使用教材	教科書 数学Ⅱ 改訂版(啓林館) 問題集 アドバンス 改訂版 数学Ⅱ+B(啓林館)				
その他	特進αは平日の課外学習(80分)で、授業より発展した内容の演習、土曜講習(90分)で同様の演習を行う。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	数列	等差数列・等比数列	2 2 2	数列とその項 等差数列 等差数列	始業式 入学式
5		いろいろな数列	2 2 2	等比数列 和の記号Σ	
6			2 2 2 2	累乗の和 階差数列 数列の和と一般項 数列の和と一般項	期末考査
7			2 2 2	いろいろな数列の和 いろいろな数列の和	終業式 夏期講習
8		漸化式と数学的帰納法	2	漸化式 数学的帰納法	始業式
9	平面上のベクトル	ベクトルとその演算	2 2 2 2	数学的帰納法 隣接3項間の漸化式 ベクトル ベクトルの和・差・実数倍	
10		ベクトルと図形	2 2 2 2	ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル	中間考査
11			2 2 2 2	位置ベクトルと図形 位置ベクトルと図形 ベクトル方程式 ベクトル方程式	期末考査
12			2 2 2	ベクトル方程式 平面上の点の動く範囲 平面上の点の動く範囲	終業式
1		空間のベクトル	2 2 2 2	空間の点の座標 空間の点の座標 空間のベクトル 空間のベクトル	始業式
2			2 2 2 2	空間のベクトルの内積 空間のベクトルの内積 位置ベクトル	期末考査
3			2 2 2	位置ベクトル 3点を通る平面上の点 3点を通る平面上の点 平面の方程式	終業式

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2単位
対象学年	第2学年 特別進学コースα(理系) 特別進学コースβ(理系)	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	大学入試共通テストで7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	ある規則にしたがって並ぶ数やその和、および数学的帰納法について学ぶ(数列)。向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ(平面上のベクトル・空間のベクトル)。				
学習方法	教科書の内容を中心に学習し、問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点は、主体的に学習に取り組む姿勢がみられるかにより評価点が決定される。 出席点は減点法による。				
使用教材	教科書 詳説数学B改訂版(啓林館) 問題集 マスグレード改訂版数学Ⅱ+B(啓林館)				
その他	特進αは平日の課外学習(80分)で、授業より発展した内容の演習、土曜講習(90分)で同様の演習を行う。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	数列	等差数列・等比数列	2 2 2	数列とその項 等差数列 等差数列	始業式 入学式
5		いろいろな数列	2 2 2	等比数列 和の記号Σ	
6			2 2 2 2	累乗の和 階差数列 数列の和と一般項 数列の和と一般項	期末考査
7			2 2 2	いろいろな数列の和 いろいろな数列の和	終業式 夏期講習
8		漸化式と数学的帰納法	2	漸化式 数学的帰納法	始業式
9	平面上のベクトル	ベクトルとその演算	2 2 2 2	数学的帰納法 隣接3項間の漸化式 ベクトル ベクトルの和・差・実数倍	
10		ベクトルと図形	2 2 2 2	ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル	中間考査
11			2 2 2 2	位置ベクトルと図形 位置ベクトルと図形 ベクトル方程式 ベクトル方程式	期末考査
12			2 2 2	ベクトル方程式 平面上の点の動く範囲 平面上の点の動く範囲	終業式
1		空間のベクトル	2 2 2 2	空間の点の座標 空間の点の座標 空間のベクトル 空間のベクトル	始業式
2			2 2 2 2	空間のベクトルの内積 空間のベクトルの内積 位置ベクトル	期末考査
3			2 2 2	位置ベクトル 3点を通る平面上の点 3点を通る平面上の点 平面の方程式	終業式

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2単位
対象学年	第2学年 進学コース	履修形態	選択	授業形態	講義・演習
科目の目標	大学入試共通テストで7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ(平面上のベクトル・空間のベクトル)。ある規則にしたがって並ぶ数やその和、および数学的帰納法について学ぶ(数列)。				
学習方法	教科書の内容を中心に学習し、問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点は、主体的に学習に取り組む姿勢がみられるかにより評価点が決定される。出席点は減点法による。				
使用教材	教科書 改訂版新編数学B(啓林館) 問題集 エスコート改訂版数学Ⅱ+B(啓林館)				
その他					
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	数列	等差数列・等比数列	2 2 2	数列とその項 等差数列 等比数列	始業式 入学式
5		いろいろな数列	2 2 2	いろいろな数列の和と記号Σ	
6		数列とその和 漸化式と数学的帰納法	2 2 2 2	数列の和と一般項 漸化式	期末考査
7			2 2 2	数学的帰納法	終業式 夏期講習
8	平面上のベクトル	平面上のベクトルとその演算	2	ベクトル	始業式
9			2 2 2 2	ベクトルの和・差・実数倍 ベクトルの成分	
10		ベクトルと図形	2 2 2 2	ベクトルの内積 位置ベクトル 位置ベクトルと図形	中間考査
11	空間のベクトル	空間のベクトル	2 2 2 2	ベクトル方程式 空間の点の座標 空間のベクトル	
12			2 2 2	空間のベクトルの内積	期末考査 終業式
1			2 2 2	位置ベクトル	始業式
2			2 2 2 2	空間のベクトルと図形	期末考査
3			2 2 2	復習	終業式

教科名		理科	科目名		科学と人間生活	単位数	2 単位		
対象学年		第2学年 普通科進学コース		履修形態	必修	授業形態	【講義】		
科目の目標		自然科学の一般的な教養を身につけさせることを目標にしている							
学習内容の概要		教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う							
学習方法		プリントや問題集を利用しながら教科書の内容を理解させる							
評価の観点・ 評価方法		教務規定に従い、一学期・二学期・三学期とも評価する。							
使用教材		教科書 高等学校 改訂 科学と人間生活 第一学習社 、副教材 改訂 ネオパルノート 科学と人間生活 第一学習社							
その他		生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出をさせる。							
年 間 授 業 計 画									
月	項 目		学 習 内 容		時間	学習のポイント	主な学校行事		
4	第Ⅰ編 科学技術の発展		1. 情報伝達の発展 2. エネルギー資源の活用と交通手段の発展 3. 医療技術の発展		6	科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にしてきたことに貢献し、社会の変化に影響を与えてきたことを、身近な科学技術の例から理解する。	始業式		
5	第Ⅱ編 人間生活の中の科学		材料とその利用 ①プラスチックの特徴 ②プラスチックのなりたち ③プラスチックの分類と用途 ④さまざまなプラスチック ⑤金属と人間生活 ⑥金属の種類 ⑦金属の製錬とさび ⑧資源の再利用		20	(1) 身の周りにあるプラスチックの原料と、特徴について理解する。 (2) 原子の構造、共有結合とその種類、分子の表し方について、科学的な知識を身につける。 (3) プラスチックの性質と用途について、実験・観察などを通して科学的に思考する。 (4) 金属結合と金属の性質について認識する。 (5) 主な金属の種類とその性質について、実験・観察を通して科学的に思考できる。 (6) 材料の再利用方法に関心を抱き、再利用の必要性を科学的に認識する態度を身に付ける。	中間考査		
6	第1章 物質の科学								
7	第2章 生命の科学					微生物とその応用 ①身近な微生物	20	(1) 微生物と人間生活との関わりを論理的に思考し、細菌について科学的に理解する。	期末考査
8			②微生物の発見 ③生体内の微生物(1)(2) ④食品と微生物(1)(2) ⑤医療品と微生物 ⑥微生物の利用と広がり への利用 ⑦医薬品への利用 ⑧これからの微生物の利用	(2) 微生物の発見、自然発生説の否定、などの研究について、科学的、論理的に理解する。 (3) 微生物による自然浄化を理解し、分解者や生産者としてはたらく微生物の存在を理解する。 (4) 身近にみられる発酵食品に関心をもち、微生物のはたらきを論理的に思考する。 (5) 病気の予防法・治療法の進歩に興味をもち、医薬品をはじめとする人間生活への貢献を科学的に理解する。	始業式				
9									
10	第3章 熱や光の科学		熱の性質とその利用 ①温度と熱運動 ②熱容量と比熱 ③熱の伝わり方 ④仕事や電流と熱の発生 ⑤エネルギーの移り変わり	20	(1) 温度について理解し、熱運動や比熱などの知識を身に付ける。 (2) 熱伝導のしくみについて理解し、状態変化と潜熱の概念についての知識を習得する。 (3) 仕事や熱とエネルギーの関係について、物理の考え方をいながら理解する。	中間考査			
11									
12									
1			⑥熱の仕事への変換 ⑦エネルギー資源の有効活用		(4) さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について、関心をもって学習する。 (5) 省エネルギーの試みや、代替エネルギーの開発について関心をもって知識を習得する。	始業式			
2	第4章 地球や宇宙の科学		身近な自然景観と自然災害 ①日本列島のなりたち ②火山や地震の活動と地表変化 ③水の働きと地表の変化 ④火山や地震の災害と防災 ⑤気象災害と防災	12	(1) 日本列島の特徴と、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解する。(2) 火山活動の原因や、地震発生のしくみについて、論理的に思考する。(3) 河川の働きや海水の働きによって形成された地形について、科学的に形成のようすを考察する。(4) 火山・地震・気象災害と防災について学習し、自然災害による被害や二次災害、また防災について科学的・論理的に理解し、的確に表現する。	期末考査			
3							終業式		

教科名	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	2 単位		
対象学年	第2学年 普通科総合選択		履修形態	必修	授業形態	【講義】	
科目の目標	自然科学の一般的な教養を身につけさせることを目標にしている						
学習内容の概要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う						
学習方法	プリントや問題集を利用しながら教科書の内容を理解させる						
評価の観点・ 評価方法	教務規定に従い、一学期・二学期・三学期とも評価する。						
使用教材	教科書 高等学校 改訂 科学と人間生活 第一学習社 、副教材 改訂 ネオパルノート 科学と人間生活 第一学習社						
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出をさせる。						
年 間 授 業 計 画							
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事		
4	第Ⅰ編 科学技術の発展	1. 情報伝達の発展 2. エネルギー資源の活用と交通手段の発展 3. 医療技術の発展	6	科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にしてきたことに貢献し、社会の変化に影響を与えてきたことを、身近な科学技術の例から理解する。	始業式		
5	第Ⅱ編 人間生活の中の科学	材料とその利用 ①プラスチックの特徴 ②プラスチックのなりたち ③プラスチックの分類と用途 ④さまざまなプラスチック ⑤金属と人間生活 ⑥金属の種類 ⑦金属の製錬とさび ⑧資源の再利用	20	(1) 身の周りにあるプラスチックの原料と、特徴について理解する。 (2) 原子の構造、共有結合とその種類、分子の表し方について、科学的な知識を身につける。 (3) プラスチックの性質と用途について、実験・観察などを通して科学的に思考する。 (4) 金属結合と金属の性質について認識する。 (5) 主な金属の種類とその性質について、実験・観察を通して科学的に思考できる。 (6) 材料の再利用方法に関心を抱き、再利用の必要性を科学的に認識する態度を身に付ける。	中間考査		
6	第1章 物質の科学						
7	第2章 生命の科学			微生物とその応用 ①身近な微生物	20	(1) 微生物と人間生活との関わりを論理的に思考し、細菌について科学的に理解する。	期末考査 終業式
8							始業式
9		②微生物の発見 ③生体内の微生物(1)(2) ④食品と微生物(1)(2) ⑤医療品と微生物 ⑥微生物の利用と広がり への利用 ⑦医薬品への利用 ⑧これからの微生物の利用	(2) 微生物の発見、自然発生説の否定、などの研究について、科学的、論理的に理解する。 (3) 微生物による自然浄化を理解し、分解者や生産者としてはたらく微生物の存在を理解する。 (4) 身近にみられる発酵食品に関心をもち、微生物のはたらきを論知的に思考する。 (5) 病気の予防法・治療法の進歩に興味をもち、医薬品をはじめとする人間生活への貢献を科学的に理解する。	中間考査			
10		第3章 熱や光の科学	熱の性質とその利用 ①温度と熱運動 ②熱容量と比熱 ③熱の伝わり方 ④仕事や電流と熱の発生 ⑤エネルギーの移り変わり	20		(1) 温度について理解し、熱運動や比熱などの知識を身に付ける。 (2) 熱伝導のしくみについて理解し、状態変化と潜熱の概念についての知識を習得する。 (3) 仕事や熱とエネルギーの関係について、物理の考え方をいながら理解する。	期末考査 終業式
11							
12							
1	⑥熱の仕事への変換 ⑦エネルギー資源の有効活用		(4) さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について、関心をもって学習する。 (5) 省エネルギーの試みや、代替エネルギーの開発について関心をもって知識を習得する。		始業式		
2	第4章 地球や宇宙の科学	身近な自然景観と自然災害 ①日本列島のなりたち ②火山や地震の活動と地表変化 ③水の働きと地表の変化 ④火山や地震の災害と防災 ⑤気象災害と防災	12	(1) 日本列島の特徴と、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解する。(2) 火山活動の原因や、地震発生のしくみについて、論理的に思考する。(3) 河川の働きや海水の働きによって形成された地形について、科学的に形成のようすを考察する。(4) 火山・地震・気象災害と防災について学習し、自然災害による被害や二次災害、また防災について科学的・論理的に理解し、的確に表現する。	期末考査		
3							終業式

教科名	理科	科目名	物理基礎	単位数	2単位	
対象学年	第2学年 普通科特別進学コース理系		履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の物理分野における一般的な教養を身につけさせることを目標にしている。					
学習内容の概要	物理分野における知識の基本的な内容から発展的内容まで理解する。					
学習方法	問題集や入試問題を通して内容を理解させる。					
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。					
使用教材	教科書 第一学習社 改訂新物理基礎、問題集 第一学習社 改訂プログレス物理基礎					
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行なう					
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	第Ⅰ章 力と運動	第1節 物体の運動 ①速さと等速直線運動 ②変位と速度 ③速度の合成・相対速度 ④加速度 ⑤等加速度直線運動 ⑥重力加速度と自由落下 ⑦鉛直投げ下ろし・鉛直投げ上げ ⑧水平投射・斜方投射 第2節 力と運動の法則 ①力と質量 ②いろいろな力 ③力の合成・分解と力のつりあい ④慣性の法則 ⑤力と質量とか速度の関係 ⑥運動の法則 ⑦作用・反作用の法則 ⑧摩擦力 ⑨運動方程式の利用(1) ⑩運動方程式の利用(2)	30	速度が向きをもった量であることを理解させる。相対速度の式を理解させる。直線運動における加速度の定義を理解させる。落体の運動は、加速度の大きさgの等加速度直線運動であることを理解させる。	始業式	
5		力は向きと大きさをもったベクトル量であること、重力、垂直抗力、摩擦力、弾性力について理解させる。力はベクトル量であり、合成や分解ができることを理解させる。慣性の法則、運動の法則を理解させ、運動方程式の立て方を習得させる。流体での圧力、浮力について理解させる。		中間考査		
6	第Ⅱ章 エネルギー	第1節 仕事と力学的エネルギー ①力がする仕事 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー ④位置エネルギー ⑤力学的エネルギー保存の法則 ⑥いろいろな運動と力学的エネルギー 第2節 熱とエネルギー ①温度と熱運動 ②熱と熱平衡 ③熱と仕事 ④エネルギーの変換と保存	30	仕事の定義、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいこと、および、この関係が導かれる過程を理解させる。重力による位置エネルギーを理解させる。力学的エネルギー保存則を理解させる。	期末考査	
7	第Ⅲ章 波動	第1節 波の性質 ①波と波動 ②波の表し方 ③波の重ね合わせと定常波 ④波の反射 第2節 音波 ①音の速さと3要素 ②波としての音の性質 ③弦の固有振動 ④気柱の固有振動		波動について説明し、波が正弦波であることを理解させる。波の重ねあわせの原理を理解させる。		
	8	第Ⅳ章 電気	18	物体が帯電するしきみを理解させる。オームの法則を理解させる。導体の温度上昇、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解させる。	終業式	
交流の電圧、交流発電機、変圧器のしきみを理解させる。電磁波(電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、γ線)の性質を理解させる。				始業式		
9	第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーの利用 ②原子力エネルギー	様々なエネルギー種類と具体的な利用、エネルギー保存の法則を理解させる。原子力発電のしきみなどについて理解させる。				
終章 物理学が拓く世界	身近なものを例として、物理学がおさめた成果を知り、日常生活と物理学との関わりについて理解させる。					
10						
11						
12						
1						
2						
3						

教科名		理科	科目名		物理	単位数	3 単位
対象学年		第2学年 普通科特別進学コース理系		履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標		大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の物理分野における一般的な教養を身につけさせることを目標にしている。					
学習内容の概要		自然界における現象を基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。					
学習方法		実験や視聴覚教材を利用し、演習問題を通して教科書の内容を理解させる。					
評価の観点・評価方法		教務規定に従い評価する。					
使用教材		教科書、第一学習社 改訂物理 問題集、第一学習社 スタディノート物理					
その他		生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出や問題演習を行なう。					
年 間 授 業 計 画							
月	項 目	学 習 内 容			時間	学習のポイント	主な学校行事
4							
5							
6							
7							
8							
9	第Ⅰ章 運動 と エネルギー	第1節 平面運動と剛体のつりあい ①平面運動 ②放物運動 ③剛体にはたらく力		81	速度や加速度のベクトルを用いた扱いを十分に理解させる。 剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きのほかに、作用線の位置により決まることを理解させる。	中間考査	
10		第2節 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数			運動の法則から力積と運動量の関係が導かれ、これをもとに物体の衝突や分裂などの現象を扱う方法を理解させる。 反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解させる。		
11		第3節 円運動と単振動 ①円運動 ②慣性力と遠心力 ③単振動 ④万有引力による運動			等速円運動における物体の速さ、角速度、回転数、周期などを用いて表し、これらの間に成りたつ関係を学習させる。 等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解させる。ケプラーの法則と運動方程式とから万有引力の公式が得られることを、惑星の運動を等速円運動とみなした場合について導きだす過程を示す中で理解させる。		
12		第4節 気体の性質と分子の運動 ①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事			理想気体の内部エネルギーは分子の運動エネルギーの総和であり、平均運動エネルギーと絶対温度の関係式から、内部エネルギーが絶対温度に比例することを理解させる。 熱力学第一法則は、熱現象をも含めたエネルギー保存則であることを理解させる。		
1	第Ⅱ章 波動	第1節 波の伝わり方 ①波の性質 ②波の干渉・反射・屈折・回折		36	波が伝わるということ・振動の伝播と波形から波の概念を理解させ、波はエネルギーを運び、情報を伝えることを理解させる。波の独立性や重ね合わせの原理・ホイヘンスの原理・反射、屈折の法則など波の性質を理解させる。	始業式	
2		第2節 音波 ①音の伝わり方 ②ドップラー効果			音波は空気や水を伝える縦波であるということや、音の三要素・音の反射・屈折・回折・干渉などの性質や「ドップラー効果」について理解させる。	期末考査	
3		第3節 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉			光の波動性を実験や観察を通して理解させる。作図によってレンズの式を幾何学的に導き、レンズの性質を理解させる。 レンズによってできる像の種類としくみを理解させる。さまざまな場合における光の干渉条件を理解する		
							終業式

教 科 名	理 科	科 目 名	化 学	単 位 数	3 単 位
対 象 学 年	第 2 学 年 特 進 コ ー ス (理 系)	履 修 形 態	必 修	授 業 形 態	講 義
科 目 の 目 標	自然の事物・現象について，化学的に考察する能力と態度を身に付けさせる。				
学 習 内 容 の 概 要	自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解させる。				
学 習 方 法	教科書の内容を主に講義によって授業を行う。問題集は原則として各自が自宅で学習する。				
評 価 の 観 点 ・ 評 価 方 法	規定に従い評価する。				
使 用 教 材	数研出版「新編 化学」， 数研出版「リードLightノート 化学」				
そ の 他	基本的に講習は実施できないので、勉強の仕方やわからない所などは自主的に質問にくること。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4		電池と電気分解	10	電池・電気分解のしくみを理解し，ファラデーの法則について演習を通して体得する。	始業式
5	物質の状態	粒子の結合と結晶	5	化学基礎の復習をする。金属の結晶格子について学び，計算方法も体得する。	中間考査
		物質の状態変化	7	気液平衡の概念や状態変化にともなう熱の出入りについて理解する。	
6		気体	16	気体の体積と圧力と温度の関係を理解し，計算方法を体得する。	期末考査
7					
8		溶液	14	溶解のしくみや希薄溶液でおこる現象を理解し，計算方法を体得する。	終業式 始業式
9					
10	物質の変化	化学反応とエネルギー	15	化学変化や状態変化には熱の出入りが伴う。この現象の意味することをエネルギーの観点から考える。	中間考査
11		化学反応と速さのしくみ	12	さまざまな化学反応において，その反応の速さの違いや，化学平衡の状態について学ぶ。	
12		化学平衡	9		期末考査
1			9		
2			11		
	無機物質	非金属元素	9	元素を周期表に基づいて分類し，単体や化合物の性質を広く学ぶ。	期末考査
3					終業式

教 科 名	理 科	科 目 名	生 物 基 礎	単 位 数	2 単 位
対 象 学 年	第 2 学 年 普 通 科 特 進 文 系	履 修 形 態	必 修	授 業 形 態	講 義
科 目 の 目 標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の一般的な教養を身につけさせると同時に、共通テストに必要な学力をつけさせることを目標とする。				
学 習 内 容 の 概 要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う。				
学 習 方 法	演示実験や生徒実験および視聴覚教材を利用しながら教科書の内容を理解させる。また、問題演習を通じて思考力や計算力を身につけさせる。				
評 価 の 観 点 ・ 評 価 方 法	教務規定に従い評価する				
使 用 教 材	数研出版「新編生物基礎」、 数研出版「リードlightノート生物基礎」				
そ の 他	定期考査に副教材からも出題をする。副教材は各自で自宅学習とする。定期的に副教材の学習進度を確認し、提出物の状況として評価する。勉強の仕方やわからない所などは自主的に質問すること。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性	16	多様な生物種にも細胞や遺伝子などの共通性がある事を理解する	始業式
5		エネルギーと代謝		呼吸と光合成を通して代謝について理解する	中間考査
		光合成と呼吸			
6	第2章 遺伝子とのはたらき	遺伝情報とDNA	16	DNAの構造やはたらきのしくみを学び、いろいろな細胞に分化することを理解する	期末考査
7		遺伝情報の発現			
8		遺伝情報の分配			終業式
					始業式
9	第3章 生物の体内環境とその維持	体内環境としての体液	16	内部環境を維持するしくみ、特に体液濃度や血糖量調節のしくみを理解する	中間考査
		腎臓と肝臓による調節			
10		神経とホルモンによる調節			
		免疫			
11	第4章 生物の多様性と生態系	植生とその成り立ち	16	植物集団である植生の形成と変化を科学的な考察によって理解する	期末考査
		植生の移り変わり			終業式
12		気候とバイオーム			
1	第5章 生態系とその保全	生態系とその成り立ち	14	生態系のしくみについて理解し、その保全の重要性について気づく	始業式
2		物質の循環とエネルギーの流れ			期末考査
3		生態系のバランスと保全			終業式

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2 単位
対象学年	第2学年特進理系生物選択	履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の一般的な教養を身につけさせると同時に、大学入試共通テストに必要な最低限の学力をつけさせることを目標とする。				
学習内容の概要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う。				
学習方法	演示実験や生徒実験および視聴覚教材を利用しながら教科書の内容を理解させる。また、問題演習を通じて思考力や計算力を身につけさせる。				
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。				
使用教材	教科書、数研出版 改訂版 新編生物基礎 問題集、数研出版 四訂版 リードLightノート 生物基礎				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行なう				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 光合成と呼吸 DNAの構造 遺伝情報とDNA 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成 遺伝情報の分配と細胞の分化	37	多様な生物種の中にも共通性があることを理解させる。共通性の1つである細胞が生物の基本単位であること、細胞小器官の構造、動・植物の細胞の違いなどについて理解させる。 共通性の1つである代謝について学ぶ。中でもエネルギーの観点から同化・異化の内容、酵素反応について理解させる。 共通性の1つである個体の増殖についてまなぶ。また、遺伝子の本体であるDNAの構造や発見までの歴史、遺伝子発現の仕組みなどについて理解させる。DNAが複製され遺伝情報が分配されることにより、細胞が様々な形態やはたらきに分化することを理解させる。	始業式
5					中間考査
6					
7	第3章 生物の体内環境とその維持	体内環境としての体液 腎臓と肝臓による調節 神経とホルモンによる調節 免疫	41	生物の体内環境の維持についてのメカニズムについて学び、健康との関係を理解させる。内部環境の維持の仕組み、特に水分調節、血糖量調節などの仕組みについて学ぶ。また、それらは自律神経系と内分泌系の協調により調節していることを理解させる。また、生体防御としての免疫についても学ぶ。 植生は長期的に移り変わるが、その要因はどのようなものが関係するかについて学び理解させる。気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成り立っていることを理解させる。 生態系のしくみやそのバランスについて学び理解させ、その保全が重要であることを考えさせる。	期末考査
	第4章 生物の多様性と生態系	植生とその成り立ち 植生の移り変わり 気候とバイオーム 生態系とその成り立ち 物質の循環とエネルギーの流れ 生態系のバランスと保全			終業式
8	第5章 生態系とその保全				夏期補習
9				始業式	
10					
11					
12					
1					
2					
3					

教 科 名		理 科	科 目 名		生 物 基 礎	単 位 数	2 単 位
対 象 学 年		第 2 学 年 普 通 科 進 学		履 修 形 態	必 修	授 業 形 態	講 義
科 目 の 目 標		自然の事物・現象について、科学的に考察する能力と態度を身に付ける。					
学 習 内 容 の 概 要		自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。					
学 習 方 法		実験や視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解する。					
評 価 の 観 点 ・ 評 価 方 法		教務規定に従い評価する					
使 用 教 材		数研出版「新編生物基礎」、 数研出版「リードlightノート生物基礎」					
そ の 他		定期考査に副教材からも出題をする。副教材は各自で自宅学習とする。定期的に副教材の学習進捗を確認し、提出物の状況として評価する。勉強の仕方やわからない所などは自主的に質問すること。					
年 間 授 業 計 画							
月	項 目	学 習 内 容		時間	学習のポイント		主な学校行事
4	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性		16	多様な生物種にも細胞や遺伝子などの共通性がある事を理解する 呼吸と光合成を通して代謝について理解する	始業式	
5		エネルギーと代謝				中間考査	
		光合成と呼吸					
6	第2章 遺伝子とのはたらき	遺伝情報とDNA		16	DNAの構造やはたらきのしくみを学び、いろいろな細胞に分化することを理解する	期末考査	
7		遺伝情報の発現					
		遺伝情報の分配				終業式	
8						始業式	
9	第3章 生物の体内環境とその維持	体内環境としての体液		16	内部環境を維持するしくみ、特に体液濃度や血糖量調節のしくみを理解する	中間考査	
		腎臓と肝臓による調節					
10		神経とホルモンによる調節					
		免疫					
11	第4章 生物の多様性と生態系	植生とその成り立ち		16	植物集団である植生の形成と変化を科学的な考察によって理解する	期末考査	
		植生の移り変わり				終業式	
12		気候とバイオーム					
1	第5章 生態系とその保全	生態系とその成り立ち		14	生態系のしくみについて理解し、その保全の重要性について気づく	始業式	
2		物質の循環とエネルギーの流れ				期末考査	
3		生態系のバランスと保全				終業式	

教科名	理科	科目名	生物	単位数	3 単位
対象学年	第2学年特進理系生物選択	履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の一般的な教養を身につけさせると同時に、共通テストに必要な学力をつけさせることを目標とする。				
学習内容の概要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う。				
学習方法	演示実験や生徒実験および視聴覚教材を利用しながら教科書の内容を理解させる。また、問題演習を通じて思考力や計算力を身につけさせる。				
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。				
使用教材	教科書、数研出版 改訂版 生物 問題集、数研出版 三訂版 リードLightノート 生物				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行なう				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4					
5					
6					
7					
8					
9	第1編 生命現象と物質	第1章 細胞と分子 1. 生体の構成する物質 2. タンパク質の構造と性質 3. 酵素のはたらき 4. 細胞の構造 5. 細胞の活動とタンパク質 6. 情報伝達・認識とタンパク質 第2章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 4. 窒素同化	60	細胞を構成する物質について学習する。特にタンパク質については基本的な構造を学習した上で酵素などその立体構造と生命活動において果たすはたらきとの関連を理解させる。次に細胞内構造とその働きについて学習する。生体膜や細胞骨格についてはその構造や機能を学習する。 細胞活動において様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解する。また、生物基礎で学習した呼吸・光合成・窒素同化についてさらに詳しい仕組みを理解させる。	中間考査
10					
11					
12		第3章 遺伝情報の発現 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. バイオテクノロジー	42	生物基礎で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成の仕組みをさらに詳しく学習し理解させる。また、遺伝子の発現と調節を転写レベルの内容から中心に学習する。 遺伝子を扱ったバイオテクノロジーについて、その原理と有用性を理解させる。	期末考査 終業式 始業式
1					
2					
3	第2編 生殖と発生	第4章 生殖と発生 1. 遺伝子と染色体 2. 減数分裂と遺伝情報の分配 3. 遺伝子の多様な組み合わせ	15	有性生殖で多様性が生じる仕組みを細胞分裂・染色体・遺伝子などの視点から学習し理解させる。	期末考査 卒業式

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第2学年 普通科男子	履修形態	必修	授業形態	実技
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	運動やスポーツの基礎・基本や安全について、しっかり学習し、自分で計画、工夫していける能力を高める。				
学習方法	陸上・サッカー・バスケットボールを通して、グループ活動の中で協調性を養う事で、関心や意欲をより高めるとともに互いに協力して運動ができるようにする。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも実技試験、観点別評価、出席点での評価とする。				
使用教材					
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	陸上	跳躍	2 2 2	自己の能力に応じた課題を 目指し計画的な練習の仕方を 工夫する。	始業式
5		投てき	2 2 2		中間考査
6		競走	2 2 2		期末考査
7		跳躍・投てき・競走	2 2 2	測定。	終業式 夏期補習
8			2	自己の能力に応じた目標を立てる。	始業式
9		パス	2 2 2	パスの種類を覚える。 正しいパスの仕方を学ぶ。 ルールを学ぶ。	学校祭 中間考査
10		ドリブルシュート	2 2 2	ドリブルとシュートのタイミング に注意しながら練習する。	
11	バスケットボール	ゲーム	2 2 2	協調性を高める学習をする。	期末考査
12		パス	2 2 2	パスの種類を覚える。 正しいパスの仕方を学ぶ。 ルールを学ぶ。	終業式
1		ドリブルシュート	2 2 2	ドリブルとシュートのタイミング に注意しながら練習する。	始業式
2		ゲーム	2 2 2	協調性を高める学習をする。	入試 期末考査
3			2 2 2		終業式

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第2学年 普通科女子	履修形態	必修	授業形態	実技
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	運動やスポーツの基礎・基本や安全について、しっかり学習し、自分で計画、工夫していける能力を高める。				
学習方法	陸上・バレーボール・バスケットボールを通して、グループ活動の中で協調性を養う事で、関心や意欲をより高めるとともに互いに協力して運動ができるようにする。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも実技試験、観点別評価、出席点での評価とする。出席点で評価する。				
使用教材					
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	陸上	跳躍	2 2 2	自己の能力に応じた課題を 目指し計画的な練習の仕方を 工夫する。	始業式
5		投てき	2 2 2		中間考査
6		競走	2 2 2		期末考査
7		跳躍・投てき・競走	2 2 2	測定。	終業式 夏期補習
8	バレーボール	パス	2	パスの種類を覚える。 (オーバーパス、アンダーパス) 正しいパスの仕方を学ぶ。	始業式
9			2 2 2 2		学校祭
10		サーブ アタック	2 2 2 2	サーブの種類を覚える 正しいアタックの仕方を覚える	中間考査
11		ゲーム	2 2 2	協調性を高める学習をする。	期末考査
12	バスケットボール	パス	2 2 2	パスの種類を覚える。 正しいパスの仕方を学ぶ。	終業式
1		ドリブルシュート	2 2 2	ドリブルとシュートのタイミング に注意しながら練習する。	始業式
2		ゲーム	2 2 2 2	協調性を高める学習をする。	入試 期末考査
3			2 2 2		終業式

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1 単位
対象学年	第二学年 普通科	履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	わが国の思春期から中高年期までの健康にかかわることがらや、それぞれの段階で必要な保健。				
学習方法	各項目を通して学ぶ事によって関心や意欲を高める。 医療サービスの活用の仕方などについて学習し、理解できるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも筆記試験、観点別評価、出席点での評価とする。				
使用教材	VTR(欲求と適応機制、心身の相関とストレス、自己実現、思春期と健康 妊娠・出産と健康、家族計画と人工妊娠中絶)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	欲求と 適応機制	さまざまな欲求 欲求不満と適応機制 ビデオを見せる	1 1 1	欲求の種類と 欲求不満から生じる 適応規制とは何かを学ぶ。	始業式
5	思春期と 健康 性への関心・欲求 と性行動	思春期の体と健康 思春期の心と健康 性意識の男女差と性的欲求 性に関する情報と性行動	1 1 1 1	思春期における体の発達、行動面 心理面の特徴を学ぶ。 男女の性的欲求のあらわれ方の 違いと情報が性行動におよぼす	中間考査
6	妊娠・出産と 健康	受精・妊娠・出産 妊娠・出産期の健康のために ビデオを見せる	1 1 1	影響を学ぶ 受精・妊娠・出産の過程と 留意すべき点を学ぶ。	期末考査
7	避妊法と 人工妊娠中絶	家族計画の意義 避妊法とその選択 人工妊娠中絶 ビデオを見せる	1 1 1 1	健康な家族計画の意義と方法、 及び人工妊娠中絶について学ぶ。	終業式 夏期補習
8	結婚生活と健康 心身の相関と ストレス	心身の発達と健康 結婚生活と家族の健康 心と体のかかわり ストレスと心身の健康	1 1 1 1	健康な結婚生活を営む 留意点を学ぶ。 ストレスとはどのような状態か学ぶ	始業式
9	心の健康のために	原因への対処 見方や考え方を変える対処 気分転換やリラクセーション 信頼できる人や専門家への相談	1 1 1 1	ストレスについて自分でとること ができる対処法を学ぶ	学校祭
10	中高年期と健康	自己実現 中高年期を健やかに 過ごすために 中高年期の健康を支える取り組み	1 1 1 1	年をとることによる心身の変化と 中高年期を健やかに過ごす為の 取り組みについて学ぶ	中間考査
11	医療サービスと その活用 保健サービスと その活用	必要な医療を受けるために 医療機関のさまざまな役割 保健行政について 保健サービスの活用	1 1 1 1	医療機関の役割と医療サービスを 受ける時の留意点を学ぶ 保健行政の役割とサービスの例 を学習する	期末考査
12	さまざまな保健活動 や対策	私たちの健康を支える さまざまな活動	1	民間機関国際機関などの活動を 学習する	終業式
1	大気汚染と健康	大気汚染とその原因 大気汚染による健康影響 ビデオを見る	1 1 1	大気汚染はどのようにおこり どのように健康へ影響するか 学ぶ。	始業式
2	水質汚濁と健康	水質汚濁とその原因 水質汚濁による健康影響 ビデオを見る	1 1 1	水質汚濁はどのようにおこり どのように健康へ影響するか 学ぶ。	入試 期末考査
3	土壌汚染と健康	土壌汚染とその原因 大気汚染、水質汚濁 土壌汚染のかかわり ビデオを見せる	1 1 1	土壌汚染はどのようにおこり どのように健康へ影響するか 学ぶ。	終業式

教科名	外国語（英語）	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4単位
対象学年	第2学年 特別進学コースα・β	履修形態	必修	授業形態	【講義】
科目の目標	① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることができる。 ② 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を身につけ、意見を共有することができる。				
学習内容の概要	目標に基づき、「コミュニケーション英語Ⅱ」の内容のコミュニケーション活動を学習する。				
学習方法	適当な言語の使用場面を取り上げ、学習する。その際、聞いたり読んだりした内容について質問に答えたり、内容の要約をし、ペアで発表し合う。また、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて英語で簡潔に書く。				
評価の観点・評価方法	1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は、主体的に学習に取り組もうとする姿勢について評価する。				
使用教材	「LANDMARK Communication English Ⅱ」（啓林館） 総合英語 Vision Quest（啓林館） チャンクで英単語 Advanced（三省堂）				
その他					
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	Preparatory Lesson Lesson1 I'm the strongest!	デイスコスマーカー 車いすテニスプレーヤー国枝慎 吾の生き方を理解する。	1	デイスコスマーカーの知識を身につける。	始業式 入学式
			4	繰り返しを避けるための省略	
			4	過去完了進行形	
			4		
5	Lesson 2 Tokyo's Seven-minute Miracle	テッセイの仕事内容について、また日本の清掃文化について理解する。	4	強調のための倒置、形式目的語のit	中間考査
			4		
			4		
			4		
6	Lesson3 Saint Bernard Dogs	セントバーナード犬の救助犬の歴史を理解する。	4	受動態の分詞構文、完了形の分詞構文	期末考査
			4		
			4		
			4		
7	Tips for Listening 1,2 Reading1	英語の音声の特徴について理解する。 物語を読む。	4	英語の音声の特徴とその聞き取り	終業式
			4		
			4		
			4		
8	Lesson 4 Chanel's Style	革新者であり続けたシャネルの原動力を理解する。	1	S+V+分詞、S+V+O+分詞、付帯状況を表すwith+O+C	始業式
			4		
9	Lesson 5 Science of Love	なぜ人は恋をするのかについての発表の概要を理解する。	4	同格のthat節、疑問詞+do you think(S+V)?	
			4		
			4		
			4		
10	Lesson 6 Gaudi and His Messenger	ガウディとサグラダファミリアの歴史を理解する。	4	関係副詞の非限定用法、if節を用いない仮定法	中間考査
			4		
			4		
			4		
11	Tips for Listening 3,4 Lesson 7 Letters From	英語の音声の特徴について理解する。 硫黄島の戦いや、兵士が家族にあてた手紙について理解する。	4	英語の音声の特徴とその聞き取り	
			4		
			4		
			4		
12	a Battlefield Reading2	物語を読む。	4	譲歩を表す複合関係詞、動名詞の意味上の主語	期末考査 終業式
			4		
			4		
1	Lesson 8 Edo: A Sustainable	江戸時代の循環型社会について理解する。	4	関係代名詞の非限定用法、独立分詞構文	始業式 卒業考査
			4		
			4		
2	Lesson9 AI and Our Future	ブータンの国民総幸福量への捉え方について理解する。	4	as if /though + 仮定法、助動詞+have+過去分詞	期末考査
			4		
			4		
			4		
3	Lesson 10 Bhutan: A Happy Country Reading3	ブータンの国民総幸福量への捉え方について理解する。	4	強調構文、副詞節中のS+beの省略	卒業式
			4		
			4		

教科名	外国語(英語)	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3単位
対象学年	第2学年進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	教科書各課の題材内容やそれに関する情報などを読み聞きして理解し、分かったことやそれに関する自身の意見を書いたり聞き手に伝えたりする。				
学習方法	教科書付属の予習完成ノートを使った題材内容理解。教科書音読練習／リスニング問題／内容に関する質問／ペア・グループワークによる意見交換／作文演習				
評価の観点	既習の知識・技能の活用力／題材を扱う中での思考・判断・表現力／主体的に課題やコミュニケーションに取り組む態度				
評価方法	小テスト・定期考査／発表／課題等の提出／授業に対する態度				
使用教材	LANDMARK Fit English Communication Ⅱ および(同) 予習・完成ノート/チャンクで英単語Standard				
年 間 授 業 計 画					
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な行事
4	●教科書 L.1 ●チャンク	I'm the strongest!	3 3 3	●教科書 全課を通して以下を意識し習得することを目 標とする。 ・英文の内容をイメージ化することによって英語の まま理解できるようになる。 ・語句語法・重要表現・文法事項を理解し、それを 使って発話・作文・意見交換できるようになる。 ●チャンクで英単語 毎月英単語テストを実施する。	始業式
5	●教科書 L.2 ●チャンク	Tokyo's Seven-minutes Miracle	3 3 3 3		中間考査
6	●教科書 L.3 Sound Practice ●チャンク	Saint Bernard Dogs	3 3 3 3		期末考査 スポーツ祭
7	●教科書 L.4 ●チャンク	Chanel's Style	3 3 2		
8	●教科書L.5 ●チャンク	Science of Love	2		始業式
9			3 3 3 3		
10	●教科書 L.6 Sound Practice ●チャンク	Gaudi and His Messenger	3 3 3 3	中間考査 学校祭	
11	●教科書 L.7 ●チャンク	Letters from a Battlefield	3 3 3 3		
12	●教科書 L.8 ●チャンク	Edo: A Sustainable Siciety	3 3 3		期末考査
1	●教科書L.9 ●チャンク	AI and Our Future	3 3 3		終業式 始業式
2	●教科書 L.10 ●チャンク	Bhutan: A Happy Country	3 3 3 3		
3	●教科書 Reading ●チャンク		3 3 3		終業式

教科名	外国語（英語）	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3単位
対象学年	第2学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習
科目の目標	① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることができる。 ② 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を身につけ、意見を共有することができる。				
学習内容の概要	目標に基づき、「コミュニケーション英語Ⅱ」の内容のコミュニケーション活動を学習する。				
学習方法	適当な言語の使用場面を取り上げ、学習する。その際、聞いたり読んだりした内容について質問に答えたり、内容の要約をし、ペアで発表し合う。また、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて英語で簡潔に書く。				
評価の観点・評価方法	1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は、観点別評価に依り、主体的に学習に取り組もうとする姿勢で評価する。				
使用教材	「All Aboard! English CommunicationⅡ」（東京書籍）、「All Aboard! English CommunicationⅡワークブック」（東京書籍）、英語マスターノート（増進堂）、チャンクで英単語 Basic（三省堂）				
その他					
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	National Holidays and Events Lesson 1 Fantastic Festivals	世界の様々な祝日や行事を学ぶ。イタリアとフィリピンの祭りに関する発表を読み、その特徴と共通点を学ぶ。	1	日本の祝日や行事の英語表現 比較表現:more, the most	始業式 入学式
			3		
			3		
			3		
5	Lesson 2 Dancing with Freedom	ダンサーの菅原小春さんについて読み、世界で活躍するまでの道のりについて学ぶ。	3	関係代名詞:what	中間考査
			3		
			3		
6	Word Box 1 Feelings and Emotions Lesson3	感覚や感情を表す単語や表現を学ぶ。 天然記念物であるヤマネと、その生息環境について学ぶ。	3	感覚や感情を表す単語 間接疑問文	進路合宿 期末考査
			3		
			3		
			3		
7	Let's Listen 1 Lesson4 Living with Robots	ホテルのチェックインの表現を学ぶ。 ロボットについて読み、未来の生活について考える。	3	英語の音声の特徴とその聞き取り 名詞を後ろから説明する分詞	終業式
			3		
			3		
8	Word Box 2 A Day in English 1 Extra Target 1	生活の中の良く使われる単語	1	現在完了進行形	始業式
			3		
9	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	伝統文化である歌舞伎を限取について学ぶ。	3	to不定詞を含む表現	
			3		
			3		
			3		
10	Word Box 3 Let's Listen2 Lesson 6	身体各部分や衣服を表す語句 世界自然遺産について読み、内容を理解する。	3	身体各部分や衣服を表す語句 英語の説明を聞き、概要を理解する。	中間考査 学校祭
			3		
			3		
			3		
11	A Microcosm in the Sea プレゼンにチャレンジ	グレートバリアリーフについてのプレゼンテーションを通して、直面する問題について理解する。 プレゼンの基本表現を学ぶ。	3	動詞の目的語になるif節 英語でのプレゼン基本表現	
			3		
			3		
			3		
12	Lesson 7 Happiness through Hula	福島県いわき市とフラダンスとの関係を学ぶ。	3	知覚動詞	期末考査 終業式
			3		
			3		
1	Word Box 4 Communication 2	仕事や職業を表す語句や表現を学ぶ。 入国審査でのやり取りを学ぶ。	3	仕事や職業を表すのに使われる語句や表現 入国審査での表現	始業式 卒業考査
			3		
			3		
2	Lesson 8 The Magic of the Cotswolds	コッツウォルズ地方の文化やライフスタイルを学ぶ。	3	関係副詞：where, when	期末考査
			3		
			3		
			3		
3	文法のまとめ3	動詞の目的節になるif節、知覚動詞、関係副詞:where, whenを復習する。	3	動詞の目的節になるif節、知覚動詞、関係副詞:where, when	卒業式 2年研修旅行
			3		
			3		

教科名	外国語（英語）	科目名	英語会話	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年 特別進学コース α	履修形態	必修	授業形態	講義・実技
科目の目標	① 情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすこと。 ② この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てること。				
学習内容の概要	生徒が情報や考えなどの送り手や受け手になるように具体的な言語の使用場面を設定する。その場面や目的に応じて、読み手に理解されるように書くこと。				
学習方法	聞くこと、話すことおよび読むこととも有機的に関連付けた活動を行いながら、より豊かな内容やより適切な形式で書けるように学習する。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は観点別評価を踏まえ、評価する。				
使用教材	Atlantis English Conversation (Cheers)				
その他					

年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	Lesson 1	I like meeting new people.	2 2 2	Self introduction Asking and answering questions	始業式
5	Lesson 2	I usually wake up at 7:00 in the morning.	2 2 1 2	Adverbs of frequency Daily routine Types of questions	中間考査
6	Lesson 3	We're going to take a trip./ Song	2 2 2 2	Verb tenses: Going to Making a plan for the weekend Listening and retelling	期末考査
7	Lesson 4	How about going to a party?	2 2 2	Making suggestions Accepting and refusing Intonation practice Hobbies	終業式
8	Lesson 5	You should take off your shoes.	2	Imperative sentences and types of sentences used in conversation Giving advice Cultural differences	始業式
9	Lesson 6	We are not allowed to color our hair.	2 2 2 2	Rules and regulations Sports rules Part time jobs and work rules	
10	Lesson 7	Take a break and socialize (Review)	2 1 2 2	Asking for opinions Discuss vacation Was vs. did	中間考査
11	Lesson 8	I used to live in America.	2 2 2 2	Auxiliaries: used to Verb tenses - past, present, future Interviewing a classmate	期末考査
12	Lesson 9	What were you doing on Christmas eve?	2 2 2	Remembering the past Word stress and intonation Discussion and debate / Song	終業式
1	Lesson 10	Who is the funniest person in your school?	2 2 2	Comparatives Adjectives and adverbs Comparing people Comparing schedules	始業式
2	Lesson 11	How long have you played the piano?	2 2 2 2	Time span discussion Numbers and dates Interviewing a classmate	期末考査
3	Lesson 12	I wish I were rich.	2 2 2	Hopes and plans Describing people Discussing about the future	卒業式 終業式

教科名	外国語(英語)	科目名	地域活性	単位数	2単位	
対象学年	第2学年 普通科 進学コース		履修形態	必修	授業形態	【講義・演習・実技】
科目の目標	(1)地域活性していくことを目的として、(2)山陰の持ち味(たとえば、既存の観光地・資源、名産品、特産物、お土産などを)(3)新しい切り口(ビジネス・情報・アート・メディアの各専門領域の特性)で、(4)英語を使って、(5)国内外に発信して、周知させることができるものを 目指す。					
学習内容の 概 要	教科書を通して山陰についての基礎知識や海外訪問者に対して簡単なガイドができる程度の英語運用能力を身につけるとともに、自分たちの暮らす地域―郷土・山陰―を活性して いくことを大きなテーマに据え、自ら課題を発見し、それに対する解決策や提案を考え、それらを自分たちのことば(英語)で発信(プレゼンテーション)する。					
学習方法	●1学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)自分たちの暮らす地域について、①すすめたい、知ってほしい「こと・もの・ひと」(2つ)、②困っているところ・不安なところ(1つ)を個人発表する(Show & Tell)。 ●2学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、 英語でグループ・プレゼンテーションする。 ●3学期:1)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、 英語でグループ・プレゼンテーションする。					
評価の観点 評価方法	●1学期・(期末)考查(英語)30点・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・"Show&Tell"※詳細は別表(ルーブリック)30点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・ふりかえりシート・KWLシート10点(自己評価の妥当性・課題の認知)・出席点10点 ●2学期・(中間)考查(英語)35点・プレゼンテーション 30点・観察 10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点 10点 ●3学期・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・プレゼンテーション 70点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点10点					
使用教材	『《地域活性》教科書 Regional Vitalization 第4版』(本校作成教科書)					
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	1)全体オリエンテーション	1)本科目の設定背景、目標、命題、評価方法を知る	1	3)図書館が、今後の学習に必要な不可欠なことを知る	始業式 <small>新人オリエンテーション</small>	
	2)講演会①	2)自分たちの暮らす地域から「持ち味」を探す・見つける	1			
	3)図書館オリエンテーション	3)図書館のしくみ・使い方を知る	1			
	4)講演会②	4)自分たちの暮らす地域を自分たちとはちがう観点から見る	1			
	5)"Show & Tell"のための活動	5)自分の暮らす市町村を英語で紹介する	2			
	6)教科書、Areal, Unit1	6)交通機関について	2			
5	1)教科書、Area 1, Unit2	1)牛骨ラーメンについて	2	2)食事の注文ができる(聞くことができる) 3)学習の見通しと課題意識を持たせるとともに、調べわかったことをかたちにすることで達成感を持たせる「よいところ(P)」「よくないところ(M)」「気になるところ(I)」を挙げさせることで、"Show & Tell"の発表/2学期以降のプレゼンにつなげさせる	中間考查	
	2)"Show & Tell"のための活動	2)「KWLシート」「PMIシート」を使って自分たちの暮らす地域について調べ、知る	2			
	3)教科書、Areal, Unit3	3)豪円とうふについて	2			
	4)"Show & Tell"のための活動	4)評価基準を知ること、よいプレゼンテーションとは何かを知る/原稿を作成する	2			
6	1)"Show & Tell" (発表/評価)	2)"Show & Tell"の発表をもとに、2・3学期のプレゼンのためのグループをつくる 3)《見取県》について 4)《ワンダラー》、並びに、教科書(p.14)の図表を使って、自分たちが選んだ地域について知っていることを出し合う。	2	1)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 2)"Show & Tell"の発表をもとに生徒自らの興味関心に合わせて、5人程度のグループをつくる 3)情報を集めることができる 4)グループの方が様々なアイデアが出ることに気づくとともに、他の学習者の興味関心も満たすようにする	期末考查	
	2)【課題設定0】 グループ決め		2			
	3)教科書、Areal, Unit4		2			
	4)【課題設定1】		3			
7	1)学期末考查	2)課題 ①教科書中の他のAreaの「トピック」をすべて読み、調べて、わかったことをレポート ②自分たちの領域に関する他の都道府県での事例調査 ③地域の図書館の郷土資料についてレポート	1	1)教科書、"Show & Tell" から出題 2)課題 ①他の領域の「トピック」を読むことを通して、山陰(主に鳥取県)に関する基礎知識を得るとともに、これから見出しがいかなければならない課題に対する思考の領域を広める ②他の都道府県の先例を知ることを通して、自分たちの課題を解決していくためのヒントを得るとともに、自分たちの企画に付加価値をあたえるのに役立てる ③地域の図書館を知ることによって、より幅広い情報資源が活用できることを知る	終業式	
	2)考查返却/課題指示		1			
8	1)全体オリエンテーション	1)グループ・プレゼンテーションについての注意点(p.22)、並びに、その評価の仕方について確認する。	1	1)英語の発音・抑揚やアイコンタクト、声の大きさなどを意識させる	始業式	
9	2)教科書、Area2, Unit1	2)皆生温泉について	1	2)地域の特徴を説明できる		
	1)【課題設定2】 夏休みの課題の確認	1)特に課題②を中心に行う(8月「学習のポイント」参照)	2	1)【グループ⇨全体】で発表させ、できるだけ情報を広く共有するようにする		
	2)教科書、Area3, Unit1	2)SNS①:申請について	2	2)申し込みの表現をおぼえる		
	3)【課題設定4】 課題の決定	3)「ダイヤモンドランキング」または「座標軸」を使ってテーマを設定。	3	3)自分たちの「興味・関心」「緊急性」などを軸に優先順位を決める		
	4)教科書、Area4, Unit1	4)調理方法について	2	4)調理方法について説明することができる(切り方)		
	5)【情報の収集1】 図書館活動	5)NDCマップを使い、自分たちのテーマに合った資料を探せるようにするとともに、情報カードの記入の仕方について学ぶ	1	5)情報カードを並べることで、分類や比較などの整理をさせ、次の過程につながるように指示しておく		
10	1)中間考查	1) 2)図書館／ITC機器などのメディアの特性について学ぶ(p.p.16-18) 3)図書館／ITC機器を中心に調べ、記録カードを残す	1	1)教科書から出題 2)メディアの特性を理解し、バランスよく活用できるようにする	中間考查	
	2)考查返却／【情報収集2】		1			
11	3)【情報収集3】	1)夏休みの課題②や、(PMIシート)、巻末補遺資料②を活用して、主張を固めて、自分たちの提案・企画をしていく 2)巻末補遺資料③の《探究マップ》を使いながら、原稿・資料を作成する 3)本番の模擬練習をする 4)第1回プレゼンテーション(発表/評価)	5	3)次の過程で活用したり、参考文献として挙げることを確認する 1)問題のリフレーミングを行ったり、自分のマイナスの価値観が他者のプラスの価値観にならないかを検証させる 2)本科目の《命題》に則っているかなど、教科書や《探究マップ》を見て、作成する。 3)評価基準(別紙)を意識して練習する 4)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。	期末考查	
	1)【情報の整理・分析1】		2			
	2)【まとめ・表現1】		2			
	3)プレゼンテーションの練習		2			
	4)第1回プレゼンテーション(発表/評価)		2			
	1)前時の評価確認		1			
12	2)【まとめ・表現2】	2)前時のコメントを元に、内容を見直し、原稿・資料を英文に直す	4	1)他の学習者からのコメントを客観的な意見と受け止め、更にわかりやすく、根拠や主張がはっきりと示されたものをつくるようにする 2)翻訳アプリなども使用してもよいが、必ず、内容を確認をし、英語教科担任やALTなどのチェックを受けるようにする／ターゲット(同じ高校生)を意識し、かんたんな英語を使うようにする／資料は、できるだけ写真やイラスト、図、グラフ、チャートなど、視覚的に理解を補助するものと意識する／残りは冬休みの課題とし、3学期明けに提出することを確認する		
1	1)プレゼンテーション練習	1)声の大きさ、アイコンタクト、発音、PC操作などの練習を行う	6	1)教科書の「Ⅲ. プレゼンテーションを行うときの注意点」、ならびに、「Ⅳ. 評価」(別紙)を意識して練習する	始業式・実力テスト	
2	1)プレゼンテーション練習	1)同上	1	1)同上 2)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 3)レジュメに関しては、自分たちの成果が他の学年の生徒や外部のひとが読んでもわかるように心掛ける／レジュメが記録として残ることを確認する／選抜グループの発表は、みんなでひとつのものをつくるつもりで、そうでないグループにも知恵を出し合う	期末考查	
	2)第2回プレゼンテーション(発表/評価)	2)	4			
	3)プレゼンテーション練習／レジュメ作成	3)3月の校内発表会に向け、日本語のレジュメづくりをする／選抜グループは、他のグループからの助言を元に、原稿・資料の見直し、練習をする	2			
3	1)プレゼンテーション練習／レジュメ作成	1)同上	4	1)同上 2)オーディエンスの対象を1・2年生であることを意識し、プレゼンテーションを行う。	卒業式 終業式	
	2)校内成果発表会	2)各領域・各クラス選抜による発表。	2			

教科名		外国語(英語)	科目名	地域活性	単位数	2単位
対象学年	第2学年 普通科 総合選択コース(ビジネス)		履修形態	必修	授業形態	【講義・演習・実技】
科目の目標		(1)地域活性していくことを目的として、(2)山陰の持ち味(たとえば、既存の観光地・資源、名産品、特産物、お土産などを)(3)新しい切り口(ビジネス・情報・アート・メディアの各専門領域の特性)で、(4)英語を使って、(5)国内外に発信して、周知させることができるものを 目指す。				
学習内容の 概 要		教科書を通して山陰についての基礎知識や海外訪問者に対して簡単なガイドができる程度の英語運用能力を身につけるとともに、自分たちの暮らす地域―郷土・山陰―を活性していくことを大きなテーマに据え、自ら課題を発見し、それに対する解決策や提案を考え、それらを自分たちのことば(英語)で発信(プレゼンテーション)する。				
学習方法		●1学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)自分たちの暮らす地域について、①すすめたい、知ってほしい「こと・もの・ひと」(2つ)、②困っているところ・不安なところ(1つ)を個人発表する(Show & Tell)。 ●2学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、英語でグループ・プレゼンテーションする。 ●3学期:1)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、英語でグループ・プレゼンテーションする。				
評価の観点 評価方法		●1学期・(期末)考查(英語)30点・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・"Show&Tell"※詳細は別表(ルーブリック)30点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・ふりかえりシート/KWLシート10点(自己評価の妥当性・課題の認知)・出席点10点 ●2学期・(中間)考查(英語)35点・プレゼンテーション 30点・観察 10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点 10点 ●3学期・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・プレゼンテーション 70点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点10点				
使用教材		『《地域活性》教科書 Regional Vitalization 第4版』(本校作成教科書)				
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	1)全体オリエンテーション	1)本科目の設定背景、目標、命題、評価方法を知る	1	3)図書館が、今後の学習に必要な不可欠なことを知る	始業式 <small>新人オリエンテーション</small>	
	2)講演会①	2)自分たちの暮らす地域から「持ち味」を探す・見つける	1			
	3)図書館オリエンテーション	3)図書館のしくみ・使い方を知る	1			
	4)講演会②	4)自分たちの暮らす地域を自分たちとはちがう観点から見る	1			
	5)"Show & Tell"のための活動	5)自分の暮らす市町村を英語で紹介する	2			
	6)教科書、Areal, Unit1	6)交通機関について	2			
5	1)教科書、Area 1, Unit2	1)牛骨ラーメンについて	2	2)食事の注文ができる(聞くことができる) 3)学習の見通しと課題意識を持たせるとともに、調べわかったことをかたちにすることで達成感を持たせる「よいところ(P)」「よくないところ(M)」「気になるところ(I)」を挙げさせることで、"Show & Tell"の発表/2学期以降のプレゼンにつなげさせる	中間考查	
	2)"Show & Tell"のための活動	2)「KWLシート」「PMIシート」を使って自分たちの暮らす地域について調べ、知る	2			
	3)教科書、Areal, Unit3	3)豪門とうふについて	2			
	4)"Show & Tell"のための活動	4)評価基準を知ること、よいプレゼンテーションとは何かを知る/原稿を作成する	2			
6	1)"Show & Tell" (発表/評価)	2)"Show & Tell"の発表をもとに、2・3学期のプレゼンのためのグループをつくる	2	1)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 2)"Show & Tell"の発表をもとに生徒自らの興味関心に合わせて、5人程度のグループをつくる 3)情報を集めることができる 4)グループの方が様々なアイデアが出ることに気づくとともに、他の学習者の興味関心も湧くようにする	期末考查	
	2)【課題設定0】 グループ決め	2)"Show & Tell"の発表をもとに、2・3学期のプレゼンのためのグループをつくる	2			
	3)教科書、Areal, Unit4	3)【見取県】について	2			
	4)【課題設定1】	4)《ワンダラー》、並びに、教科書(p.14)の図表を使って、自分たちが選んだ地域について知っていることを出し合う。	3			
7	1)学期末考查	2)課題 ①教科書中の他のAreaの「トピック」をすべて読み、調べて、わかったことをレポート ②自分たちの領域に関する他の都道府県での事例調査 ③地域の図書館の郷土資料についてレポート	1	1)教科書、"Show & Tell" から出題 2)課題 ①他の領域の「トピック」を読むことを通して、山陰(主に鳥取県)に関する基礎知識を得るとともに、これから見出していかなければならない課題に対する思考の領域を広める ②他の都道府県の先例を知ることを通して、自分たちの課題を解決していくためのヒントを得るとともに、自分たちの企画に付加価値をあたえるのに役立てる ③地域の図書館を知ることによって、より幅広い情報資源が活用できることを知る	終業式	
	2)考查返却/課題指示		1			
8	1)全体オリエンテーション	1)グループ・プレゼンテーションについての注意点(p.22)、並びに、その評価の仕方について確認する。	1	1)英語の発音・抑揚やアイコンタクト、声の大きさなどを意識させる 2)地域の特徴を説明できる	始業式	
	2)教科書、Area2, Unit1	2)皆生温泉について	1			
9	1)【課題設定2】 夏休みの課題の確認	1)特に課題②を中心に行う(8月「学習のポイント」参照)	2	1)【グループ⇨全体】で発表させ、できるだけ情報を広く共有するようにする 2)観光のイベントについて聞く、または、説明できる 3)自分たちの「興味・関心」「緊急性」などを軸に優先順位を決める 4)簡単な値段の交渉ができる 5)情報カードを並べることで、分類や比較などの整理をさせ、次の過程につながるように指示しておく		
	2)教科書、Area2, Unit2	2)大山開山1300年について	2			
	3)【課題設定4】 課題の決定	3)「ダイヤモンドランキング」または「座標軸」を使ってテーマを設定。	3			
	4)教科書、Area2, Unit3	4)《蟹取県》について	2			
	5)【情報の収集1】 図書館活動	5)NDCマップを使い、自分たちのテーマに合った資料を探せるようにするとともに、情報ガードの記入の仕方について学ぶ	1			
10	1)中間考查	1)	1	1)教科書から出題 2)メディアの特性を理解し、バランスよく活用できるようにする 3)次の過程で活用したり、参考文献として挙げることを確認する	中間考查	
	2)考查返却／【情報収集2】	2)図書館／ITC機器などのメディアの特性について学ぶ(p.p.16-18)	1			
	3)【情報収集3】	3)図書館／ITC機器を中心に調べ、記録カードを残す	5			
11	1)【情報の整理・分析1】	1)夏休みの課題②や、《PMIシート》、巻末補遺資料②を活用して、主張を固めて、自分たちの提案・企画をしていく	2	1)問題のリフレーミングを行ったり、自分のマイナスの価値観が他者のプラスの価値観にならないかを検証させる 2)本科目の《命題》に則っているかなど、教科書や、《探究マップ》を見て、作成する。 3)評価基準(別紙)を意識して練習する 4)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う	期末考查	
	2)【まとめ・表現1】	2)巻末補遺資料③の《探究マップ》を使いながら、原稿・資料を作成する。	2			
	3)プレゼンテーションの練習	3)本番の模擬練習をする	2			
	4)第1回プレゼンテーション(発表/評価)		2			
12	1)前時の評価確認	1)前時の発表における他の学習者や指導教員からのコメントを確認し、記録する	1	1)他の学習者からのコメントを客観的な意見と受け止め、更にわかりやすく、根拠や主張がはっきりと示されたものをつくるようにする 2)翻訳アプリなども使用してもよいが、必ず、内容を確認をし、英語教科担任やALTなどのチェックを受けるようにする／ターゲット(同じ高校生)を意識し、かんたんな英語を使うようにする／資料は、できるだけ写真やイラスト、図、グラフ、チャートなど、視覚的に理解を補助するものと意識する／残りは冬休みの課題とし、3学期明けに提出することを確認する		
	2)【まとめ・表現2】	2)前時のコメントを元に、内容を見直し、原稿・資料を英文に直す	4			
1	1)プレゼンテーション練習	1)声の大きさ、アイコンタクト、発音、PC操作などの練習を行う	6	1)教科書の「Ⅲ. プレゼンテーションを行うときの注意点」、ならびに、「Ⅳ. 評価」(別紙)を意識して練習する		始業式・実力テスト
2	1)プレゼンテーション練習	1)同上	1	1)同上 2)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 3)レジメに関しては、自分たちの成果が他の学年の生徒や外部のひとが読んでもわかるように心掛ける／レジメが記録として残ることを確認する／選抜グループの発表は、みんながひとつのものをつくるつもりで、そうでないグループにも知恵を出し合う	期末考查	
	2)第2回プレゼンテーション(発表/評価)	2)	4			
	3)プレゼンテーション練習／レジメ作成	3)3月の校内発表会に向け、日本語のレジメづくりをする／選抜グループは、他のグループからの助言を元に、原稿・資料の見直し、練習をする	2			
3	1)プレゼンテーション練習／レジメ作成	1)同上	4	1)同上 2)オーディエンスの対象を1・2年生であることを意識し、プレゼンテーションを行う。	卒業式 終業式	
	2)校内成果発表会	2)各領域・各クラス選抜による発表。	2			

教科名	外国語(英語)	科目名	地域活性	単位数	2単位	
対象学年	第2学年 普通科 総合選択コース(生活)		履修形態	必修	授業形態	【講義・演習・実技】
科目の目標	(1)地域活性していくことを目的として、(2)山陰の持ち味(たとえば、既存の観光地・資源、名産品、特産物、お土産などを)(3)新しい切り口(ビジネス・情報・アート・メディアの各専門領域の特性)で、(4)英語を使って、(5)国内外に発信して、周知させることができるものを 目指す。					
学習内容の 概 要	教科書を通して山陰についての基礎知識や海外訪問者に対して簡単なガイドができる程度の英語運用能力を身につけるとともに、自分たちの暮らす地域―郷土・山陰―を活性して いくことを大きなテーマに据え、自ら課題を発見し、それに対する解決策や提案を考え、それらを自分たちのことば(英語)で発信(プレゼンテーション)する。					
学習方法	●1学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)自分たちの暮らす地域について、①すすめたい、知ってほしい「こと・もの・ひと」(2つ)、②困っているところ・不安なところ(1つ)を個人発表する(Show & Tell)。 ●2学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、 英語でグループ・プレゼンテーションする。 ●3学期:1)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、 英語でグループ・プレゼンテーションする。					
評価の観点 評価方法	●1学期・(期末)考查(英語)30点・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・"Show&Tell"※詳細は別表(ルーブリック)30点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・ふりかえりシート・KWLシート10点(自己評価の妥当性・課題の認知)・出席点10点 ●2学期・(中間)考查(英語)35点・プレゼンテーション 30点・観察 10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点 10点 ●3学期・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・プレゼンテーション 70点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点10点					
使用教材	『《地域活性》教科書 Regional Vitalization 第4版』(本校作成教科書)					
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	1)全体オリエンテーション	1)本科目の設定背景、目標、命題、評価方法を知る	1	3)図書館が、今後の学習に必要な不可欠なことを知る	始業式 <small>あふみさのりコンファ</small>	
	2)講演会①	2)自分たちの暮らす地域から「持ち味」を探す・見つける	1			
	3)図書館オリエンテーション	3)図書館のしくみ・使い方を知る	1			
	4)講演会②	4)自分たちの暮らす地域を自分たちとはちがう観点から見る	1			
	5)"Show & Tell"のための活動	5)自分の暮らす市町村を英語で紹介する	2			
	6)教科書、Areal, Unit1	6)交通機関について	2			
5	1)教科書、Area 1, Unit2	1)牛骨ラーメンについて	2	2)食事の注文ができる(聞くことができる) 3)学習の見通しと課題意識を持たせるとともに、調べわかったことをかたちにすることで達成感を持たせる(「よいところ(P)」「よくないところ(M)」「気になるところ(I)」を挙げさせることで、"Show & Tell"の発表/2学期以降のプレゼンにつなげさせる	中間考查	
	2)"Show & Tell"のための活動	2)《KWLシート》《PMIシート》を使って自分たちの暮らす地域について調べ、知る	2			
	3)教科書、Areal, Unit3	3)豪円とうふについて	2			
	4)"Show & Tell"のための活動	4)評価基準を知ること、よいプレゼンテーションとは何かを知る/原稿を作成する	2			
6	1)"Show & Tell" (発表/評価)	2)"Show & Tell"の発表をもとに、2・3学期のプレゼンのためのグループをつくる	2	1)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 2)"Show & Tell"の発表をもとに生徒自らの興味関心に合わせて、5人程度のグループをつくる 3)情報を集めることができる 4)グループの方が様々なアイデアが出ることに気づくとともに、他の学習者の興味関心も湧くようにする	期末考查	
	2)【課題設定0】 グループ決め		2			
	3)教科書、Areal, Unit4	3)《見取県》について	2			
	4)【課題設定1】	4)《ワンダラント》、並びに、教科書(p.14)の図表を使って、自分たちが選んだ地域について知っていることを出し合う。	3			
7	1)学期末考查	2)課題 ①教科書中の他のAreaの「トピック」をすべて読み、調べて、わかったことをレポート ②自分たちの領域に関する他の都道府県での事例調査 ③地域の図書館の郷土資料についてレポート	1	1)教科書、"Show & Tell" から出題 2)課題 ①他の領域の「トピック」を読むことを通して、山陰(主に鳥取県)に関する基礎知識を得るとともに、これから見出していかなければならない課題に対する思考の領域を広める ②他の都道府県の先例を知ることを通して、自分たちの課題を解決していくためのヒントを得るとともに、自分たちの企画に付加価値をあたえるのに役立てる ③地域の図書館を知ることによって、より幅広い情報資源が活用できることを知る	終業式	
	2)考查返却/課題指示		1			
8	1)全体オリエンテーション	1)グループ・プレゼンテーションについての注意点(p.22)、並びに、その評価の仕方について確認する。	1	1)英語の発音・抑揚やアイコンタクト、声の大きさなどを意識させる	始業式	
9	2)教科書、Area4, Unit1	2))調理方法について	1	2)調理方法について説明することができる(切り方)		
	1)【課題設定2】 夏休みの課題の確認	1)特に課題②を中心に行う(8月「学習のポイント」参照)	2	1)【グループ⇨全体】で発表させ、できるだけ情報を広く共有するようにする		
	2)教科書、Area4, Unit2	2)大山おこわについて	2	2)お勤めを聞く/提案することができる		
	3)【課題設定4】 課題の決定	3)「ダイヤモンドランキング」または「座標軸」を使ってテーマを設定。	3	3)自分たちの「興味・関心」「緊急性」などを軸に優先順位を決める		
	4)教科書、Area4, Unit3	4)のこめし(いただき)について	2	4)ものの特徴を説明することができる		
	5)【情報の収集1】 図書館活動	5)NDGマップを使い、自分たちのテーマに合った資料を探せるようにするとともに、情報カードの記入の仕方について学ぶ	1	5)情報カードを並べることで、分類や比較などの整理をさせ、次の過程につながるよう指示しておく		
10	1)中間考查	1)	1	1)教科書から出題 2)メディアの特性を理解し、バランスよく活用できるようにする 3)次の過程で活用したり、参考文献として挙げることを確認する	中間考查	
	2)考查返却/【情報収集2】	2)図書館/ITC機器などのメディアの特性について学ぶ(p.p.16-18)	1			
	3)【情報収集3】	3)図書館/ITC機器を中心に調べ、記録カードを残す	5			
11	1)【情報の整理・分析1】	1)夏休みの課題②や、(PMIシート)、巻末補遺資料②を活用して、主張を固めて、自分たちの提案・企画をしていく	2	1)問題のリフレーミングを行ったり、自分のマイナスの価値観が他者のプラスの価値観にならないかを検証させる	期末考查	
	2)【まとめ・表現1】	2)巻末補遺資料③の《探究マップ》を使いながら、原稿・資料を作成する。	2	2)本科目の《命題》に則っているかなど、教科書や《探究マップ》を見て、作成する。		
	3)プレゼンテーションの練習	3)本番の模擬練習をする	2	3)評価基準(別紙)を意識して練習する		
	4)第1回プレゼンテーション(発表/評価)		2	4)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。		
12	1)前時の評価確認	1)前時の発表における他の学習者や指導教員からのコメントを確認し、記録する	1	1)他の学習者からのコメントを客観的な意見と受け止め、更にわかりやすく、根拠や主張がはっきりと示されたものをつくるようにする 2)翻訳アプリなども使用してもよいが、必ず、内容を確認をし、英語教科担任やALTなどのチェックを受けるようにする/ターゲット(同じ高校生)を意識し、かんたんな英語を使うようにする/資料は、できるだけざり写真やイラスト、図、グラフ、チャートなど、視覚的に理解を補助するものと意識する/残りは冬休みの課題とし、3学期明けに提出することを確認する		
	2)【まとめ・表現2】	2)前時のコメントを元に、内容を見直し、原稿・資料を英文に直す	4			
1	1)プレゼンテーション練習	1)声の大きさ、アイコンタクト、発音、PC操作などの練習を行う	6	1)教科書の「Ⅲ. プレゼンテーションを行うときの注意点」、ならびに、「Ⅳ. 評価」(別紙)を意識して練習する	始業式・実力テスト	
2	1)プレゼンテーション練習	1)同上	1	1)同上 2)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 3)レジュメに関しては、自分たちの成果が他の学年の生徒や外部のひとが読んでもわかるように心掛ける/レジュメが記録として残ることを確認する/選抜グループの発表は、みんなでひとつのものをつくるつもりで、そうでないグループにも知恵を出し合う	期末考查	
	2)第2回プレゼンテーション(発表/評価)	2)	4			
	3)プレゼンテーション練習/レジュメ作成	3)3月の校内発表会に向け、日本語のレジュメづくりをする/選抜グループは、他のグループからの助言を元に、原稿・資料の見直し、練習をする	2			
3	1)プレゼンテーション練習/レジュメ作成	1)同上	4	1)同上 2)オーディエンスの対象を1・2年生であることを意識し、プレゼンテーションを行う。	卒業式 終業式	
	2)校内成果発表会	2)各領域・各クラス選抜による発表。	2			

教科名	外国語(英語)	科目名	地域活性	単位数	2単位	
対象学年	第2学年 普通科 総合選択コース(情報)		履修形態	必修	授業形態	【講義・演習・実技】
科目の目標	(1)地域活性していくことを目的として、(2)山陰の持ち味(たとえば、既存の観光地・資源、名産品、特産物、お土産などを)(3)新しい切り口(ビジネス・情報・アート・メディアの各専門領域の特性)で、(4)英語を使って、(5)国内外に発信して、周知させることができるものを 目指す。					
学習内容の概要	教科書を通して山陰についての基礎知識や海外訪問者に対して簡単なガイドができる程度の英語運用能力を身につけるとともに、自分たちの暮らす地域―郷土・山陰―を活性していくことを大きなテーマに据え、自ら課題を発見し、それに対する解決策や提案を考え、それらを自分たちのことば(英語)で発信(プレゼンテーション)する。					
学習方法	●1学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)自分たちの暮らす地域について、①すすめたい、知ってほしい「こと・もの・ひと」(2つ)、②困っているところ・不安なところ(1つ)を個人発表する(Show & Tell)。 ●2学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、英語でグループ・プレゼンテーションする。 ●3学期:1)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、英語でグループ・プレゼンテーションする。					
評価の観点 評価方法	●1学期・(期末)考查(英語)30点・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・"Show&Tell"※詳細は別表(ルーブリック)30点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・ふりかえりシート/KWLシート10点(自己評価の妥当性・課題の認知)・出席点10点 ●2学期・(中間)考查(英語)35点・プレゼンテーション 30点・観察 10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点 10点 ●3学期・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・プレゼンテーション 70点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点10点					
使用教材	『《地域活性》教科書 Regional Vitalization 第4版』(本校作成教科書)					
その他						
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	1)全体オリエンテーション	1)本科目の設定背景、目標、命題、評価方法を知る	1	3)図書館が、今後の学習に必要な不可欠なことを知る	始業式 <small>新人オリエンテーション</small>	
	2)講演会①	2)自分たちの暮らす地域から「持ち味」を探す・見つける	1			
	3)図書館オリエンテーション	3)図書館のしくみ・使い方を知る	1			
	4)講演会②	4)自分たちの暮らす地域を自分たちとはちがう観点から見る	1			
	5)"Show & Tell"のための活動	5)自分の暮らす市町村を英語で紹介する	2			
	6)教科書、Areal, Unit1	6)交通機関について	2			
5	1)教科書、Area 1, Unit2	1)牛骨ラーメンについて	2	2)食事の注文ができる(聞くことができる) 3)学習の見通しと課題意識を持たせるとともに、調べわかったことをかたちにすることで達成感を持たせる「よいところ(P)」「よくないところ(M)」「気になるところ(I)」を挙げさせることで、"Show & Tell"の発表/2学期以降のプレゼンにつなげさせる	中間考查	
	2)"Show & Tell"のための活動	2)《KWLシート》《PMIシート》を使って自分たちの暮らす地域について調べ、知る	2			
	3)教科書、Areal, Unit3	3)豪門とうふについて	2			
	4)"Show & Tell"のための活動	4)評価基準を知ること、よいプレゼンテーションとは何かを知る/原稿を作成する	2			
6	1)"Show & Tell"(発表/評価)	2)"Show & Tell"の発表をもとに、2・3学期のプレゼンのためのグループをつくる	2	1)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 2)"Show & Tell"の発表をもとに生徒自らの興味関心に合わせて、5人程度のグループをつくる 3)情報を集めることができる 4)グループの方が様々なアイデアが出ることに気づくとともに、他の学習者の興味関心も湧くようにする	期末考查	
	2)【課題設定0】グループ決め		2			
	3)教科書、Areal, Unit4	3)《見取図》について	2			
	4)【課題設定1】	4)《ワンダラート》、並びに、教科書(p.14)の図表を使って、自分たちが選んだ地域について知っていることを出し合う。	3			
7	1)学期末考查	2)課題 ①教科書中の他のAreaの「トピック」をすべて読み、調べて、わかったことをレポート ②自分たちの領域に関する他の都道府県での事例調査 ③地域の図書館の郷土資料についてレポート	1	1)教科書、"Show & Tell" から出題 2)課題 ①他の領域の「トピック」を読むことを通して、山陰(主に鳥取県)に関する基礎知識を得るとともに、これから見出しがいかなければならない課題に対する思考の領域を広める ②他の都道府県の先例を知ることを通して、自分たちの課題を解決していくためのヒントを得るとともに、自分たちの企画に付加価値をあたえるのに役立てる ③地域の図書館を知ることによって、より幅広い情報資源が活用できることを知る	終業式	
	2)考查返却/課題指示		1			
8	1)全体オリエンテーション	1)グループ・プレゼンテーションについての注意点(p.22)、並びに、その評価の仕方について確認する。	1	1)英語の発音・抑揚やアイコンタクト、声の大きさなどを意識させる	始業式	
9	2)教科書、Area3, Unit1	2)SNS①:申請について	1	2)申し込みの表現をおぼえる		
	1)【課題設定2】夏休みの課題の確認	1)特に課題②を中心に行う(8月「学習のポイント」参照)	2	1)【グループ⇨全体】で発表させ、できるだけ情報を広く共有するようにする		
	2)教科書、Area3, Unit2	2)SNS②:投稿(情報モラル)について	2	2)自分が夢中になっているものについて話ができる		
	3)【課題設定4】課題の決定	3)「ダイヤモンドランキング」または「座標軸」を使ってテーマを設定。	3	3)自分たちの「興味・関心」「緊急性」などを軸に優先順位を決める		
	4)教科書、Area3, Unit3	4)ARIについて	2	4)自分の意見を述べる・提案することができる		
	5)【情報の収集1】図書館活動	5)NDcマップを使い、自分たちのテーマに合った資料を探せるようにするとともに、情報カードの記入の仕方について学ぶ	1	5)情報カードを並べることで、分類や比較などの整理をさせ、次の過程につながるよう指示しておく		
10	1)中間考查	1)	1	1)教科書から出題	中間考查	
	2)考查返却/【情報収集2】	2)図書館/ITC機器などのメディアの特性について学ぶ(p.p.16~18)	1	2)メディアの特性を理解し、バランスよく活用できるようにする		
	3)【情報収集3】	3)図書館/ITC機器を中心に調べ、記録カードを残す	5	3)次の過程で活用したり、参考文献として挙げることを確認する		
11	1)【情報の整理・分析1】	1)夏休みの課題②や、《PMIシート》、巻末補遺資料②を活用して、主張を固めて、自分たちの提案・企画をしていく	2	1)問題のリフレーミングを行ったり、自分のマイナスの価値観が他者のプラスの価値観にならないかを検証させる	期末考查	
	2)【まとめ・表現1】	2)巻末補遺資料③の《探究マップ》を使いながら、原稿・資料を作成する。	2	2)本科目の《命題》に則っているかなど、教科書や《探究マップ》を見て、作成する。		
	3)プレゼンテーションの練習	3)本番の模擬練習をする	2	3)評価基準(別紙)を意識して練習する		
	4)第1回プレゼンテーション(発表/評価)		2	4)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。		
12	1)前時の評価確認	1)前時の発表における他の学習者や指導教員からのコメントを確認し、記録する	1	1)他の学習者からのコメントを客観的な意見と受け止め、更にわかりやすく、根拠や主張がはっきりと示されたものをつくるようにする		
	2)【まとめ・表現2】	2)前時のコメントを元に、内容を見直し、原稿・資料を英文に直す	4	2)翻訳アプリなども使用してもよいが、必ず、内容を確認をし、英語教科担任やALTなどのチェックを受けるようにする/ターゲット(同じ高校生)を意識し、かんたんな英語を使うようにする/資料は、できるだけ写真やイラスト、図、グラフ、チャートなど、視覚的に理解を補助するものと意識する/残りは冬休みの課題とし、3学期明けに提出することを確認する		
1	1)プレゼンテーション練習	1)声の大きさ、アイコンタクト、発音、PC操作などの練習を行う	6	1)教科書の「Ⅲ. プレゼンテーションを行うときの注意点」、ならびに、「Ⅳ. 評価」(別紙)を意識して練習する	始業式・実力テスト	
2	1)プレゼンテーション練習	1)同上	1	1)同上	期末考查	
	2)第2回プレゼンテーション(発表/評価)	2)	4	2)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。		
	3)プレゼンテーション練習/レジュメ作成	3)3月の校内発表会に向け、日本語のレジュメづくりをする/選抜グループは、他のグループからの助言を元に、原稿・資料の見直し、練習をする	2	3)レジュメに関しては、自分たちの成果が他の学年の生徒や外部のひとが読んでもわかるように心掛ける/レジュメが記録として残ることを確認する/選抜グループの発表は、みんなでのびのびのものをつくるつもりで、そうでないグループにも知恵を出し合う		
3	1)プレゼンテーション練習/レジュメ作成	1)同上	4	1)同上	卒業式 終業式	
	2)校内成果発表会	2)各領域・各クラス選抜による発表。	2	2)オーディエンスの対象を1・2年生であることを意識し、プレゼンテーションを行う。		

教科名	外国語(英語)	科目名	地域活性	単位数	2単位	
対象学年	第2学年 総合選択コース(アート)		履修形態	必修	授業形態	【講義・演習・実技】
科目の目標	(1)地域活性していくことを目的として、(2)山陰の持ち味(たとえば、既存の観光地・資源、名産品、特産物、お土産などを)(3)新しい切り口(ビジネス・情報・アート・メディアの各専門領域の特性)で、(4)英語を使って、(5)国内外に発信して、周知させることができるものを目指す。					
学習内容の概要	教科書を通して山陰についての基礎知識や海外訪問者に対して簡単なガイドができる程度の英語運用能力を身につけるとともに、自分たちの暮らす地域―郷土・山陰―を活性していくことを大きなテーマに据え、自ら課題を発見し、それに対する解決策や提案を考え、それらを自分たちのことば(英語)で発信(プレゼンテーション)する。					
学習方法	●1学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)自分たちの暮らす地域について、①すすめたい、知ってほしい「こと・もの・ひと」(2つ)、②困っているところ・不安なところ(1つ)を個人発表する(Show & Tell)。 ●2学期:1)教科書を通じて、各専門領域と山陰地方についての知識を身につけるとともに、汎用的な会話表現を学び、演習する。 2)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、英語でグループ・プレゼンテーションする。 ●3学期:1)各領域の知識・技能を生かしながら、探究学習(【課題設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】)を通じて山陰地方を活性化させるための企画を考案し、英語でグループ・プレゼンテーションする。					
評価の観点 評価方法	●1学期・(期末)考查(英語)30点・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・"Show&Tell"※詳細は別表(ルーブリック)30点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・ふりかえりシート/KWLシート10点(自己評価の妥当性・課題の認知)・出席点10点 ●2学期・(中間)考查(英語)35点・プレゼンテーション 30点・観察 10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点 10点 ●3学期・提出物(英語の発音・ICT機器(ロイノート)の運用技術)10点・プレゼンテーション 70点・観察10点(積極性・協調性・継続性)・提出課題 10点・出席点10点					
使用教材	『《地域活性》教科書 Regional Vitalization 第4版』(本校作成教科書)					
その他						
年間授業計画						
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	1)全体オリエンテーション 2)講演会① 3)図書館オリエンテーション 4)講演会② 5)"Show & Tell"のための活動 6)教科書、Areal, Unit1	1)本科目の設定背景、目標、命題、評価方法を知る 2)自分たちの暮らす地域から「持ち味」を探す・見つける 3)図書館のしくみ・使い方を知る 4)自分たちの暮らす地域を自分たちとはちがう観点から見る 5)自分の暮らす市町村を英語で紹介する 6)交通機関について	1 1 1 1 2 2	3)図書館が、今後の学習に必要な不可欠なことを知る 6)距離や運賃について説明できる	始業式 <small>新人オリエンテーション</small>	
	1)教科書、Area 1, Unit2 2)"Show & Tell"のための活動	1)牛骨ラーメンについて 2)「KWLシート」「PMIシート」を使って自分たちの暮らす地域について調べ、知る	2 2	2)食事の注文ができる(聞くことができる) 3)学習の見通しと課題意識を持たせるとともに、調べわかったことをかたちにすることで達成感を持たせる「よいところ(P)」「よくないところ(M)」「気になるところ(I)」を挙げさせることで、"Show & Tell"の発表/2学期以降のプレゼンにつなげさせる	中間考查	
	3)教科書、Areal, Unit3 4)"Show & Tell"のための活動	3)豪門とうふについて 4)評価基準を知ること、よいプレゼンテーションとは何かを知る/原稿を作成する	2 2	1)賞味期限について説明できる 4)フォーマットに従いながら、2)を英語でまとめる		
	1)"Show & Tell"(発表/評価) 2)【課題設定0】グループ決め 3)教科書、Areal, Unit4 4)【課題設定1】	1) 2)"Show & Tell"の発表をもとに、2・3学期のプレゼンのためのグループをつくる 3)【見取県】について 4)《マンガダー》、並びに、教科書(p.14)の図表を使って、自分たちが選んだ地域について知っていることを出し合う。	2 2 2 3	1)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 2)"Show & Tell"の発表をもとに生徒自らの興味関心に合わせて、5人程度のグループをつくる 3)情報を集めることができる 4)グループの方が様々なアイデアが出ることに気づくとともに、他の学習者の興味関心も湧くようにする	期末考查	
	1)学期末考查 2)考查返却/課題指示	1) 2)課題 ①教科書中の他のAreaの「トピック」をすべて読み、調べて、わかったことをレポート ②自分たちの領域に関する他の都道府県での事例調査 ③地域の図書館の郷土資料についてレポート	1 1	1)教科書、"Show & Tell" から出題 2)課題 ①他の領域の「トピック」を読むことを通して、山陰(主に鳥取県)に関する基礎知識を得るとともに、これから見出ししていかなければならない課題に対する思考の領域を広める ②他の都道府県の先例を知ることを通して、自分たちの課題を解決していくためのヒントを得るとともに、自分たちの企画に付加価値をあたえるのに役立てる ③地域の図書館を知ることによって、より幅広い情報資源が活用できることを知る	終業式	
	1)全体オリエンテーション 2)教科書、Area5, Unit1	1)グループ・プレゼンテーションについての注意点(p.22)、並びに、その評価の仕方について確認する。 2)マンガ文化のちがひについて	1 1	1)英語の発音・抑揚やアイコンタクト、声の大きさなどを意識させる 2)何かについて詳しく聞くことができる	始業式	
9	1)【課題設定2】夏休みの課題の確認 2)教科書、Area5, Unit2 3)【課題設定4】課題の決定 4)教科書、Area5, Unit3 5)【情報の収集1】図書館活動	1)特に課題②を中心に行う(8月「学習のポイント」参照) 2)イラスト(マンガ)制作について 3)「ダイヤモンドランキング」または「座標軸」を使ってテーマを設定。 4)ゴミ分別のイラスト・ポスターの製作について 5)NDCマップを使い、自分たちのテーマに合った資料を探せるようにするとともに、情報カードの記入の仕方について学ぶ	2 2 3 2 1	1)【グループ⇨全体】で発表させ、できるだけ情報を広く共有するようにする 2)順序立てて、工程などを説明できる 3)自分たちの「興味・関心」「緊急性」などを軸に優先順位を決める 4)順位を示しながら、地域の特徴を説明できる 5)情報カードを並べることで、分類や比較などの整理をさせ、次の過程につながるように指示しておく		
10	1)中間考查 2)考查返却/【情報収集2】 3)【情報収集3】	1) 2)図書館/ITC機器などのメディアの特性について学ぶ(p.p.16-18) 3)図書館/ITC機器を中心に調べ、記録カードを残す	1 1 5	1)教科書から出題 2)メディアの特性を理解し、バランスよく活用できるようにする 3)次の過程で活用したり、参考文献として挙げることを確認する	中間考查	
11	1)【情報の整理・分析1】 2)【まとめ・表現1】 3)プレゼンテーションの練習 4)第1回プレゼンテーション(発表/評価)	1)夏休みの課題②や、《PMIシート》、巻末補遺資料②を活用して、主張を固めて、自分たちの提案・企画をしていく 2)巻末補遺資料③の《探究マップ》を使いながら、原稿・資料を作成する。 3)本番の模擬練習をする	2 2 2 2	1)問題のリフレーミングを行ったり、自分のマイナスの価値観が他者のプラスの価値観にならないかを検証させる 2)本科目の《命題》に則っているかなど、教科書や、《探究マップ》を見て、作成する。 3)評価基準(別紙)を意識して練習する 4)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う	期末考查	
12	1)前時の評価確認 2)【まとめ・表現2】	1)前時の発表における他の学習者や指導教員からのコメントを確認し、記録する 2)前時のコメントを元に、内容を見直し、原稿・資料を英文に直す	1 4	1)他の学習者からのコメントを客観的な意見と受け止め、更にわかりやすく、根拠や主張がはっきりと示されたものをつくるようにする 2)翻訳アプリなども使用してもよいが、必ず、内容を確認をし、英語教科担任やALTなどのチェックを受けるようにする/ターゲット(同じ高校生)を意識し、かんたんな英語を使うようにする/資料は、できるだけ写真やイラスト、図、グラフ、チャートなど、視覚的に理解を補助するものと意識する/残りは冬休みの課題とし、3学期明けに提出することを確認する		
1	1)プレゼンテーション練習	1)声の大きさ、アイコンタクト、発音、PC操作などの練習を行う	6	1)教科書の「Ⅲ. プレゼンテーションを行うときの注意点」、ならびに、「Ⅳ. 評価」(別紙)を意識して練習する	始業式・実力テスト	
2	1)プレゼンテーション練習 2)第2回プレゼンテーション(発表/評価) 3)プレゼンテーション練習/レジメ作成	1)同上 2) 3)3月の校内発表会に向け、日本語のレジメづくりをする/選抜グループは、他のグループからの助言を元に、原稿・資料の見直し、練習をする	1 4 2	1)同上 2)他の学習者の発表を評価することで、客観的な視点を養う。 3)レジメに関しては、自分たちの成果が他の学年の生徒や外部のひとが読んでもわかるように心掛ける/レジメが記録として残ることを確認する/選抜グループの発表は、みんなでのびのびのものをつくるつもりで、そうでないグループにも知恵を出し合う	期末考查	
3	1)プレゼンテーション練習/レジメ作成 2)校内成果発表会	1)同上 2)各領域・各クラス選抜による発表。	4 2	1)同上 2)オーディエンスの対象を1・2年生であることを意識し、プレゼンテーションを行う。	卒業式 終業式	

教科名	商業	科目名	簿記	単位数	4単位
対象学年	第2学年 総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	この科目は普通科総合選択ビジネスコースの生徒に対し、2年次において全商簿記検定3級を取得することを目標としている。1・2学期において、全商簿記検定3級範囲の学習を終え、1月第4週に行われる全商簿記検定試験3級の合格を目標とする。				
学習内容の概要	全商3級までの範囲の学習を通し、簿記の基本的な知識の理解・習得を行い、帳簿記入によって個人企業の基本的な経済活動を把握する力を養うとともに、経済・経営への興味・関心の啓発を図る。また、検定試験を目標とした演習などにおいて範囲の総復習と習熟を図る。				
学習方法	帳簿記入に用いられる科目を、分野・段階別に学習していき、各段階における学習効果の充実を図る。生徒へは、不明な点などの質問を積極的に行うよう指示し、啓発的な学習となるよう指導する。				
評価の観点 評価方法	規定に従い、中間・期末の考查点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価とし、知識・技能・思考・判断・表現・主体的に学習に取り組む姿勢を客観的に判断し、20点満点で評価する。				
使用教材	通年 ア. 実教出版「新簿記」 イ. 東京法令出版「完全段階式 標準簿記問題集 《全商3級》」 ウ. 実教出版「簿記実務検定 模擬問題集 3級」 エ. 教師作成プリント				
その他	補習 クラスの進度・習熟度について判断し、必要に応じて行う。 補習を行う場合、1学期から2学期にかけては習熟の徹底をはかるための補習を行い、2学期末から1月末にかけては検定試験に向けての演習中心の補習を行う。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	簿記の基本	企業の簿記 (意味・目的・種類・歴史・前提) 企業の取引と勘定(用語の理解) 帳簿(基本)の作成	9	簿記の必要性・有効性を理解し、興味・関心を持つことを重視。 専門用語を暗記ではなく、意味を理解しつつ覚える。	始業式
5	各種取引の記帳	現金・預金の記帳 小口現金の記帳	16	仕訳においては、分記法・3分法の順に指導する。 具体的な取引内容をイメージしながら記帳練習を行い、応用力の習得も行う。	中間考査
6		商品売買の記帳 掛取引の記帳	15		
7		その他の債権債務の記帳	11		期末考査 終業式
8		固定資産の記帳 営業費の記帳	7		始業式
9		個人企業の純資産の記帳	18		
10	決 算	決算整理(その1) 精算表 財務諸表 帳簿決算	16	決算の意味を理解し、その効果について考えながら学習する。	中間考査
11	伝票 総復習・演習	伝票(3伝票制)による記帳	15	3伝票制による起票・集計・転記を学習する。	
12	総復習・演習	模擬問題 過去の検定問題	12	総復習を行うことによって、8ヶ月間の学習内容を整理・理解する。演習によって記帳に習熟し、検定試験の合格を目指す。	期末考査 終業式
1	検定試験受験		12		始業式 全商簿記検定
2	決算 ～進んだ学習～	プリント 過去の検定問題	15	プリント使用し、演習を行なう。 2級の決算に入り、ゆっくり進める。	期末考査
3		費用・収益の繰り延べと見越し 財務諸表の作成	11		卒業式 終業式

教科名	商 業	科目名	ビジネスマナーⅠ	単位数	2 単位
対 象 学 年	第 2 学 年 総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	社会に出れば学生時代とは異なり、責任と義務が大きくなる。社会では常に全力をつくして仕事に取り組まなければならない。学生時代に社会人として必要なマナーと知識を習得させ、身につけ実践させることにより、ビジネスの諸活動が快適かつ意欲的に過ごせるよう学習させる。				
学 習 内 容 の 要 概	秘書検定の内容を通じてオフィスでの基本を身につけさせる。 労働基準法の内容を取り扱い、働くということが法的な観点から見てどのようなものなのかを理解させる。				
学 習 方 法	座学による学習。單元ごとに問題を与え、理解度を図る。				
評 価 の 観 点 ・ 評 価 方 法	規定に従い、一学期、二学期、三学期とも定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点は観点別評価による。				
使 用 教 材	自主教材テキスト『ビジネスマナー』				
そ の 他	原則的に補習は行わない。 秘書検定3級取得を目指す。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	身だしなみ オフィス環境	望まれる身だしなみ 室内清掃、環境整備	6	・ 服装全般を中心に職場において望まれる身だしなみについて理解させる。 ・ 応接室、会議室など清掃、整備のポイントを理解させる。	始業式
5	オフィス用品 文書	ファイリングと資料管理 名刺の管理 主な事務用品 各種消耗品 受発信文書 マル秘文書の取り扱い	8	・ 資料や名刺の管理に必要な道具と整理の仕方、資料管理の重要性について理解させる。 ・ 基本的な文書構成、文書の取り扱いについて理解させる。	中間考査
6	郵便物 対話・言葉遣い 電話応対	各種郵便物 特殊取扱郵便物 尊敬語 謙譲語 電話のかけ方、受け方	8	・ 各種郵便物の特徴、特殊取扱郵便物の種類と特徴について理解させる。 ・ 敬語の種類と使い分けについて理解させる。 ・ 電話応対の注意点を理解させる。	
7	慶弔・贈答	慶事、弔事 各種贈答	4	・ 各種慶弔・贈答に必要な知識、注意事項を理解させる。	期末考査 終業式
8	来客応対	席次 上司不在の場合 茶菓接待	2	・ 来客の応対に必要な注意点について理解させる。	始業式
9	会議とその準備 出張とその準備	事前準備と後始末 出張における秘書の仕事	8	・ 会議における秘書の役割について理解させる。 ・ 出張時の秘書の仕事について理解させる。	
10	検定練習	過去問練習	8	・ 実問題集を用いて検定試験に備える。	中間考査
11	検定練習 慶弔	過去問練習 金子包の上書き練習	8	・ 実問題集を用いて検定試験に備える。 ・ 慶弔時に使用する金子包に毛筆で表書き練習し、綺麗な文字が書けるようにさせる。	秘書検定
12	検定練習	過去問練習	6	・ 実問題集を用いて検定試験に備える。	期末考査 終業式
1	検定練習	過去問練習	6	・ 実問題集を用いて検定試験に備える。	始業式
2	検定練習	過去問練習	8	・ 実問題集を用いて検定試験に備える。	期末考査
3	検定練習	過去問練習	6	・ 実問題集を用いて検定試験に備える。	終業式

教科名	商 業	科目名	ビジネスマナー I	単位数	2 単位	
対 象 学 年	第 2 学 年 総合選択コース 生活関連選択		履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	社会に出れば学生時代とは異なり、責任と義務が大きくなる。社会では常に全力をつくして仕事に取り組まなければならない。学生時代に社会人として必要なマナーと知識を習得させ、身につけ実践させることにより、ビジネスの諸活動が快適かつ意欲的に過ごせるよう学習させる。					
学 習 内 容 の 要 概	秘書検定の内容を通じてオフィスでの基本を身につけさせる。 労働基準法の内容を取り扱い、働くということが法的な観点から見てどのようなものなのかを理解させる。					
学 習 方 法	座学による学習。單元ごとに問題を与え、理解度を図る。					
評 価 の 観 点 ・ 評 価 方 法	規定に従い、一学期、二学期、三学期とも定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点は観点別評価による。					
使 用 教 材	自主教材テキスト『ビジネスマナー』					
そ の 他	原則的に補習は行わない。 秘書検定3級取得を目指す。					
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	身だしなみ オフィス環境	望まれる身だしなみ 室内清掃、環境整備	6	・服装全般を中心に職場において望まれる身だしなみについて理解させる。 ・応接室、会議室など清掃、整備のポイントを理解させる。	始業式	
5	オフィス用品 文書	ファイリングと資料管理 名刺の管理 主な事務用品 各種消耗品 受発信文書 マル秘文書の取り扱い	8	・資料や名刺の管理に必要な道具と整理の仕方、資料管理の重要性について理解させる。 ・基本的な文書構成、文書の取り扱いについて理解させる。	中間考査	
6	郵便物 対話・言葉遣い 電話応対	各種郵便物 特殊取扱郵便物 尊敬語 謙譲語 電話のかけ方、受け方	8	・各種郵便物の特徴、特殊取扱郵便物の種類と特徴について理解させる。 ・敬語の種類と使い分けについて理解させる。 ・電話応対の注意点を理解させる。		
7	慶弔・贈答	慶事、弔事 各種贈答	4	・各種慶弔・贈答に必要な知識、注意事項を理解させる。	期末考査 終業式	
8	来客応対	席次 上司不在の場合 茶菓接待	2	・来客の応対に必要な注意点について理解させる。	始業式	
9	会議とその準備 出張とその準備	事前準備と後始末 出張における秘書の仕事	8	・会議における秘書の役割について理解させる。 ・出張時の秘書の仕事について理解させる。		
10	検定練習	過去問練習	8	・実問題集を用いて検定試験に備える。	中間考査	
11	検定練習 慶弔	過去問練習 金子包の上書き練習	8	・実問題集を用いて検定試験に備える。 ・慶弔時に使用する金子包に毛筆で表書き練習し、綺麗な文字が書けるようにさせる。	秘書検定	
12	検定練習	過去問練習	6	・実問題集を用いて検定試験に備える。	期末考査 終業式	
1	検定練習	過去問練習	6	・実問題集を用いて検定試験に備える。	始業式	
2	検定練習	過去問練習	8	・実問題集を用いて検定試験に備える。	期末考査	
3	検定練習	過去問練習	6	・実問題集を用いて検定試験に備える。	終業式	

教科名	商 業	科目名	ビジネスマナーⅠ	単位数	2 単位	
対 象 学 年	第 2 学 年 総合選択コース 情報関連選択		履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	社会に出れば学生時代とは異なり、責任と義務が大きくなる。社会では常に全力をつくして仕事に取り組まなければならない。学生時代に社会人として必要なマナーと知識を習得させ、身につけ実践させることにより、ビジネスの諸活動が快適かつ意欲的に過ごせるよう学習させる。					
学 習 内 容 の 要 概	秘書検定の内容を通じてオフィスでの基本を身につけさせる。 労働基準法の内容を取り扱い、働くということが法的な観点から見てどのようなものなのかを理解させる。					
学 習 方 法	座学による学習。單元ごとに問題を与え、理解度を図る。					
評 価 の 観 点 ・ 評 価 方 法	規定に従い、一学期、二学期、三学期とも定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点は観点別評価による。					
使 用 教 材	自主教材テキスト『ビジネスマナー』					
そ の 他	原則的に補習は行わない。 秘書検定3級取得を目指す。					
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	身だしなみ オフィス環境	望まれる身だしなみ 室内清掃、環境整備	6	・服装全般を中心に職場において望まれる身だしなみについて理解させる。 ・応接室、会議室など清掃、整備のポイントを理解させる。	始業式	
5	オフィス用品 文書	ファイリングと資料管理 名刺の管理 主な事務用品 各種消耗品 受発信文書 マル秘文書の取り扱い	8	・資料や名刺の管理に必要な道具と整理の仕方、資料管理の重要性について理解させる。 ・基本的な文書構成、文書の取り扱いについて理解させる。	中間考査	
6	郵便物 対話・言葉遣い 電話応対	各種郵便物 特殊取扱郵便物 尊敬語 謙譲語 電話のかけ方、受け方	8	・各種郵便物の特徴、特殊取扱郵便物の種類と特徴について理解させる。 ・敬語の種類と使い分けについて理解させる。 ・電話応対の注意点を理解させる。		
7	慶弔・贈答	慶事、弔事 各種贈答	4	・各種慶弔・贈答に必要な知識、注意事項を理解させる。	期末考査 終業式	
8	来客応対	席次 上司不在の場合 茶菓接待	2	・来客の応対に必要な注意点について理解させる。	始業式	
9	会議とその準備 出張とその準備	事前準備と後始末 出張における秘書の仕事	8	・会議における秘書の役割について理解させる。 ・出張時の秘書の仕事について理解させる。		
10	検定練習	過去問練習	8	・実問題集を用いて検定試験に備える。	中間考査	
11	検定練習 慶弔	過去問練習 金子包の上書き練習	8	・実問題集を用いて検定試験に備える。 ・慶弔時に使用する金子包に毛筆で表書き練習し、綺麗な文字が書けるようにさせる。	秘書検定	
12	検定練習	過去問練習	6	・実問題集を用いて検定試験に備える。	期末考査 終業式	
1	検定練習	過去問練習	6	・実問題集を用いて検定試験に備える。	始業式	
2	検定練習	過去問練習	8	・実問題集を用いて検定試験に備える。	期末考査	
3	検定練習	過去問練習	6	・実問題集を用いて検定試験に備える。	終業式	

教科名	商 業	科目名	文書デザイン	単位数	3単位
対 象 学 年	第2学年 総合選択 情報	履修形態	必修	授業形態	実 習
科 目 の 目 標	文書作成にかかわる専門知識を習得する。 タッチタイピングの技術を習得する。 文書作成ソフトの操作技術を習得する。				
学 習 内 容 の 要 概	文書作成ソフト(Microsoft Word)を用いて様々な文書を作成する。 文書作成ソフトの操作について基本から応用まで学習する。				
評 価 の 観 点 ・ 評 価 方 法	授業中の課題・実習などの提出状況及びその内容 授業に対する取り組み方 定期考査の得点と出席状況				
使 用 教 材	自主教材				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	キーボードの操作	キーボードと指の分担 ファンクションキー 数字・記号・特殊文字 漢字変換・保存・印刷	9	コンピュータの起動から終了までの基本的な操作と、簡単な文字の入力保存・印刷の操作を学習する。	始業式
5	文書の編集	文字の修正・移動・コピー ページレイアウトの設定 文字書式 段落書式	9	基本的な操作と、それを活用した文書の作成をする。 基本的な作表機能を学習し、習得させる。	中間考査
6	表の作成と編集	インデント タブとリーダー 箇条書きと段落番号 表作成	12		期末考査
7		表の編集	9		終業式
8		表の編集	3		応用的な作表技術を学習し、習得させる。
9		表の編集	12		
10	グラフィックス	テキストボックス 図形の作製 ワードアート クリップアート	12	様々なグラフィックスを学習し、効果的な文書を作成できるようにする。	中間考査
11	書式設定	文字列とオブジェクトの配置 ドロップキャップ 書式スタイル 段組み	12	様々な編集機能を学習し、効果的な文書を作成できるようにする。	期末考査
12	図表とグラフ	セクション区切り SmartArt グラフィック グラフの作成	9	与えられたデータを参考にし、Excelを活用したグラフの作成をする。	終業式
1	応用	文書作成応用	9	目的に応じたさまざまな文書の作成ができるようにする。	始業式
2	応用	文書作成応用	12		期末考査
3	応用	文書作成応用	9		終業式

教 科 名	商業	科 目 名	総合デザイン		単 位 数	4単位
対象学年	2 学年普通科アート群		履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標	デザインの基礎・表現・実際に学習・習得します。					
学習内容	衣食住に必要なデザインを学びます。					
学習方法	基礎的技術をもとに実習・制作を行います。					
評価の観点 評価方法	規定に従い、中間・期末の考查点と平常点・出席点で評価する。平常点については授業中の態度・姿勢・提出物の状況を客観的に判断し評価する。					
使用教材	日本色研「カラー&ライフ」					
その他	補習（進度・習熟度に応じて実習中心に補習を行う）					
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学習内容	時間	学習のポイント	学校行事	備考
4	造形の基礎	デザインとは、何かを学ぶ	1 4	デザインがもたらすものを理解させる	始業式	
5	造形の要素	形態・色・材質感・空間・時間	1 6	造形の要素を理解させる	中間考查	
6	造形の構成	構成の基本	1 4	数理的秩序・調和を理解させる		
7	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	1 0	観察から表現する	期末考查 終業式 夏期講座	
8	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	1 0	観察から表現する	始業式	
9	メッセージと表現	記号による意味	1 4	表現アイデアの手法		
1 0	身近な生活のデザイン	自分をデザインする	1 6	自分をデザインする	中間考查	
1 1	身近な生活のデザイン	学校をデザインする	1 4	学校をデザインする		
1 2	身近な生活のデザイン	学校を情報化する	1 0	学校を情報化する	期末考查 終業式	
1	知らせるデザイン	広告ポスターを作る	1 0	作品完成・発表	始業式 卒業考查	
2	知らせるデザイン	手紙をデザインする	1 4	手紙をデザインする	期末考查	
3	応用デザイン	学級新聞をデザイン	1 4	作品完成・発表	卒業式 終業式	

教科名	商業科	科目名	商業技術	単位数	2 単位
対象学年	第2学年 総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	電卓の機能を応用し、様々な計算方法を身につけさせるとともに、全国商業高等学校協会主催ビジネス計算実務検定試験において2級の資格取得を目指し、その後1級の内容の説明を進める。				
学習内容の概要	教師の操作方法についての説明の後、与えられた問題を解いていく。				
学習方法	プリント、テキストにある問題を電卓を用いて段階的に解いていく。				
評価の観点・ 評価方法	授業時のプリント、テキストの進行状況、定期考査の成績 商業科の観点別評価に従い、主体的に学習に取り組む態度を見て評価する。				
使用教材	本校指定の電卓 実教出版「ビジネス計算実務検定模擬試験問題集2級」 教員作成プリント				
その他					
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	電卓の基礎知識と機能説明	電卓の各部位の説明	7	普段使用しないが覚えると便利な機能について説明し、理解させる。	始業式、入学式
5	検定学習	ビジネス計算実務検定 普通計算 乗算・除算	6	全国商業高等学校協会主催ビジネス計算実務検定2級で出題される乗算・除算問題の解き方について説明し、理解させる。	
6	検定学習	ビジネス計算実務検定 普通計算 見取算	7	全国商業高等学校協会主催ビジネス計算実務検定2級で出題される乗算・除算問題の解き方について説明し、理解させる。	
7	検定学習	ビジネス計算実務検定 ビジネス計算	5	全国商業高等学校協会主催ビジネス計算実務検定2級で出題されるビジネス計算問題の解き方について説明し、理解させる。	期末考査、終業式
8	検定学習	ビジネス計算実務検定 ビジネス計算	3	ビジネス計算について復習もかねて扱い、理解させる。	始業式
9	検定学習	ビジネス計算実務検定 ビジネス計算 普通計算・伝票	10	伝票はプリント学習とは違うため、よく説明し、解き方について理解させる。	
10	検定学習	ビジネス計算実務検定 模擬問題	8	実践的な授業を展開し、習熟させる。	中間考査、学校祭
11	検定学習	ビジネス計算実務検定 模擬問題	7	検定試験が行われる月でもあるので、実践的な授業を展開し、習熟させる。	全商ビジネス計算実務検定期末考査
12	検定学習	ビジネス計算実務検定 普通計算	5	全商協会主催ビジネス計算実務検定2級から1級の普通計算の方法は同じなので桁、数字の打ち間違いに気をつけさせ練習させる。	終業式
1	検定学習	ビジネス計算実務検定 ビジネス計算	6	全商協会主催ビジネス計算実務検定1級のビジネス計算をプリントを使用し、単元ごとに説明していく。	
2	検定学習	ビジネス計算実務検定 ビジネス計算	8	全商協会主催ビジネス計算実務検定1級のビジネス計算をプリントを使用し、単元ごとに説明していく。	期末考査
3	検定学習	ビジネス計算実務検定 ビジネス計算	6	全商協会主催ビジネス計算実務検定1級のビジネス計算をプリントを使用し、単元ごとに説明していく。	終業式

教科名	商 業	科目名	OA演習	単位数	3
対象学年	第2学年 総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	実技
科目の目標	Microsoft Word、Excel、PowerPointの基礎的な操作方法を身につける				
学習内容の概要	文書作成、表計算、プレゼンテーションに必要な技術を身につける				
学習方法	コンピュータ室における実技が中心となる				
評価の観点・評価方法	規定に従い、中間・期末の考查点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価とし、知識・技能・思考・判断・表現・主体的に学習に取り組む姿勢を客観的に判断し、20点満点で評価する				
使用教材	30時間でマスターWord&Excel2016 自主制作プリント等				
その他					

年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	Wordによる 文書作成	タイピング練習	15	短文にはじまり長文に至るまでの文字のタイピングを行い、キーボードによる入力操作に慣れる	入学式
5					中間考查
6		ビジネス文書作成	20	実用的な通信文書を作成させる中で、ビジネスマナーに繋がる内容についても取り扱う	期末考查
7					終業式
8	Excelによる表計算	シートへのデータ入力	8	シートヘデータを入力するとともにセル幅の調整やセルの結合の仕方などを身につけさせる	始業式
9		グラフの作成	10	入力した数値をもとに様々なグラフの作成をおこなう	
10		関数	25	様々な関数を取り扱い、その機能について理解する	中間考查
11					期末考查
12	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成	PowerPointの基本操作	4	文字の入力と編集について取り扱う	終業式
1		グラフや図形の挿入	15	グラフや図形を挿入するとともに、体裁についても留意する	始業式
2		プレゼンテーション	20	プレゼンテーションにおける基本事項を押さえ、各自のプレゼン資料を作成させる	学年末考查
3					終業式

教科名	家庭	科目名	服飾手芸	単位数	2単位
対象学年	第2学年 総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	実習
科目の目標	手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	さまざまな技法を用いた手芸作品の製作				
学習方法	①主体的に授業に取り組むようにする。 ② 計画的な手芸品製作が出来るようにする。				
評価の観点・ 評価方法	・評価の観点は①服飾手芸への関心、意欲、態度 ②生活課題を主体的に解決するために思考、判断 ③基礎的、基本的な技術の習得状況 ④知識、理解 の4項目とする。 ・評価の方法は、作品の評価、実習への参加、態度などを各学期ごとにまとめる。また、授業中の学習態度、出席状況について考慮し、総合的に評価する。				
使用教材	各種手芸材料				
その他	期限内に作品を完成し提出するようにする。				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	オリエンテーション	手芸の種類と変遷 手芸の用具・作業の注意点	3	・手芸の種類や歴史等について理解する。 ・用具の種類と使い方を理解する。 ・特に安全に留意することを確認する	始業式
	さしこの鍋つかみ	運針の基礎	7	・玉止め、運針、玉結びなど運針の基礎を習得する。	
5	ティッシュボックスカバー	ミシン縫いの基礎	4 2	・裁断・しるしつけの方法を習得する。 ・待ち針、しつけ、ミシン縫いの一連の基礎を確認する	中間考査
6	お昼寝枕	ぬいぐるみの基礎	2 6	・型紙を正確に写す ・裁断・しるしつけの方法を習得する。 ・待ち針の正しい打ち方を習得する	
7			6	・目的に合った針目で正確に縫い合わせる	期末考査 終業式 夏期補習
8		仕上げ	2	・表に響かないように返し口のしまつをする。	始業式
9	ミニトートバッグ	裏付きバッグの基礎	2 6	・裁断・しるしつけの方法を習得する。 ・手順を理解し、裏付きのバッグを仕立てる。	
10	クロスステッチ	刺繍の基礎	7 3	・クロスステッチのさし方を習得する ・ピンクッションに仕立てる。	中間考査
11	ポーチ	ファスナーつけ	2 6	・ファスナーのつけ方を習得する ・まち付きのポーチに仕立てる	
12	エコバッグ	ミシン縫い	6	・ミシンを使いこなす	期末考査 終業式
1	カードケース	紙バンド手芸	6	・紙バンドの裁断 ・底を作る ・横紐を編む ・仕上げる	始業式
2	組紐のストラップ	組紐 アクセサリ・金具の扱い方	8	・組紐を組む ・金具をつけてストラップに仕立てる	期末考査
3	切り絵	切り絵の額	4 1	・デザインカッターの扱い方	
	まとめ	感想文	1	・1年をふりかえる	終業式

教科名	家庭	科目名	生活と福祉	単位数	2単位
対象学年	第2学年 普通科 生活群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標	高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活の質を高めるとともに、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	高齢者の福祉と日常生活における看護・介護についての基礎的・基本的な知識と技術を習得させることをねらいとする。				
学習方法	教科書のみではなく、関連する資料・VTRの使用及び外部講師等による体験学習を通し、生徒に興味・関心を持たせながら、役に立つ知識や技術を身につけさせる。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点は観点別評価による。				
使用教材	生活と福祉(実教出版)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1章 人の一生と生活・健康	健康の概念	6	<ul style="list-style-type: none"> 健康とはどういう事かを知り、高齢社会における健康とQOLを高めるために必要な事を理解する。 健康に影響を及ぼす要因を知り、病気の予防の概念について理解する。 	始業式
5			7		中間考査
6		ライフステージと健康管理	7	<ul style="list-style-type: none"> 年代別にどのような健康管理が必要なのかを知り、日々の生活で考えなければいけないことを理解する。 	
7			6		期末考査 スポーツ祭 終業式
8			3		始業式
9	第2章 高齢化の現状と高齢者の特徴	高齢化の現状	8	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化について知り、家族や地域の変化がどのように関係しているかを理解する。 	
10			8		学校祭 中間考査
11		高齢者の心身の特徴と病気	8	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の心身の特徴を理解する。 高齢者がかかりやすい病気について理解する。 老化により起こる心身の変化に対し、周囲がどのように接したり配慮していくか理解する。 	期末考査
12			6		期末考査 終業式
1			6		始業式
2		高齢者の生活課題と施策	7	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会から超高齢社会へという現状を知り、高齢者の生活を支えていくためにはどうしたらいいか考える。 高齢者の経済生活や健康について知り、どのように周囲が支えていくべきか考える。 	期末考査
3			6		終業式

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	3 単位
対象学年	第2学年 普通科総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	1. 食生活と健康 2. 栄養素のはたらきと食事計画 3. 調理の基本 4. フードデザイン実習				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を通して、食生活に関する基本的な知識を身に付けるとともに、調理の実習を通して、食品の適切な扱い方や基礎的な調理技術の習得を目指す。 授業で身に付けた食生活に関する知識や技術を日常生活の中で生かし、日々の食生活の改善、充実に努める。 				
評価の観点・評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価の観点は①食生活に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得、②食生活における課題を主体的に解決するための思考、判断・表現、③食生活に関して主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。 評価の方法は、規定に従い定期考査の成績、出席状況、平常点を各学期ごとにまとめる。 				
使用教材	フードデザイン(実教出版)、課題プリント				
その他					

年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	食生活と健康	食事の意義と役割	3	食事の意義・役割には生理的役割、社会的役割があることを理解する。現在の食生活の問題点を理解するとともに、自らの食生活を見直す。実習に先立ち、実習室の使用方法、調理器具の扱い方、基本的な調理操作を理解する。	始業式
	調理の基本	食をとりまく現状	4		
		調理操作	2		
		フードデザイン実習について	2		
5	フードデザイン実習 (実習施設の 使用状況により 適宜実施)	フードデザイン実習①	3	簡単な日常食の調理方法を理解する。	中間考査
	栄養素のはたらき と食事計画	からだのしくみと食べ物	3	人体の物質組成について理解する。5大栄養素の3つの主な働きを復習する。身近な食べ物に含まれる栄養素やその量を通して、各栄養素の種類、はたらき、代謝を理解する。	
		炭水化物	7		
6		脂質	5		
		フードデザイン実習②	3	簡単な日常食の調理方法を理解する。	期末考査
		たんぱく質	4		
7		ビタミン	4	簡単な日常食の調理方法を理解する。	
		ミネラル	4		終業式
8		水・その他の物質	3	簡単な日常食の調理方法を理解する。	始業式
9		消化と吸収	7	からだのしくみを通して、各栄養素の消化・吸収・排泄について理解する。	中間考査 学校祭
		フードデザイン実習③	3	簡単な日常食の調理方法を理解する。	
10		食事摂取基準と食事計画	9	栄養所要量について学び、自身の所要量を計算することにより理解を深め、また、日本人の食事摂取状況の問題点を考える。	
11			8	食品構成を理解し、実際の献立作成に生かす。	
		フードデザイン実習④	3	簡単な日常食の調理方法を理解する。	期末考査
12		ライフステージと栄養計画		各ライフステージにおける生理的特徴と食生活における注意点、問題点を理解し、実際の食事計画に生かす。	終業式
		乳児期の栄養計画	3		
		幼児期の栄養計画	3		
		フードデザイン実習⑤	5	簡単な行事食の調理方法を理解する。	始業式
1		幼児期の栄養計画	3		
		学童期の栄養計画	3		
		フードデザイン実習⑥	3	簡単な日常食の調理方法を理解する。	期末考査
2		思春期・青年期の栄養計画	3		
		成人期の栄養計画	3		
		高齢期の栄養計画	4		
		フードデザイン実習⑦	3	簡単な日常食の調理方法を理解する。	期末考査
3		実技テスト	2	包丁の扱い方などの基礎的技術の習得を確認する。	卒業式
		フードデザイン実習⑧	3	簡単な菓子の調理方法を理解する。	終業式
		まとめ	2		

教科名		家庭	科目名		子どもの発達と保育	単位数	2 単位
対象学年		第2学年 普通科総合選択コース 生活関連選択		履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標		子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。					
学習内容の概要		1、子どもの発達の特性 2、子どもの発達の過程 3、子どもの生活 4、子どもの保育 5、子どもの福祉					
学習方法		・教科書を基にした講義や保育に関する実習を通して、子どもの心身の発達の特性や過程及び保育に関する知識や技術の習得を目指す。 ・授業で身に付けた保育に関する知識や技術を保育体験実習や日常生活での子どものふれあいの中で生かし、子育て支援に寄与する能力と態度を養うことを目指す。					
評価の観点・評価方法		・平常点の評価の観点は①子どもの発達や保育に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得、②生活課題を主体的に解決するための思考・判断・表現、③子どもの発達と保育に関して主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。 ・評価の方法は、規定に従い定期考査の成績、出席状況、平常点を各学期ごとにまとめる。					
使用教材		・子どもの発達と保育(実教出版) ・課題プリント					
年間授業計画							
月	項目	学習内容		時間	学習のポイント		主な学校行事
4	子どもの発達の特性	1、発達と乳幼児期の意義 2、発達と保育環境 3、児童観と発達観		6	・人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であること、親を中心とした身近な人とのかわりにより心が安定し、考え方・感じ方・行動の仕方などが発達していくことを理解する。 ・児童観、発達観は時代背景などにより変化していること、子どもの人権が保障されるようになった経過を理解する。		始業式
	子どもの発達の過程	1、子どもの発育		10	・胎児の発育について理解し、生命誕生にかかわる母体環境の重要性を知る。		
5					・乳幼児の身体発育の特徴と傾向、生理的特徴、養護の重要性を理解する。 ・発育の評価方法を学び、乳幼児期は発育の個人差が大きいことを理解する。		中間考査
6		2、子どもの精神発達		4	・発達における方向性や順序性の共通性を理解する。 ・精神発達の特徴を学び、乳幼児期が人格形成上重要な時期であることを理解する。 ・精神発達のためには、外界からの刺激、特に保育者からの働きかけと意欲を高める環境作りが大切であることを理解する。		
		3、人間関係の発達		3	・乳幼児期は、特に基本的人間関係の樹立のために「愛着」が重要であり、子どもの「泣く」「笑う」などの行動に適切にこたえることの大切さを理解する。 ・家族や友だちなど多くの人とのかわりによって人間関係を広げ、自立し社会的な態度を身につけていくことを理解する。 ・「第一反抗期」と「自我」について考え、子どもの問題行動と家庭環境とのかわりを理解する。		
	子どもの生活	1、生活と養護		12	・乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し、順調な成長を促す上で、発育・発達に応じた養護が必要なことを理解する。		期末考査
7					・乳幼児の食生活は発育や発達に及ぼす影響が大きいことを学び、母乳栄養や離乳食の重要性を理解する。		終業式
8					・乳幼児の衣服や寝具について、身体的特徴を踏まえ、何を選択したらよいか理解する。		始業式
9		2、子どもの遊び		5	・乳幼児は遊びを通して発育・発達することを理解し、保育者が発達に合わせて遊びをはたらきかけることの大切さを学ぶ。		
		3、生活習慣の形成		4	・生活習慣形成の意義と重要性を理解し、乳幼児の個人差に配慮すること、基本的な生活習慣を身につけるためには、家族や保育者の援助が必要であることを学ぶ。 ・社会的生活習慣は、社会のルールや、人とのかわりの中で身につけていくことを理解する。		
10		4、健康管理と事故防止		8	・日常の健康状態の観察など、乳幼児の健康を守るための保護者の役割、乳幼児の病気の特徴や定期健康診査、予防接種などについて理解する。 ・乳幼児の成長段階における事故の実態と原因などを学習し、安全教育のために保育者が努めなければならないことを理解する。		中間考査 学校祭
	子どもの保育	1、保育の意義と重要性		3	・保育の目標は、適切に養護しながら教育的にかかわることであり、子ども自身の成長・発達と援助、養護することであることを理解する。 ・子どもが育つ環境の変化を資料などをもとに学び、子どもにとって望ましい環境とは何かを考える。		
11		2、家庭保育と集団保育		3	・家庭保育と集団保育のそれぞれの特徴や役割を学び、子どもの成長・発達に両方が必要であることを理解する。 ・幼稚園と保育所・認定こども園について学び、集団保育の課題について理解する。		期末考査 終業式 始業式
12		3、保育の方法		12	・集団保育の実習を通して、乳幼児の生活や行動などを観察し、適切なかわり方を身につける。		
1	子どもの福祉	1、子どもの福祉		4	・児童福祉の理念や法律、制度について学び、単に保護するのみではなく、次代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解する。 ・児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家庭に対する社会的援助について理解する。		期末考査
2		2、子育て支援		4	・児童をとりまく環境の変化や子育て支援の現状を知り、子育て家庭に対する社会的支援を充実させる必要があることを理解し、子育て支援の課題と展望を考える。		
3							

教科名	情報	科目名	アルゴリズムとプログラム	単位数	2
対象学年	第2学年 普通科総合選択コース 情報関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標	アルゴリズムの基礎を理解し、流れ図及びプログラム言語で表現する。また、アルゴリズムの基礎を理解させ、簡単なプログラムを作成できるようにする。第3学年での「課題研究」の基礎を担う教科とする。				
学習内容の概要	アルゴリズムの知識・技術を通して、自ら課題を見つけ、考え・判断・行動し、問題を解決するなど、将来に亘り、ビジネスを実践するための基礎・基本の育成する。				
学習方法	アルゴリズムを通して論理的に問題解決するための知識と技法を習得させたのち、コンピュータを使用して実習課題を行い理解をさらに深めていく。また、成長著しい新たなIT分野への実践を通して最新の技術・プログラム言語を学ぶ。				
評価の観点・評価方法	各学期末に筆記試験もしくは課題提出をおこなう。実習課題は、本校の内規に定める平常点(20%)の部分を実習点(20%～30%)とし、作品、意欲、態度を総合的に評価する。				
使用教材	実教出版「アルゴリズムとプログラム」、その他各種プリント				
その他					
年間授業計画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	オリエンテーション	・オリエンテーション	6	情報教室の利用方法、パソコンの起動・終了方法などを学ぶ。その後、Scratchを利用し体感的に簡単なソースを作成する。	入学式
5	第1章 アルゴリズムの 基礎	・アルゴリズムの基本要素 ・処理手順の図式化	12	簡単な事例を基に、アルゴリズムについて学ぶ。基本制御構造を図で表現する。構造化定理の意味と基本制御構造(順次構造、選択構造、繰り返し構造)について学ぶ。	中間考査
6					期末考査
7	第2章 プログラムの基礎	・いろいろなプログラム言語	16	Scratchを利用し、基本的なアルゴリズム的思考で簡単な実例を基に流れ図・プログラムを作成する。	終業式
8					始業式
9					
10	第3章 プログラミング	・配列 ・関数 ・応用プログラム	10	変数と配列を用い、1次元配列、2次元配列を学習していく。また、関数を利用し、主プログラムと副プログラムを組めるよう知識を定着させる。	中間考査
11	第4章 数値計算の基礎	・基本的な数値計算 ・アルゴリズムの工夫	14	アルゴリズム的思考から数的処理を活用し、プログラムを作成する。その際、タブレット端末(Apple・iPad)も活用し、知識を広げていく。	期末考査
12					終業式
1	第5章 データ構造	・基本的なデータ構造 ・リスト ・探索 ・プログラム	20	タブレット端末(Apple・iPad)を活用し、知識を応用し、プログラムを作成し、実際に動作を確認していく。その際、デバッグを行い、修正していけるよう学習する。	始業式
2	総復習				学年末考査
3					終業式

教科名	体育	科目名	スポーツ概論	単位数	2 単位
対象学年	第2学年 普通科	履修形態	選択	授業形態	講義
科目の目標	「スポーツ」に関する基礎知識を学習し、生涯を通してスポーツにかかわることができる能力を育てる。				
学習内容の概要	身体に関しての基本的な構造と一般的なトレーニング方法。また、「スポーツ」に関係する事について学習する。				
学習方法	講義のかたちを中心とし、実技や外部講師の先生を招き学習する。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも筆記試験、観点別評価、出席点での評価とする。				
使用教材					
その他					
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	オリエンテーション トレーニング科学Ⅰ	身体測定① 身体の構造	2 2 2	自らの身体部位についての理解を深め、現在の状態を理解する。	始業式 新入生オリエンテーション
5		▪ 骨格・関節・筋肉・腱について 筋収縮のエネルギー供給 筋力トレーニングの基礎	2 2 2 2	身体を形作る各構造を理解する。 身体活動のもととなるエネルギー供給を学習する。	中間考査
6	スポーツ心理学Ⅰ	バイオメカニクス① あがり	2 2 2 2	心理的な要因によって、競技力が低下することを理解したうえで、それを克服することが出来ることを学習する。	期末考査
7	スポーツ選手に 発生しやすい疾病	熱中症・過換気症候群・貧血	2 2 2	スポーツ選手に起こりやすい疾病を理解し、その対処を学習する。	終業式 夏期補習
8					始業式
9	トレーニング科学Ⅱ	身体測定②	2		
10		トレーニング実践 ▪ トレーニング計画 ▪ 筋力・パワー・筋持久力 スピードトレーニング	2 2 2 2	各種の筋力トレーニング等を学習し、実践する。このことにより、自身が係わる競技のトレーニングを補完することが出来るように学習する。	学園祭 中間考査
11		▪ コンディショニング バイオメカニクス② ▪ 数種目の活動から	2 2 2 2	専門の種目の構造の理解を深める。	
12	スポーツ心理学Ⅱ	発達心理 行動と動機 メンタルトレーニング特別授業	2 2 2 2	競技活動によって起こる自身と周囲の変化や期待を客観的に学習する。	期末考査
1		イメージトレーニング 身体測定③	2 2 2	メンタルトレーニングについて、外部講師を招く。	終業式
2	スポーツによる外傷	各部位別の外傷 種目における特性	2 2 2	スポーツ活動をするにあたり、起こりやすい外傷とその対処、応急処置を学習する。	始業式
3		応急処置	2 2		入試
4	スポーツ社会	スポーツと文化・社会	2	スポーツ活動は実際に活動すること	期末考査
5		生涯スポーツ 身体測定④	2 2 2	だけではなく、観る・携るなどの面からもスポーツ活動をとらえることができるように学習する。	終業式

教 科 名	美術	科 目 名	素描		単 位 数	3 単位
対象学年	2 学年普通科アート群		履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標	デッサンの基礎・表現・実際を学習・習得します。					
学習内容	デッサンに必要な技法を学びます。					
学習方法	基礎的技術をもとに実習・制作を行います。					
評価の観点 評価方法	規定に従い、中間・期末の考查点と平常点・出席点で評価する。平常点については授業中の態度・姿勢・提出物の状況を客観的に判断し評価する。					
使用教材	デッサンの基本 (ナツメ社 Art マスター)					
その他	補習（進度・習熟度に応じて実習中心に補習を行う）					
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学習内容	時間	学習のポイント	学校行事	備考
4	素描の基礎	デッサンとは、何かを学ぶ	1 2	デッサンがもたらすものを理解させる	始業式	
5	素描の要素	形態・色・材質感・空間・時間	1 2	造形の要素を理解させる	中間考查	
6	素描の構成	構成の基本	1 2	数理的秩序・調和を理解させる		
7	観察から表現	観察 表現の課程と技法	8	観察から表現する	期末考查 終業式 夏期講座	
8	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	8	観察から表現する	始業式	
9	素描と表現	素描による表現	1 2	表現アイデアの手法		
1 0	身近な生活とデッサン	自分自身をデッサンする	1 2	自分自身をデッサンする	中間考查	
1 1	身近な生活とデッサン	静物をデザインする	1 0	静物をデッサンする		
1 2	身近な生活のデッサン	石膏をデッサンする	1 0	石膏をデッサンする	期末考查 終業式	
1	自由制作	自由制作（デッサン）	8	作品制作	始業式 卒業考查	
2	自由制作	自由制作（デッサン）	8	作品制作	期末考查	
3	作品制作	自由制作（デッサン）	6	作品完成・発表	卒業式 終業式	

教 科 名		美術	科 目 名	アートⅠ		単 位 数	4 単位
対象学年		2 学年普通科アート群		履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標		デザインの基礎的内容を中心に商業技術の習得を目指します。					
学習内容		デザインを中心に実用的なアートの基礎知識と技術を学びます。					
学習方法		基礎的技術を習得するために講義と実習を併用して行います。					
評価の観点 評価方法		規定に従い、中間・期末の考查点と平常点・出席点で評価する。平常点については、授業中の態度・姿勢・提出物の状況を客観的に判断し評価する。					
使用教材		実教出版「商業技術」・アイシー「ART KIT」マンガ・イラストの描き方 日本色研「カラー＆ライフ」・日本色研「色彩」					
その他		補習（進度・習熟度に応じて実習中心に補習を行う）					
年 間 授 業 計 画							
月	項 目	学習内容	時間	学習のポイント		学校行事	備考
4	デザインの基礎	色々な商業デザイン デザインの領域 デザインの実際	1 4	企業活動とデザイン 表現の方法 実務調査		始業式	
5	色彩の基礎	色の美しさの認識 衣食住と色彩 造形学習	1 6	表現する喜び 色彩の大切さ 例題の作成【デッサン】		中間考查	
6	マンガの描き方	漫画の基本 イラストの描き方	1 6	マンガの基本 例題学習			
7	イラスト実習 陶芸学習	イラスト実習 陶芸体験	1 2	イラスト応用 ポスターの基礎学習 専門学校にて学習		期末考查 終業式 夏期講座	
8	グラフィック D	視覚の平面化学習	6	ポスターの基礎・例題		始業式	
9	グラフィック D	視覚の平面化学習	1 6	ポスターの制作			
1 0	デザインの制作	CD ジャケット作成	1 4	表紙デザイン		中間考查	
1 1	デザインの制作	自分の名前デザイン 自分の名刺デザイン	1 5	文字の基本 ラフデッサン			
1 2	プロダクト D	立体デザインの基礎	1 4	立体造形学習（粘土） パッケージデザイン		期末考查 終業式	
1	プロダクト D	立体デザインの応用	1 0	立体造形学習（粘土） カードデザイン		始業式 卒業考查	
2	プロダクト D	立体デザインの制作	1 4	造形学習（作図）試作		期末考查	
3	プロダクト D	立体デザインの完成 シルバージュエリー	1 4	中間発表・最終決定 銀粘土造形（完成）		卒業式 終業式	